

英國 如溫遜氏原著

日本 河田清彦譯述

# 刺世拉斯史釋義

真譯附

京麗書肆 文港堂出版



特20  
461

英國如望遜氏原著

日本河田清彦譯述

# 刺世拉斯史釋義

直譯附

京龍書肆 文港堂出版

日本河田清彦譯述

クラインの傳釋義

ヘステインのクス釋義

ヒラセラスの史釋義

價目

全一冊 十五圓

原價

全一冊 十四圓

直譯附

全一冊 十四圓

有クテイイブハステイイカスニ書ハ英國ノ文傑ト侯氏ノ全篇ニシテラス史ハ又同感ノ  
物作メ家々ヨソソク氏ノ主筆ナリ方今該三書ノ世ニ行ハルハ一頓ハ大ナル以テ原稿復  
々其書ノ貴價アルヲ思フハ是大方諸君子ノ故ニ業ニ認メタル所ナルヲ知レハ今之  
レ等譯述ヲ河田清彦先生ニ請ヒ弊館出版ノ端ヲ負フ而シテ此ノ譯書ノ特ニ貴クベキ所書  
ト直譯トヲ併セ具ハカルニアリ希クハ世ノ原書研究者無二ノ良參考材ヲラス也

近刻廣告

英國キヤーンズ氏原著 河田清彦譯述

應用中等算數學

全三冊 定價一冊二拾圓

本書ハ英國中等教育ノ高標準ニ於テ用ク用ヒラレタル代數學ト同ク原著者ノ手ニ成リ全部  
十九編ニ分テ算數ノ諸定理ヲ平易簡短ニ証明シ其教育上實用トシテ意ヲ用ヒ新奇  
ナル水メ高向ニ進セズニシテ中等教育ニ適シシムルヲ目的トシテ著ハサレタルモノナリ  
我國ニ於テ數理教學ノ實地教材ニ成キテ充分ノ經驗ヲ以テ我國ノ教育者ニ適スル



### 例言並ニ目次

本書は第十八世紀の泰西文壇にこの人ありと聞ゆる傑筆將軍英のサミュエル・ジョンソンが著したる亞比斯尼亞皇子刺世拉斯ものがたりを譯したるものにて其目的とせんとする原書研究の参考に供ふるにあれば譯語の如き最も妥當なるを擇び釋義の如きもわざとなる文飾を用ゐせして只管原文の意をわやまらざらむとのみ勵めぬたゞし譯者の淺學不文なる原文の婉麗流暢をあらはし得ざるのみあらば粗漏杜撰も亦多かるべきが看る人幸ひにそれらを咎め唯參考書の參考書たるに背かざらむを勵めたる其注意をのみ味はひたまはむとを 伏して乞ふ

書中こまやかなる文字もて低く列ねたるは直譯文なり他とすべて釋義文ありたゞし註釋文の挿入したる所もあれど其は別に符を施したれば能く別るべし  
例之ばイムラックの如く文字の右側に單柱を施したるは人名あり埃及の如く雙柱と附したるは山川國郡都邑等の名稱ありたゞし Baselas を刺世拉斯 Abyssinia を亞比斯尼亞の如く漢字もて記したるものは此等の符を施さぬもありされど最初に出でたるものには必し附しあればそれにて知らるべし又此等の符を施さば限りならざる原語には「」符を附して區別す

直譯文中間々（）符を上下に附して括れるものあるは原文の二度讀みかへすべき所を示したるなり其他あるべきだけ別り易さやう種々注意したる點あれどくゞしければこゝに



は省さつ

よて本巻中録とる

- 其一 溪間の宮殿
- 其二 幸溪に於ける刺世拉斯の不満
- 其三 刺世拉斯却て圓滿具備を不足とぞ
- 其四 皇子鬱悶沈思止まぜ
- 其五 皇子溪間より脱出せむと圖る
- 其六 飛行術の説
- 其七 皇子詩人に値ふ
- 其八 イムラツクの履歴 (承前)
- 其九 イムラツクの履歴 (承前)
- 其十 詩學上の論説
- 其十一 イムラツクの履歴 (承前)  
巡禮 概見
- 其十二 イムラツクの説話 (承前)
- 其十三 皇子逃出の方便を發見と

- 其十四 皇子期せ老して皇女に遇ふ
- 其十五 皇子及び皇女溪間を脱出し未暇の旅行に滿目留奇なるを覺ふ
- 其十六 皇子等一行楷露府に入り萬民各幸運に遇へるを見る
- 其十七 皇子聰穎快活なる青年輩と交る
- 其十八 皇子賢哲に値遇と
- 其十九 皇子等隱君士を訪ふの途に牧畜者の状態を探る
- 其二十 途上豪家を過つて皇子を富者乃危難を聞く
- 其二十一 閑居の幸福並に隱君士の履歴
- 其二十二 人生の幸福は自然に従ふにゐるの辨
- 其二十三 皇子其妹と觀察の事業を分擔と
- 其二十四 皇子權地の幸福を檢と

巳 上

明治二十六年一月

雪降り風寒さ夜

柳蔭亭の東廳下に

河田清彦誌す



亞比斯尼刺世拉斯史釋義 直譯付  
亞國皇子

英國 絮无遜氏原著  
日本 河田清彦譯述

溪谷ニ於テノ宮殿ノ說明



ニマテ輕信ヲ以テ傾聽シ而シテ希望ノ幻像ヲ熱心ヲ以テ追  
ヒガ幼時ノ約束ヲ遂グルデアラウ事ヲ而シテ今日ノ欠乏ガ  
レテアルデアラウ事ヲ豫期スル所ノ汝等亞比斯尼亞ノ皇子  
テ伴フ。

皇帝其人ノ領土ニ於テ水ノ祖先其者ノ恩與ガ澤山ノ流ヲ注  
獲テ世界ノ半ハテ越エテ撒布スル所ノ水ノ祖先ガ彼ノ進ミ  
ル皇帝ノ第四ノ息男デアリシ。

間ニ時代カラ時代マテ降ツタ所ノ慣例ニマテ從フ所テ刺世拉  
斯ハ相續順序ガ王位ニマテ彼ヲ呼ブデアラウマテ亞比斯尼亞皇家ノ他ノ息男及  
ヒ息女ト共ニ私宮ニ於テ禁錮サレテアリシ。

古昔ノ才智若クハ政略ガ亞比斯尼亞諸皇子ノ住居ニ向ツテ定メタリシ所ノ場所  
ハ山其レノ絶頂ガ中央ノ部分ニ傾垂スル所ノ山ニ依ツテ各ノ傍ニ於テ圍繞サレ



タルアムハラノ王國ニ於テノ廣濶ナル谷デアリシ唯一ノ通路其ニ依ツテ其ガ入  
 込マレ能ヒシ所ノ唯一ノ通路ガ岩ノ下ニ通過セシ所ノ洞穴其ニ就テ其ガ天然ノ  
 若クハ人間ノ労働ノ工作デアリシカ孰レカ、長ク争ハレテアツタリシ所ノ洞穴  
 アアリシ。洞穴ノ外部ハ繁茂セル樹ニ依ツテ封シラレテアリシ而シテ谷ニマデ開  
 キシ所ノ口ガ一人ガ器械ノ扶助ナシニ彼等ヲ開キ或ハ閉ザシ能ハザリシトホド  
 左様ニ巨大ナル古昔ノ日ノ技師ニ依ツテ鍛造サレタル鐵ノ門ヲ以テ閉ザレテ  
 アリシ。

各ノ傍ニ於テ山カラ溪流ガ降下セシ其レガ綠樹及ビ豐沃ヲ以テ谷ノ總テヲ充タ  
 セシ而シテ各ノ種類ノ魚ニ依ツテ住マハレタル而シテ天然ガ冬ニ於テ異チ夏タ  
 スベク敵ヘタ所ノ各ノ野禽ニ依ツテ見舞ハレタル湖ヲ中央ニ於テ形造リシ。此湖  
 ガ流レ其ハ北方ノ傍ニ於テ山ノ麓黒ナル溪間ニ入込ミシ而シテ其カ最早開カレ  
 テアラサリシマデ船帆カラ船帆マテ長ルベキ響ヲ以テ落チシ所ノ流ニ依ツテ其  
 ノ湛餘ヲ發流セシ。

山ノ傍ガ木ヲ以テ蓋ハレテアリシ小河ノ岸ガ花ヲ以テ區別ツケラレテアリシ各  
 ノ微風ガ岩カラ芳香ヲ振ヒシ而シテ各ノ月地面ノ上ニ果實ヲ落トセシ。野獸カ若  
 クハ馴獸カ孰レガ動物其ハ草ヲ嚼ミ而シテ灌木ヲ咀嚼スル所ノ動物ノ總テガ彼  
 等ヲ限リシ所ノ山ニ依ツテ肉食ノ獸カラ保安サレテ此獸キ師國ニ於テ彷徨セシ

一部分ニ於テハ牧場ニ於テ養フ所ノ畜群及ヒ羊群ガアリシ他ニ於テハ芝生ニ於  
 テ跳躍スル所ノ獵取ノ野獸ノ總テガアリシ。快活ナル山羊仔ハ岩ノ上ニ跳リツ、  
 アリシ、狡猾ナル猿ハ木ニ於テ雀躍シツ、而シテ嚴格ナル象ハ陸ニ於テ安臥シツ  
 、アリシ。世界ノ種類ノ總テガ一緒ニ持來タサレテアリシ天然ノ幸福ガ蒐集サレ  
 テ而シテ其ノ害惡ガ取除ケラレ且ツ投出サレテアリシ。

廣ク且ツ豐饒ナル谷ハ生活ノ必用物ヲ以テ其レノ住民ニ供給セシ。而シテ總テノ  
 快樂及ヒ餘裕ハ年々ノ訪問其ハ皇帝ガ彼ノ小兒等ニ携ヒシ所ノ年々ノ訪問ニ於  
 テ附加ヘラレテアリシ其時缺ノ門カ音樂ノ響ニマテ開カレテアリシ而シテ八日  
 ノ間谷ニ於テ住ミシ所ノ各人が注意ノ間隙ヲ充タスベク而シテ時ノ長過ギナ短  
 カクスベク幽居ヲシテ愉快ナラシムベク助ケ能ヒシ何テモ目驗見スベク要セ  
 ラレテアリシ。各ノ希望ガ直チニ與ヘラレテアリシ。快樂ノ技手ノ總テハ祝宴ヲ添  
 興スベク呼ハレテアリシ、伶人ハ合團ノカチ勵マセシ而シテ舞者ハ諸皇子ノ前  
 ニ彼等ノ能技ヲ示セシ希望其ハ彼等ガ此幸福ナル囚虜其ニマデ其等其者ノ藝能  
 ガ奢侈ニマテ新奇ヲ附加ヘルベク適當ト考ヘラレテアリシ所ノ其等ガ唯リ許容  
 サレテアリシ所ノ囚虜ニ於テ彼等ノ生活ヲ通過スルテアラシ事ノ希望ニ於テナ  
 リ。此退隱場ガ與ヘシ所ノ安全及ビ快樂ノ容狀ハ彼等其者ニマテ其ガ新タニアリ  
 シ所ノ彼等ハ其ガ永久デアリ得シ事ヲ常ニ希望セシ事ホド斯様ナルモノデアリ



シ而シテ其等其人ニ於テ鐵門ガ一度鎖サレタリシ所ノ其等ハ決シテ還ルベク免サレテアラザリシ故ニ尙長キ經驗ノ結果ガ知ラレテアラハザリシ。斯様ニシテ毎年快樂ノ新策ヲ生セシ而シテ屏居ニ向ツテ新競争者ヲ生セシ。宮殿ハ湖ノ外面ノ上凡ソ三十歩高マリタル高所ニ於テ立チシ。其等其者ニ向ツテ彼等ガ取極メラレテアリシ所ノ其等ノ位階ニマテ從フ所テ尙大ナル若クハ尙少ナル壯麗ヲ以テ營マレタル多クノ室或ハ殿ニマテ其ガ區別サレテアリシ。屋根ハ時代ニ依ツテ尙堅クナリシ所ノ漆喰ニ依ツテ接合サレタル巨大ナル石ノ穹形ニマテ轉セラレテアリシ而シテ建築物ハ修繕ノ必用ナシニ至ノ雨及ビ晝夜平分ノ颯風ヲ嘲笑シツ。百年代ヨリ百年代ニマテ立チシ。若干ノ古昔ノ役人其者ハ相續イテ場所ノ秘密ヲ讓受セシ所ノ役人ソ外誰モニマテ充分知ラレズニアルベキダケ左様ニ大キクアリシ所ノ此家ハ疑ヒ彼女自身ガ設計ヲ下知セシカノ如ク建テラレテアリシ。各室ニマテ其成ニ公ケノ而シテ秘密ノ通路ガアリシ各ノ室ハ尙上ノ層階ヨリ私ノ廊下ニ依ツテカ或ハ尙低キ室ヨリ土中ノ通路ニ依ツテカ爾餘ノモノト一致ヲ持チシ。圓柱ノ多クハ不思議ノ窟ニ其ニ於テ諸君主ノ長キ系統ガ彼等ノ財寶ヲ貯藏シタリシ所ノ窟ニ持チシ。彼等ガ然ル時ニ王ノ至極ノ必要ノ時ニ於テノ外決シテ移サレテアルベクアラザリシ所ノ大理石ヲ以テ穴ヲ封鎖セシ而シテ簿冊ニ於テ彼等ノ貯藏品目ヲ録セシ其カ其自身相續ニ於テ次ニ立チ

シ所ノ皇子ニ依ツテ伴ハレタル皇帝ニ依ツテノ外入込マレザル塔ニ於テ封鎖サレテアリシ。

### 其一 溪間ノ宮殿

凡ソ妄想ノ所談ニ輕信ノ耳ヲ敬テ熱意空中ニ樓閣ヲ畫キテ漸ク其輪奐ノ美ヲ極メムトスル輩若クハ若年ノ企圖晚年必ズ成熟シ今日ノ之缺明日定メテ補充スベキ事ヲ豫期スル輩ニシテ亞比斯尼亞皇子刺世拉斯ノ記傳ヲ讀ミ就テ考一考ヲ廻ラサハ必ズヤ思ヒ半ハニ過グルコトアリナム。

此書録スル所ノ刺世羅斯ト稱スルハ亞弗利加洲亞比斯尼亞皇帝第四ノ皇子ナリ夫ノ世界大河ノ一ニシテ水祖ノ稱アルナイル河ハ其源ヲ此皇帝ノ領域ナル亞比斯尼亞ノ山間ヨリ發シ多クノ支流ヲ分疏シテ廣ク灌溉ノ慈惠ヲ垂レ以テ亞弗利加洲中ノ一古國ニシテ亞比斯尼亞ノ北ニ位スル埃及國ノ土壤ヲ肥沃ナラシメ其產物ヲ世界ノ大半ニ散布セシムト云フ。

今此熱帶國下ノ國ナル亞比斯尼亞累代諸帝相傳ノ慣例ニ從フニ諸皇子皆登極ノ順次其身ニ及ブマテ離宮ノ内ニ幽居セシメラレザルヲ得ズ然ルニヨリテ刺世拉斯皇子モ亦此慣例ニ制セラレ他ノ皇子皇女ト共ニ所定ノ離宮内ニ養ハレヌ。蓋シ古人ノ才智若クハ政界上皇子住居ノ地トシテ定メタルハアムハラ王國ノ廣濶ナル溪間ニ在リテ其四邊連山周繞シ峯巒相對シテ中天ニ傾垂ス。而シテ此溪間ニ入ルベキ通路ハ唯殿下ヲ通セル一洞穴アルノミニシテシカモ其洞穴ハ天造ニ係ルカ將タ人工ニ成レルカ長ク不判ノ間ニ存シ未ダ曾テ其孰レナル



ヤチ斷証セシモノアラズ。洞ノ外遊ハ總テ鬱蒼タル茂林ニ封塞セラレ其内部ノ出入口ニハ  
 巨大ナル鐵門ヲ具ヘテ以テ密鎖ス而シテ此鐵門ハ皆往昔ノ治工ガ鍛造ニ係リ何人ト雖モ器  
 械ノ扶助ヲ藉ルニアラザレハ自由ニ開閉シ得ザル裝置タリ。  
 四周各所ノ山岳ヨリ幾多ノ溪流下リ爲ニ灌溉ノ惠ヲ蒙リテ到ル所綠樹蒼々青草蒼々地味頗  
 ル豊富タリ此等ノ溪流湊注シテ溪澗ノ中部ニ一湖ヲ成ス各種ノ鱗族群游シ各種ノ水禽(則  
 チ造化ガ水中ニ游泳スルヲ教ヘタルモノ)冬期中來ツテ其翼ヲ浸セリ。此湖常ニ清水渺々  
 湛餘溢レテ一條ノ流レトナリ北ニ走ツテ萬樹叢生枝葉繁鬱日影ヲ洩ラサハル溪谷ニ注入シ  
 喧々囂々訝ヲ驚カシツ、危險ヲ衝キ怪石ニ碎ケ遙ニ落下シテ遂ニ其流聲聞クベカラザルア  
 マリニ湮流シヌ。  
 向上クレハ山側茂林鬱蒼瞰下ロセハ溪澗百花爛熳微風徐ロニ崖頭ヲ吹イテ芳薰ヲ傳ヘ甘果  
 地上ニ輾落スルコト四時ニ絶エズ。群獸到所徘徊シ馴レタルモ馴レザルモ等シク四屏ノ峻  
 岳ニ阻隔セラレテ肉食獸ノ危害ヲ忘レ悠々トシテ雜草ヲ咀ミ灌木ヲ嚼ム。或ハ牧場ニ栖息  
 スル豚羊ノ群アリ或ハ芝生ニ疾驅スル野獸ノ獵狩スベキアリ。活潑ナル山羊仔ハ岩上ニ跳  
 躍シ猿點ナル獼猴ハ樹枝ニ信戲シ尊嚴ナル巨象ハ樹蔭ニ安息スル等凡ソ地球上ノ森羅萬象  
 皆此溪澗ニ送輸サレ就中天幸ヲ蒐集シテ過害ヲ逐斥ス洵ニ是レ塵外ノ樂土ト謂ヒツベキカ  
 モ。  
 斯ク豐實ニシテ廣潤ナル溪澗ハ其住民ニ給スルニ生活上各種ノ必須物ヲ以テセル上ヘ萬般

ノ歡樂ト榮曜榮華トハ亞比斯尼亞皇帝年々此溪澗ニ幽居セル皇子女ヲ訪問スル毎ニ添加サ  
 レヌ蓋シ皇帝臨御ノ時ニ方リテハ奏樂ノ美音ニ連レテ洞口ノ鐵門開カレ、爾後八日間溪澗  
 所住ノ人民ハ各自考案ヲ廻ラシテ以テ間斷ナキ且ツ永日無聊ノ感ナカルベキ歡樂快樂ヲ離  
 宮内ノ幽居者等ニ與フベク要セラレヌ。此間凡百ノ希望ハ立チドコロニ給與セラレ。各種  
 ノ藝人ハ祝醜ノ興味ヲ添ヘム爲ニ招集セラレ。伶人ハ妙技ヲ盡シテ樂調ノ微妙ヲ勵ミ舞蹈  
 手ハ各其堪能ヲ示ス蓋シ此豪華ナル遊宴ニ能ク一新興味ヲ加ヘ得ベキ藝能ヲ有スルモノニ  
 アラザルヨリハ決シテ此至幸至福ナル囚虜ノ境遇則チ離宮内奉仕ノ許容ヲ得難カルヲ以テ  
 藝人ハ皆其終生ヲ此囚虜ニ送ラムヲ希ヒ斯ク妙技ヲフルヘルナリ。何人ト雖モ一タヒ此溪  
 澗ニ足ヲ容レタルモノハ安全快樂他ニ比類ナキヲ以テ長ク此地ニ留マラムコトヲ熱望セザ  
 ルハアラズ然ルニ一旦鐵門外ニ鎖サレタラムニハ決シテ還歸スルヲ許サレザルヲ以テ永住  
 經驗ノ結果ハ更ニ知ル由アラザルナリ。斯クテ毎年快樂ノ新案生シ離宮奉仕ノ新競争者顯  
 ハル。

抑モ此溪澗ノ宮殿ハ湖面ヲ拔クコト凡ソ三十「ペース」ノ高丘上ニ峙立シ其内部ヲ許多ノ室  
 殿ニ區別シテ住者ノ位階ニ從ヒ室内ノ裝飾ヲ異ニス。屋上ハ巨石ヲ疊ミテ穹形ニ組造シ其  
 巨石ヲ接合スルニ漆喰ヲ用ユ故ニ年代ヲ經ル毎ニ愈々倍々堅牢トナリ暴雨疾風ニ遭フモ絶  
 エテ修繕ヲ加フルノ要ナク百年又百年確立不動タリ。蓋シ此宮殿ノ結構宏壯ナル事殿内ノ  
 秘密ヲ傳承セル二三古老ノ官吏ノ外何人ト雖モ充分其實況ヲ知り得ザル所ニシテ造營恰モ



疑訝其者か設計ヲ指揮シタルモノ、如シ。又殿内ノ各室皆公私ノ二通アリテ上層ノ室ヨリハ複道ニ依リ下層則チ土中ノ室ヨリハ隧道ニ依リ以テ往來スルヲ得ベク一室ト雖モ爾他ノ部室ト連絡ヲ通セザルハアラズ。又殿内多數ノ圓柱ニ孔ヲ穿テ歷代諸帝ノ財寶ヲ其中ニ貯藏シ大理石ヲ以テ之ヲ封塞ス而シテ國家危急ノ秋ニアラザレハ決シテ之ヲ開ケコトナシ又此孔中貯藏ノ財寶ハ簿冊ヲ製シテ其品目ヲ之ニ登錄シ其簿冊ハ高塔内ニ緘藏ス蓋シ此塔内國君世子ヲ從ヘテ入御セラル、ノ外一人モ足ヲ容ル、ヲ得ザル所ナリ。

第二章

幸福ナル溪ニ於テ刺世拉斯ノ不満足

此處ニ亞比斯尼亞ノ諸子及ビ諸娘ガ快樂ニマテ熟練テアリシ所ノ總テニ依ツテ伴ハレテ而シテ官能ガ樂シミ能ヒシ何テモヲ以テ満足サレテ快樂及ビ安息ノ穩和ナル閒歴ヲ知ルベクノミニ住居セシ。彼等ハ芳香ノ花園ニ於テ逍遙セシ而シテ保安ノ城砦ノ内ニ睡眠セシ。各ノ藝術ガ彼等ヲシテ彼等自身ノ位地ヲ樂シマシムベク實行サレテアリシ。彼等ヲ教訓セシ所ノ賢哲ハ公ケナル生活ノ不幸ノ外何モナ告ゲザリシ而シテ苛難ノ地方其處ニハ不和ガ常ニ暴レツ、アリシ所ノ而シテ其處ニハ人ガ人ノ上ニ食食セシ所ノ苛難ノ地方トシテ山ノ外ノ總テヲ説明セシ。彼等自身ノ幸福ニ付テノ彼等ノ意見ヲ高クスベク彼等ハ毎日歌其ノ趣意ガ幸福ナル溪テアリシ所ノ歌ヲ以テ響應セラレテアリシ。彼等ノ食慾ハ種々ノ快樂ノ厭々ナル算ヘ立テニ依ツテ勵マサレテアリシ而シテ飲酒及ビ娛樂ガ朝ノ夜明ケカ

ラタノ終焉マテ各時ノ務デアリシ。

此等ノ方則ハ概ネ成功デアリシ皇子ノ二三ガ會テ彼等ノ束縛ヲ擴大スベク希望シタリシ乍併彼等ハ彼等ノ遠シノ裡ニ技術或ハ天然ガ與ヘ能ヘシ所ノ總テヲ持チシ事ノ充分ナル信用ニ於テ彼等ノ生活ヲ通過セシ而シテ其等其者ハ運命ガ機曾ノ嘲弄及ビ不幸ノ奴隸トシテ安穩ノ此住所カラ取除ケタリシ所ノ其等ヲ憐ミシ。

斯様ニシテ彼等ハ各自ヲ以テ而シテ彼等自身ヲ以テ——刺世拉斯其人ハ彼ノ年齒ノ二十六年目ニ於テ彼等ノ娛樂及ビ會合カラ彼自身ヲ取戻スベク而シテ寂シキ散步及ビ沈黙ナル考察ニ於テ樂シムベク始メシ所ノ刺世拉斯ノ外總テ——樂シマサレテ朝ニ於テ起キシ而シテ夜ニ於テ横臥セシ。彼ハ屢々奢侈ヲ以テ蓋ハレタル食卓ノ前ニ坐セシ而シテ彼ノ前ニ置カレテアリシ所ノ美味ヲ味フベク忘レシ彼ハ歌ノ半ハニ於テ不意ニ起チシ而シテ急イテ音樂ノ響ノ外ニ退キシ。彼ノ從者ガ變化ヲ氣付ケシ而シテ快樂ノ彼ノ愛ヲ再新スベク勸メシ、彼ハ彼等ノ忠勤ヲ等閑ニセシ彼等ノ誘ヒヲ阻止セシ、而シテ樹ヲ以テ隱掩サレタル溪流ノ岸其處ニ彼カ時トシテハ枝ニ於ケル鳥ニマテ耳傾ケシ時トシテハ流ニ於テ游ブ所ノ魚ヲ氣付ケシ而シテ速ニ動物其ノ或物ハ收草ヲ嚙ミツ、アリシ而シテ或物ハ溜木ノ間ニ限リツ、アリシ所ノ動物ヲ以テ充チタル收場及ビ山ノ上ニ彼ノ眼ヲ



投ゲシ所ノ溪流ノ岸ノ上ニ逐日ヲ獲ヤセシ。  
 彼ノ情ノ此奇異ガ彼ヲシテ多ク氣付ケシメシ。賢哲ノ一人其人ノ會話ニ於テ彼ガ  
 以前ニ樂シミタリシ所ノ一人カ彼ノ不穩ノ原因ヲ發見スル事ノ希望ニ於テ密ニ  
 彼ニ從ヒシ。或人ガ彼ニ近クアリシ事ヲ知ラザリシ所ノ刺世拉斯ガ或時ノ間岩ノ  
 間ニ食シ(草木ヲ)ツ、アリシ所ノ山羊ノ上ニ彼ノ眼ヲ定メタ所テ彼自身ノ(位置)ト  
 彼等ノ位置ヲ比較スベク始メシ。  
 彼ハ云ヒシ人ト而シテ動物ノ爾餘ノモノ、總テトノ間ニ如何ナル區別ヲナスカ  
 子ノ傍ニ遍歴スル所ノ各ノ野獸ハ子自身ト同シ身体ノ必要物ヲ持ツ彼ガ饑エテ  
 アル而シテ草ヲ食フ彼ガ渴ヒテアル而シテ流ヲ飲ム彼ノ渴ト而シテ饑カ醫セラ  
 レテアル彼ガ満足サレテアル而シテ睡ル彼ガ再ヒ起ル而シテ饑エテアル彼ガ再  
 ビ同ハレテアル而シテ休息ニ於テアル。子ハ彼ノ如ク饑エテ而シテ渴エテアル作  
 併渴ト而シテ餓ガ止ム時ニ子ガ休息ニ於テアラヌ子ハ彼ノ如ク慾望ヲ以テ痛マ  
 サレテアル作併彼ノ如ク充分ヲ以テ満足サレテアラヌ。次至ノ時間ガ長ク且ツ花  
 シクアル子ハ子カ再ヒ子ノ注意ヲ逐ニシ得ル所ノ再ヒ饑エテアルベク望ム。鳥ハ  
 果實或ハ穀物ヲ摘ム而シテ森其處ニ彼等ハ枝ニ於テ幸福ニ見ユル。トニ於テ坐シ  
 而シテ睡ノ一ツノ變セサル聯綿ヲ轉ズルコトニ於テ彼等ノ生活ヲ荒ラス所ノ森  
 ニマテ飛ヒ去ル。子モ亦彈琴者及ヒ奏歌者ヲ招キ能フ作併昨日子ヲ樂マセシ所ノ

響カ今日子ヲ疲ラス而シテ尙ヨリ多ク明日倦厭ニナルテアラウ。子ハ其レノ適當  
 ナル快樂ヲ以テ新込マレテアラヌ所ノ考ヘノ一ツノ力ヲ子ノ裡ニ發見シ能ハヌ  
 作併子ハ樂マサレテ子自身感ツナサヌ。人ガ確ニ或隱密ナル感能其ニ向ツテ此場  
 所ガ一ツノ満足ヲ與ヘヌ所ノ或隱密ナル感能ヲ持ツ若クハ彼ガ感能其レハ彼ガ  
 幸福テアリ能フ前ニ満足セラレテアラ子ハナラヌ所ノ感能カラ區別アル或希望  
 ナ持ツト

此後彼ハ彼ノ取テ擡ゲシ而シテ昇ル所ノ月ヲ見ル所テ宮殿ノ方ニ歩ミシ。彼ガ野  
 ナ通ホシテ通過セシ而シテ彼ノ周リノ動物ヲ見シ時ニ彼ハ云ヒシ「汝等ハ幸福テ  
 アル而シテ子自身ヲ以テ苦マサレテ斯様ニ汝等ノ間ニ歩ム所ノ子ヲ猜ミ要セヌ  
 又ハ子モ汝等ノ快樂ヲ猜ミナサヌ汝等穩和ナル活物ヨテ奈ントナラハ其ガ人ノ快  
 樂テアラヌ故ニ。子ハ多クノ不幸其カラ汝等ガ自由テアル所ノ多クノ不幸ヲ持ツ  
 子ハ子ガ其ヲ感ツナサヌ時ニ苦痛ヲ恐ル。子ハ時トシテハ追憶サレタル害惡ニ  
 於テ震慄スル而シテ時トシテハ豫見シタル害惡ニ於テ驚ク。確ニ天命ノ公平ガ特  
 別ナル快樂ヲ以テ特別ナル惱苦ヲ平衡シヌト  
 斯等ノ如キ觀察ヲ以テ皇子ハ痛マシキ腰ヲ以テ作併彼自身ノ理解力ニ於テ或猜  
 疑ヲ感ズベク彼ヲ發見セシ所ノ觀エテ以テ彼等ヲ發音シツ、彼ガ還リシトニ彼  
 自身ヲ樂マセシ而シテ其ヲ以テ彼ガ感セシ所ノ美態ノ知覺而シテ其ヲ以テ彼ガ



彼等ヲ歌キシ所ノ能辨カラ生活ノ不幸ノ或慰ミテ受クルベク(彼ヲ發見セシ所ノ  
視エテ以テ云々ヘツク)○彼ハ日晡ノ鬱散ニ於テ愉快ニ混セシテ而シテ總テハ彼ノ  
心ガ輕クセラレテアリシ事ヲ見出スベク樂シミシ○

其二 幸溪ニ於ケル刺世拉斯ノ不滿

前段説ク所ノ幸福ナル樂世界ニ亞比斯尼亞ノ皇子皇女等ハ居常練熟精妙ナル樂人ニ隨伴セ  
ラレ且ツ苟モ其五官ノ樂ニ能ヒシ各物ヲ殘ラム方ナク具備セラレテ快樂安穩ナル日月ヲ消  
過ス則チ晝ハ芳薰馥郁タル花園ニ逍遙シ夜ハ安全堅固ナル堡壘内ニ睡眠シ。且暮其身ノ境  
遇ヲ快樂ナラシムベキ各種ノ技藝演ゼラレ。其身ヲ薰陶スベキ任テ帶ビタル賢哲等ハ專ラ  
經世ノ苦難ヲ談シ而シテ喧嘩亂擾斷ユル間ナク人々互ニ吞嚙スルノ痛惱界トシテ此幸溪外  
ノ至土ヲ説明セリ。

加之ノミナラズ賢哲等ハ皇子皇女等ヲシテ幸福ニ關スル其意見ヲ高カラシメム爲メ連日幸  
溪ト題スル詩歌ヲ吟誦ス。斯クテ皇子皇女等ハ續々演出サル、各種ノ快樂ニ食慾ヲ促サレ  
以テ朝ヲ送り夕ヲ迎ヘヌ洵ニ拂曉乃至黄昏其務トスル所飲酒觀樂ノ他事アラザルナリ。  
是等ノ方法則チ快樂ヲ以テ皇子皇女等ニ幽居ヲ喜ハシムベキ考案ハ概ネ其効果ヲ結ビ。曾テ  
二三ノ皇子等其現遇ノ制限ヲ擴大セマホシキ希望ヲ懷キタリト雖モ而カモ技術ニ依ツテ若  
クハ天工ニ依ツテ附與シ得ラレタル凡百ノ事物一ツトシテ幽居ノ區域内ニ具ハラザルモノ  
ナキヲ充分信ズルニ至リ満足ヲ以テ日月ヲ消過スルト同時ニ此安樂世界ヨリ擯斥サレタル

人民ハ常ニ機會ノ玩弄物不幸ノ奴隸タル運命ニ遭遇スルモノトシテ之ヲ悞メリ。

斯クテ此離宮内ノ幽居者ハ集ツテハ互ニ樂シミ離レテハ獨リ自ラ娛シミ愉快ニ起キ歡樂ニ  
寐テ晝夜朝夕只管怡々トシテ時ヲ費ヤシタルニ唯リ刺世拉斯ノミハ漸ク此幽居ニ飽キタル  
ヤ他ノ娛樂ヲ娛樂トセズ他ノ會同ニ列ナルヲ喜ビトセズ單身閑地ヲ漫行シ且ツ默爾トシテ  
考案ヲ廻ラヌヲ樂ミトスルニ至ル維時其齡二十六歳ナリトカヤ。刺世拉斯屢々山海ノ珍味  
ヲ排置シタル卓前ニ着坐シ、而シテ其美饌ヲ味フヲ忘ル、事アリ或ハ唱歌ノ半ハニ突然席  
ヲ離レ急ニ其樂聲ノ達セザル地ニ退ク事アリ。於此乎皇子(刺世拉斯ヲ指ス以下釋義文中  
單ニ皇子ト記スルハ皆刺世拉斯ヲ指スモノト知ルベシ)ノ侍者等ハ其嗜好ノ變ジタルヲ着  
目シ、昂メテ快樂ニ對スル其愛情ヲ回復セシメムトシケレドモ。皇子ハ更ニ侍者等ノ配慮  
ヲ意トセズ斷然其誘ヒヲ拒ミテ獨リ樹葉繁茂セル澗流ノ岸ニ歩ミテ移シ時ニ枝間ニ囀レル  
鳥聲ニ耳ヲ傾ク或ハ碧潭ニ游ベル鱗族ニ眼ヲ注ギ須臾ニシテ視線ヲ牧場或ハ山上ニ轉シ青  
草ヲ嚼ミ樹間ニ睡レル群獸ヲ眺メ以テ終日ヲ費ヤス斯ノ如キコト日ニ日ニ繼グリ。  
皇子ガ此一種特異ナル意向ハ皇子ヲシテ多クノ注意ヲ惹カシメヌ。曾テ其談話皇子ノ爲ニ  
喜ハレタリシ賢哲ノ一人ハ近來皇子ガ常ニ快惱トシテ樂マザルヲ見テ其原因ヲ探究セムト  
欲シ一日密カニ皇子ニ尾行ス。然ルニ皇子ハ其身邊ニ人アルヲ知ラズシテ暫時岩石ノ間ノ  
雜草ヲ食ヒツ、アル山羊ヲ凝視シ漸クニシテ自身ト山羊トノ境遇ヲ比較シ始メケリ。  
皇子ハ云ヘリ「人類ト爾他一切ノ動物トノ間ニ果シテ何等ノ差異ヤアル。今予ノ身邊ニ道



遙セル野獸ハ孰レモ予自身ト同シク肉體ノ慾ヲ有ス。彼レ餓エテハ則チ草ヲ食ヒ渴キテハ則チ水ヲ飲ム、既ニ餓渴ヲ醫シテ満足スレバ則チ睡リ、覺メテ又餓エ餓エテ又食ヒ食ヒテ又睡ル。予モ亦彼レト同シク餓エ且ツ渴スレドモ而カモ餓渴ヲ醫シタル時ニ方リテ予ハ睡ラズ予モ亦彼レノ如ク慾望ノ爲ニ苦心スト雖モ而カモ彼レノ如ク足レルヲ以テ足レリトセズ。既ニ飢ヲ醫シ渴ヲ治シテ後ハ無聊ニ惱マサレ鬱憂ニ苦メラレ徒ラニ再ビ飢渴ノ至ルヲ俟テ漸ク活氣ヲ勵マス。又鳥類ハ果實ヲ啄ミ穀粒ヲ拾ヒ僥々然トシテ枝間ニ憩ヒ絶エズ不變ノ美聲ヲ發シテ以テ林中ニ其生ヲ送ル。予モ亦彈琴ノ妙手唱歌ノ達人ヲ招キテ奏樂ヲ聞キ得レドモ而カモ昨日予ヲ喜ハシメタル樂聲ハ今日予ヲシテ倦厭措ク能ハザラシム、蓋シ明日ニ及バハ愈々倍々厭惡ノ情ヲ高カラシムベクム。予獨リ竊ニ予ノ内心ニ願ミテ考一考スルニ予ガ居住ノ殿中予ノ嗜好ニ合スル樂事全備シ其欲ク所果シテ那ノ點ニアルヤヲ考ヘ起ス能ハズト雖モ奈ソセン其等具備セル樂事毫モ予ヲシテ愉快ヲ感セシメザルナ。凡ソ人類ハ確カニ一種隱密ナル感能則チ此地ガ毫モ満足ヲ與ヘザル一種隱密ナル感能ヲ有ス若クハ幸福ヲ全フスルニハ必ズ先ツ満足セラレザルヲ得ザル感能則チ肉體ノ慾望ヲ満足スベキ事ノ外尙ホ一種ノ希望ヲ有スルニコソト。

云了ツテ頭ヲ擡ケ東嶺ノ頂ヲ離レテ漸ク登レル玉兔ヲ望ミ則チ歩ミテ廻ラシテ宮殿ニ向ヒ原野ヲ經過シテ其身邊ノ動物ヲ眺メ輒チ曰ク「爾等獸類コソ幸福ナレ今斯ク爾等ガ間ニ歩ミテ移セル予ハ常ニ一身ノ處置ヲ擔フテ苦メルヲ爾等決シテ予ヲ羨望スルヲ要セザルナリ

予モ亦決シテ爾等ヲ羨マズ爾等平穩ナル動物等ニ蓋シ爾等ノ娛樂ハ是レ人類ノ娛樂ニアラザルヲ以テナリ。嗚呼予ハ曾テ爾等ガ遭遇スルコトナキ幾多ノ不幸ヲ有ス洵ニ予ハ未ダ其期ニ臨マザルニ將ニ苦惱ノ來ラムトスルヲ恐レ。時ニ既往ノ殃災ヲ追想シテ戰慄シ時ニ禍害ヲ豫想シテ畏懼ス。慥ニ天道ノ公平無私ナルハ格別ノ快樂ヲ與フルモノニ又格別ノ惱苦ヲ與ヘ以テ權衡ヲ保ツニコソアレト、其聲調ヤ悲哀ヲ帶ビタレドモ而カモ自己ノ理解力ニ於テ若干ノ滿悦ヲ感シ且ツ其感得セル精細ノ知覺及ビ以テ獸類ニ對シ歎シタル其辨舌ヨリ自ラ生活ノ不幸ノ幾分ヲ慰諭シタルモノ、如ク怡然自得ノ相ヲ帶ビテ宮中ニ還リ。日晡ノ遊興ニ列ナリケレハ衆皆皇子ノ心平素ノ快活ニ復シタルヲ見テ喜ビヌ。

### 第三章 何モヲ要セズ所ノ彼ノ要望

次ノ日ニ於テ彼ノ老教育者ハ彼ガ今心ノ彼ノ病疾ヲ以テ彼自身ヲシテ熟知セシメタリシ事ヲ想像スル所テ陳ニ依テ其ヲ治スル丁ノ望ミニ於テアリシ而シテ人其人ノ心智ガ消盡サレテアリシ所ノ人トシテ長ク考ヘテ所テ皇子ガ與フルベク甚ダ欲シツ、アラザリシ所ノ會話ノ機會ヲ配意シテ察メシ、彼ハ云ヒシ「何故ニ此人ガ斯様ニ予ノ上ニ闖入シナスカ、予ハ決シテ其等ノ關係其ハ彼等ガ新シクアリシ間ノミ樂ミシ而シテ再ビ新シクナルベク忘レラレテアラネハナラヌ所ノ其等ノ關係ヲ忘ル、ベク憶エラレテアラヌデアラウ」ト彼ハ然ル時ニ森ニマテ歩ミシ而シテ彼自身ヲ彼ノ通常ノ考案ニマテ形造リシ、其時彼ノ思考ガ或定マリタル形



造リテ取ツタリシ前彼ハ彼ノ傍ニ於テ彼ノ追尾者ヲ氣附ケシ而シテ最初急ギテ  
彼方ニ行クベク彼ノ短慮ニ依ツテ挑撥サレテアリシ、乍併彼ガ一度奪取セシ而シ  
テ尙ホ愛シタリシ所ノ人ヲ苦シムルベク妬ヒツ、アル所テ彼ハ岸ニ於テ彼ト共  
ニ坐スベク彼ヲ誘ヒシ。

斯様ニ勵マサレテ老人ハ近頃皇子ニ於テ氣附ラレテアツタリシ所ノ變化ヲ哀シ  
ムベク而シテ何故ニ彼ガ左様ニ匿々宮殿ノ愉快カラ寂寥及ビ沈黙ニマテ退キ  
シカチ間フベク始メシ。皇子ハ云ヒシ「子ガ愉快カラ飛ブ奈ントナラバ愉快ガ樂シ  
ムベク止ムダ故ニ子ガ淋シクアル奈ントナラマ子ガ難澁ナル而シテ子ノ出席  
ヲ以テ他ノ幸福ヲ憂ラスベク妬ヒツ、アル故ニ」ト。賢哲ガ云ヒシ「殿下ハ幸<sup>◎</sup>漢<sup>◎</sup>ニ於  
テ不幸ニ就テ愁厭シタ所ノ最初ノモノナル。子ハ汝ノ愁厭ガ一ツノ眞實ナル原  
因ヲ持タヌ事ヲ汝ニ確信サスベク望ミ。汝ハ亞比斯尼亞ノ帝國ガ與ヘ能フ所ノ總  
テノ充分ナル所有ニ於テ此處ニアル此處ニ耐忍サレテアルベキ勞働又ハ忍レラ  
レテアルベキ危難孰レカモアラヌ、尙ホ此處ニ勞働若クハ危難が生出し若クハ買  
得シ能フ所ノ總テガアル。周リヲ見ヨ而シテ汝ノ慾望ノ孰レカ供給ナシニアルカ  
ナ子ニ語レ若シモ汝ガ何モヲ要セヌナラハ如何ニシテ汝ガ不幸ナルカ。  
皇子ハ云ヒシ「子ガ何モヲ要セヌ事若クハ子ハ何ナ子ガ要スルカヲ知ラヌ事ガ子  
ノ愁厭ノ原因ナル若シモ子ガ或ル知ラレタル要望ヲ持ツナラハ子ガ或ル希望

ヲ持ツテアラウ、其希望ガ努力ヲ勵マステアラウ而シテ子ハ然ル時ニ太陽ガ左様  
ニ徐々ニ西方ノ山ノ方ニ動クヲ見ルベク若シマステアラウ或ハ日ガ明放レ而シ  
テ睡ガ最早子自身カラ子ヲ隠サステアラウ時ニ哀マステアラウ子ハ互々ニ追驅  
スル所ノ山羊仔及ビ兒羊ヲ見ル時ニ子ハ子ガ若シモ子ガ追驅スヘキ或事ヲ持チ  
シナラバ幸福ナルアラウ事ヲ想像スル。乍併子ガ要シ能フ所ノ總テヲ所有ス  
ル所テ子ハ終ノモノガ前ノモノヨリハ尙ホヨリ多ク過長ナル事ヲ擱キ精密ニ  
他ノモノ、如ク一日及ビ一時ヲ見出ス。汝ノ經驗ヲシテ自然ガ尙ホ新鮮テアリシ  
而シテ毎分時ガ子ガ決シテ已前ニ注目セナンタリシ所ノモノヲ子ニ示セシ間子  
ノ幼時ニ於テノ如ク左様ニ短カク如何ニシテ日ガ今見ユルカヲ子ニ告ゲシメヨ  
子ハ既ニ餘リ多ク樂ムダ希望スベキ或事ヲ子ニ與ヘヨ」ト。

老人ハ關心ノ此新規ナル種類ニ於テ驚カサレテアリシ、而シテ何ナ答フルベキカ  
ヲ知ラザリシ尙ホ沈黙ナルベク妬ヒツ、アリシ。彼ハ云ヒシ「君ヨ若シモ汝ガ世  
界ノ不幸ヲ見タリシナラハ汝ハ如何ニ汝ノ現在ノ有様ヲ責ムベキカヲ知ルデア  
ラウ」ト。皇子ハ云ヒシ「今汝ガ希望スベキ或事ヲ子ニ與ヘタ子ハ世界ノ不幸ヲ見ル  
ベク待設クルデアラウ奈ントナラバ彼等ノ視エガ幸福ニマテ必要ナル故ニ」ト。

其三

刺世拉斯却テ圓滿具備ヲ不足トス

其翌日皇子ノ老教師ハ自ら皇子ガ戀愛ノ因源ヲ知了シタリトシ諫メテ以テ之ヲ醫治セムニ



トナ望ミ賜メテ談話ノ機會ヲ索ム然ルニ皇子ハ是ヨリ先キ久シク老教師ガ所説陳腐ニ屬シ  
 テ之ヲ聞クノ價值ナシト思惟シケルニ由リ今ハ談話ノ機會ヲ與フルヲ好マズ。而シテ曰ク  
 「渠レ何スレゾ斯ク予テ煩ハサムトスルヤ、予ハ決シテ渠レガ談論ヲ聞クニ忍ビザルナリ蓋  
 シ其説ク所斬新ナリシ間ノミ予ノ心ヲ喜バシメタレドモ今ヤ既ニ陳腐ニ屬シ之ヲ聞キテ娛  
 樂ヲ取ラムト欲スルニ於テハ先ツ斷然之ヲ忘却セザルベカラズ而カモ一旦耳底ニ粘着セル  
 モノ之ヲ忘レムトスルモ能フベキニアラザルナリ」ト。云ヒ去ツテ歩テ林中ニ轉ジ例ノ如ク  
 沈然トシテ熟慮ス然ルニ其熟慮未ダ一定ノ想像ヲ取ラザルニ先ダチ夫ノ老教師ガ已レテ追  
 至セルヲ認メ其性急不忍ノ情直チニ撥動シテ急ニ居テ轉セムトシタリシガ更ニ考一考セハ  
 曾テ深ク尊敬シ今尙愛慕スル老翁ヲシテ痛ク惱煩セシムルニ忍ビザル所アリ便チ誘フテ共  
 ニ流岸ニ坐セシメムトス。

於此乎翁(則チ老教師)好機失フベカラズトシ近ツイテ皇子ニ對シテ其近狀ノ大ニ舊ニ異ナ  
 レルヲ歎キ且ツ其屢々宮中ノ快樂ヲ棄テ閑地ニ退イテ沈思ヲ凝ラス抑モ何等ノ原由アツテ  
 然ルヤヲ問ヒ起シヌ。皇子乃チ曰ク「予ガ宮中ノ樂事ヲ顧ミザルハ是其樂事既ニ予チシテ  
 娛マシメザルニ因ス、又予ガ單身閑地ニ退クハ是鬱憂自ラ措ク能ハザルト予ニシテ若シ遊  
 宴ノ席ニ列ナラハ爲ニ他ノ娛樂ヲ妨グベカルヲ以テ之ヲ好マザルトノ二者ニ原ツク」ト翁  
 之ヲ聞イテ曰ク、殿下ハ此幸<sup>◎</sup>溪ニ在ツテ不<sup>◎</sup>滿ヲ訴ヘラレタル嚆矢ナリ。臣ハ望ム殿下ノ不  
 滿毫モ實因アラザル事ヲ殿下自ラ確信スルニ至リ給ハムナ。苟モ亞比斯尼亞ノ帝國ガ與ヘ

得ベキ限りノ百物ハ皆是此溪中ニ在ツテ殿下ノ所有ニ歸シ、一モ意ノ如クナラザルモノナ  
 キニアラズヤ。蓋シ此溪中ニハ忍ムテ之ニ從ハザルヲ得ザル勞役恐レテ之ヲ避ケザルヲ得  
 ザル危難孰レモ存在スルナク而カモ勞役若クハ危難ガ生出シ若クハ購得スル百般ノ事物具  
 備セザルナシ、請フ眼ヲ轉シテ四邊ヲ見ヨ而シテ若シ殿下ノ慾望ヲ充タシメザルモノアラ  
 ハ之ヲ臣ニ語レ、假リニモ殿下ニシテ要メ給フ所アラザルニ於テハ則チ殿下何ニ因ツテ不  
 滿ヲ訴ヘ給フコトヤアル」ト。

皇子直チニ答ヘテ曰ク「予ノ一物ヲモ要セザル事若クハ予ガ何物ヲカ要スルヤヲ知ラザル  
 事是則チ予ノ不<sup>◎</sup>滿ノ原由タリ、予ニシテ若シ幾干ノ要望ヲ有スルヲ知ラハ從ツテ予ハ幾干  
 ノ希望ヲ有スベケム。既ニ希望ヲ有ス從ツテ奮勵之ヲ満足セシムルヲ勵ムベケム。然ルニ  
 於テハ予ノ今日ノ如ク光陰ノ運々タル經過ヲ歎ズルコトモアラザルベク東雲曙光ヲ傳ヘテ  
 殘夢既ニ破レタル時悲哀ヲ感ズルコトモアラザルベケム。予ガ陣中各自追躡疾驅スル山羊  
 仔及ビ羶羊ヲ映ス時予ハ觀ズ予ニシテ若シ漸進追取スベキ一事ヲ有タハ定メテ快爽ナルベ  
 キナ。然ルニ萬事具足圓滿毫モ缺乏スル所アラザルヲ以テ一時千秋徒然無聊ニ苦シムコト  
 連日然リ。卿既ニ老ヒ經驗ニ富ム願クハ予ノ幼時ニ感ツタル如ク山水ノ光景眼ニ漸ラシク  
 毎時毎瞬既往曾テ見ザルヲ見テ以テ非常ノ快樂ヲ覺エ長日尙ホ短キヲ歎シタル其觀念ヲ今  
 日ニ保タムコト抑モ如何ニセハ之ヲ能クシ得ベキ知ラハ幸ヒニ垂教セヨ。予ハ既ニ業ニ快  
 樂ニ飽キヌ請フ前途進取スベキ一望ヲ與ヘムナ」ト。



之ヲ聞ケル老翁皇子ノ煩惱ノ一種新奇ナルニ與驚シ一言ノ之ニ答フベキ辭アルヲ知ラザリシガ尙ホ默爾トシテ之ヲ放棄スルヲ欲セズ輒チ曰ク「殿下若シ世界ノ艱難ヲ見一見シ給ハハ殿下ノ現遇如何ニ貴カルヤヲ悟リ給ハム」ト皇子曰ク「卿今屬望スベキ一事ヲ予ニ與ヘタリ予ハ卿ノ所謂世界ノ難艱ナルモノヲ見ムコトヲ切望ス蓋シ之ヲ見ルト是幸福ヲ全フスルニ必要ナルヲ以テナリ」ト。

### 第四章

#### 皇子悲痛且ツ沈思スベク續ク。

此時ニ於テ音樂ノ響ガ食卓ノ時ヲ叫ビシ而シテ會話ガ終了セラレテアリシ。老人ハ彼ノ理論ガ唯一ノ決定其ハ彼等ガ防退スベク目論見シテアリシ所ノ唯一ノ決定ヲ生ジタリシ事ヲ見出スベク充分ニ不満足シテ彼方ニ行キシ。乍併生命ノ傾ニ於テ耻及ビ悲痛ガ短キ續キテアリシ。予輩ハ予輩ガ長ク保ツタ所ノモノヲ容易ニ保ツコト或ハ尙僅カ事歟サレタル點ニ於テ予輩自身ヲ見出ス所テ予輩ガ尙僅カ他者ヲ尊敬スル事或ハ予輩ガ關心其ニマテ予輩ハ死去ノ手が終リテ置クベク就テアル事ヲ知ル所ノ關心ノ上ニ僅ナル尊敬ヲ以テ賜ムル事ノ其レガ致レテモアリ得ル。

皇子其人ノ見解ガ尙廣キ空間ニマテ擴ゲラレテアリシ所ノ皇子ハ彼ノ感動ヲ速ニ靜メ能ハヤリシ。彼ハ自然ガ彼ニ約束シタリシ所ノ生命ノ長サニ於テ前ニ恐レラレテアツタリシ奈ントナラバ彼ハ長キ時ニ於テ多ク遊エラレテアラホナラヌ事ヲ考ヘシ故ニ彼ハ今彼ノ少壯ニ於テ樂ミシ奈ントナラバ多クノ年ニ於テ多ク爲サレ得シ故ニ。

彼ノ心ニマテ曾テ射ラレタリシ所ノ希望ノ此最初ノ光輝ガ彼ノ願ニ於テ少壯ヲ再ビ輝カセシ而シテ彼ノ眼ノ光リヲ二重ニセシ。彼ハ縱令彼ガ未ダ策略カ或ハ方便カチ區別ヲ以テ知ラザリシトハ雖モ或事ヲ爲ス事ノ希望ヲ以テ燃ヤサレテアリシ。彼ハ今最早覺醒テ而シテ交際ナシテアラザリシ乍併幸福ノ秘密ナル貯蔵其ハ彼ガ其ヲ隠秘スルニ依ツテノミ樂シミ能ヒシ所ノ貯蔵ノ主君トシテ彼自身ヲ考フル所テ彼ハ解散ノ總テノ策略ニ於テ忙シクアルベク感ゼシ而シテ有様其ニ付テ彼ガ彼自身疲レテアリシ所ノ有様ヲ以テ他者ヲシテ樂シマシムベク勗メシ。乍併快樂ガ決シテ使ハレサル生命ノ多クヲ棄テルベクナキ如ク左様ニ増加サレ或ハ續カレ能ハス其處ニ夜并ニ晝彼ガ寂寞ナル思考ニ於テ疑惑ナシニ費ヤシ能ヒシ所ノ多クノ時間ガアリシ。生命ノ荷物ガ多ク輕ロメラレテアリシ彼ガ熱心ニ會合ニマテ行キシ奈ントナラバ彼ハ彼ノ出席ノ數次ヲ彼ノ目的ノ成功ニマテ必要ト想像セシ故ニ彼ハ醫ンテ編居ニマテ退キシ奈ントナラバ彼ガ今思考ノ趣意ヲ持チシ故ニ。

彼ノ主タル快樂ハ彼ガ決シテ見ナシタリシ所ノ其世界ヲ彼自身ニマテ盡クベクアリシ種々ノ狀態ニ於テ彼自身ヲ置クベク想像ノ困難ニ於テ混雜サレテアルベク



ク而シテ粗暴ナル冒險ニ於テ關リテアルベク、乍併彼ノ博愛ガ常ニ不幸ノ救助昨  
 歎ノ發見壓抑ノ打破及ビ幸福ノ播布ニ於テ彼ノ企圖ヲ限リシ。  
 斯様ニシテ刺世拉須ノ生命ノ二十ヶ月ヲ經過セシ。彼ハ彼ガ實ノ屏居ヲ忘レシ而  
 シテ人類ノ事務ノ種々ノ偶事ニ向ツテ毎朝ノ準備ノ間ニ如何ナル意味ニ依ツテ  
 彼ガ人類ト混ズルテアラウカチ考フルベク意リシ事ホド左様ニ極度ニ妄想ノ急  
 忙ニ於テ彼自身ヲ忙シクセシ。  
 一日彼ガ岸ニ於テ坐シツ、アリシ時ニ彼ハ陰謀アル情郎ニ依ツテ彼女ノ僅少ナ  
 ル懸受遺產ニ就テ監マレタル孤ノ少女ヲ彼自身ニマテ假想セシ而シテ返報スル  
 一及ビ恢復スルコトニ向ツテ彼ヲ逐フテ叫ブコトヲ彼自身ニマテ假想セシ。彼ハ小  
 女ノ防禦ニ於テ出立セシ而シテ實ノ追慕ノ熱心ノ結ヲナシテ探奪者ヲ捕捉スベ  
 ク前方ニ走リシコトホド左様ニ強ク想像ガ彼ノ心ノ上ニ壓付ケラレテアリシ。畏  
 怖ガ自然ニ罪惡ノ逃走ヲ速カニスル。刺世拉須ハ彼ノ至極ノ努力ヲ以テ逃走者ヲ  
 捉ヘ能ハザリシ乍併深ク固マルコトニ依ツテ疲ラヌベク決定スル所テ彼ガ速度ニ  
 於テ超過シ能ハザリシ所ノ彼ヲ彼ガ山ノ麓ニ彼ノ進ミヲ止メシマテ押進ミシ。  
 茲ニ彼ガ彼自身回想セシ而シテ彼自身ノ不安ナル性急ニ於テ微笑セシ。然ル時ニ  
 山ニマテ彼ノ目ヲ上アル所テ彼ガ云ヒシ之ハ一度ニ快樂ノ享受ト而シテ德義ノ  
 演習ヲ妨グル所ノ命ニカハル障害テアルコトノ望ミト而シテ願ヒガ子ノ生命ノ此

境其ハ尙ホ子ガ決シテ昇ルベク企テナンダ所ノ境ヲ越エテ流レタ毒ノ其ガ如何  
 ニ長クアルヨト

此返照ヲ以テ驟タレテ彼ハ沈思スベク坐セシ彼ガ最初彼ノ幽屏カラ逃ルベク  
 決定セシ以來太陽ガ彼ノ年々ノ進ミニ於テ彼ヲ越エテ二度經過シタリシ事ヲ記  
 憶セシ。彼ハ今後悔ノ度其レヲ以テ彼ガ以前ニ決シテ知了セナンダリシ所ノ後悔  
 ノ度ヲ感セシ。彼ハ經過シタリシ而シテ其ノ後ニ何モノ實ヲ殘サナンダリシ所ノ  
 時ニ於テ如何ニ多クガ爲サレ能フタカチ考ヘシ。彼ハ人ノ生命ヲ以テ二十ヶ月ニ  
 比較セシ。

彼ハ云ヒシ「生命ニ於テ幼穉ノ無智若クハ齡ヒノ衰弱ガ計算サルベクアラヌ。子輩  
 ハ予輩ガ考フルベク適當テアリシ前長クアル而シテ予輩ガ速ニ行爲ノカカラ終  
 止ス。人間ノ存立ノ眞實ノ時限ガ四十年其ニ就テ予ガ二十四分ノ一ヲ沈思シ去ツ  
 タ所ノ四十年ニ於テ有理ニ價ヘツケラレ得ル。子ガ失フタ所ノモノガ確カデアリ  
 シ奈ントナラマ子ハ確ニ其ヲ所有シタ故ニ乍併來ルベキ二十ヶ月ニ就テ誰ガ子  
 ニ確メ能フカト

彼自身ノ無智ノ智覺ガ深ク彼ヲ突キシ而シテ彼ハ彼ガ彼自身ニマテ一致セラレ  
 能ヒシ前長クアリシ。彼ハ云ヒシ「子ノ時ノ殘リノモノガ子ノ祖先ノ罪惡及ヒ無智  
 ト而シテ子ノ國ノ愚意ナル法度トニ依ツテ失ハレタ子ハ悔恨ヲ以テ其ヲ記憶ス



ル而カモ悔恨ナシニ乍併新光輝ガ子ノ精神ニマテ闖入セシ以來子ガ有理ナル幸福ノ計策ヲ形造リシ以來經過シタ所ノ數月ガ子自身ノ過失ニ依ツテ浪費セラレタ。子ハ決シテ回復セラレ能ハヌ所ヲ其ヲ失フタ子ハ二十ヶ月ノ間太陽ガ昇リ而シテ没スルヲ見タ天ノ光輝ニ於テノ慰悞ナル疑陣者ナリ此時ニ於テ鳥ガ彼等ノ母ノ巢ヲ去ツタ而シテ森ニマテ而シテ空ニマテ彼等自身ニナセシ山羊仔ハ獨立ノ食料ノ穿鑿ニ於テ岩ニ攀登スルニ依ツテ乳房ヲ見棄テタ。子ハ唯一ツノ進ミヲサナシナシテ併尙ホ扶ケナク而シテ無智ナル。月ハ二十ノ變化ヨリハ尙多クニ依ツテ生命ノ流レニ就テ子ヲ疎メシ子ノ足ノ前ニ回轉スル所ノ流水ガ子ノ不活動ヲ嘲罵セシ。子ハ地球ノ例及ヒ遊星ノ致ヘニ就テ一様ニ尊敬ナク心智上ノ奢侈ニ於テ亂宴シツ、坐セシ。二十ヶ月ガ經過シテアル能ガ彼等ヲ回復スルテアラウカト。

此等ノ悲シマシキ考慮ガ彼ノ心ヲ緊縛セシ彼ハ慰悞ナル決定ニ於テ最早時ヲ失ハヌベク決定スル。トニ於テ四月ヲ經過セシ而シテ繕ハレテアリ能ハヌ所ノモノガ後悔セラレル。メクアラヌ事ヲ氣付ケタル磁器ノ鍾ヲ破却シタリシ所ノ罅ヲ聞ク。トニ依ツテ尙多ク勇氣ナル奮勵ニマテ醒マサレテアリシ。之ガ著シクアリシ而シテ刺世拉斯ハ彼ガ其ヲ發見セシ。ナンドリシ事ヲ彼自身非難セシ。如何ニ多クノ必要ナル黙止ガ機會ニ依ツテ得ラレテアルカ而シテ如何ニ厭々心ガ隔タリタル

視エニマテ彼女自身ノ熱心ニ依ツテ急ギシカチ知ラナシ。或ハ考ヘナサナシ。ダ所ア唇ガ彼女ノ前ニ開クコトノ眞理ヲ等閑ニス。彼ガ二三時ノ間彼ノ悔ヲ悔ヒシ其時カラ幸福ノ溪ガラ逃ル、事ノ方便ノ上ニ彼ノ全キ心ヲ曲ゲシ。

其四 皇子鬱悶沈思止マズ

此時ニ當ツテ宮中音樂ノ聲起ル則チ喫食ノ報告ト知ラレケレハ茲ニ皇子ト老教師トノ會談止ム。嚮ニ翁ハ論理解説以テ皇子ガ鬱悶沈思ヲ醫治セムト企テケルニ今其説ク所却ツテ皇子ノ千思萬考ヲ統一シテ其趣クベキ所ヲ決セシメタルヲ見テ心裡大ニ不快ヲ感シ快々トシテ皇子ニ別レケルガ。翁素ト頽齡其不快快惱從ツテ久シキヲ保タズ蓋シ其長ク堪得タルモノハ容易ニ之ニ堪ユルヲ得、年齒既ニ傾キテ他ノ已レテ尊敬スルコト淡ラギタルヲ見テハ已レ他ヲ尊敬スルコトモ亦自ラ淡ラギ、死期將サニ接セムトスルノ衰老ニ臨ミテハ如何ナル憂悶ヲモ輕視スル等皆是人ノ常情ナルヲ以テナリ。

之ニ反シテ其見解更ニ擴大サレタル皇子ハ自ラ其勃々タル感動ヲ容易ク抑止スル能ハズ。是ヨリ先キ皇子ハ常ニ其天壽ノ長キヲ恐レツ、アリシガ今ハ却ツテ其春秋ヲ富メルヲ喜ブニ至リス蓋シ始メハ命壽ノ長カルニ從ヒ苦悶モ亦多カルベキヲ推測シテ恐レ後チハ却ツテ壽カレハ爲シ得ル事モ亦從ツテ多カラムト悟リテ喜ベルナリ。

皇子生來未曾有ノ希望ノ光輝始メテ其煩惱ノ黑雲ヲ排シテ心府ヲ徹照シケルヨリ倏忽トシテ雙頰再ビ少壯ノ美光ヲ輝カシ其明眸茲ニ愈々明カナリ。皇子未ダ之ヲ以テ其經世ノ目途



トナスカ將方便トナスカ明別シ得ズト雖モ而カモ心火炎々一事ヲ爲サムコトヲ熱望シ。既ニ憂悶ノ域外ニ脱出シテ復々單身靜閑ヲ喜ブノ境界ニ止マラズ。獨リ窮ニ惟ヘラク予ハ幸福發生ノ本幹而カモ人ノ之ヲ知ラザルハ愉快ナリト於此乎遊樂ニ關スル各種ノ方畧ニ匆忙タルノ狀ヲ示シ而シテ已レ既ニ之ヲ倦厭セル事ヲ以テ尙ホ人ヲ樂マシムト勗メタリ。然レドモ遊樂亦自ラ際限アルアツテ長時不斷ニ増加シ且ツ繼續スルモノニアラザレハ四六時中多クノ時間ヲ剩マシ爲メニ疑念ナク靜坐熟考スルコトヲ得タリキ。夫レ斯ノ如ク今ヤ皇子ハ心中既ニ悟得スル所アツテ自然處世ノ重難ヲ苦シトセズ展々宴席ニ出ヅルヲ以テ其目的ヲ遂グルニ必要アリト感シ熱心シテ會同ニ列ナリ又既ニ考案ヲ擬ラズベキ趣旨生シタルヲ以テ喜ソテ獨坐沈思セリ。

蓋シ皇子ノ主トシテ快樂トスル所ハ未ダ曾テ一見ダモセザル世界ノ形勢ヲ其念頭ニ描出スルニアリ、則チ種々ノ境遇ニ其身ヲ置キ或ハ具ニ辛酸ヲ嘗メテ困做シ或ハ難險ヲ冒シテ生命ヲ危フケスル等各種ノ想像ヲ廻ラシケルガ其稟性ノ博愛仁慈ナル常ニ不幸ノ救助詐欺ノ發扞抑制ノ破碎及ヒ幸福ノ撒布ヲ以テ其假想上ノ所爲ヲ限レリ。

皇子斯ル空想ニ朝ヲ送リ夕ヲ迎ヘ徒ニ光陰ヲ消過スルコト茲ニ二十箇月。其間身宮中ノ屏居者タルヲ忘レ毎時千種萬樣ナル假設的人事ニ匆忙トシテ餘暇ナク爲ニ實際人類ト交際スルハ如何ナル方便ニ憑依スベキヤヲ考案スルヲ怠ルニ至レリ。

一日皇子流岸ニ坐シツ、アリシ時空想倏忽其念頭ニ浮ブ則チ可憐ナル孤獨ノ處女アリ陰險

野謀ノ情郎ニ誤ツテ一生ヲ托シ爲ニ其父母ヨリ讓受ケタル少許ノ財產ヲ奪去ラレ恚悲悲哀措ク能ハズ其暴狀ニ報ヒ其被害物ヲ回復セムトシテ號呼且追蹕ス。皇子之ヲ見テ直チニ奮起シ處女救護ノ爲メニ疾走シテ掠奪者ヲ捕捉セムトス。然ルニ彼レ掠奪者ハ罪惡將ニ其身ニ報ヒムトスルヲ恐レ自ラ其逃走ヲ速ニシケルヲ以テ皇子追蹕頗ル努力スレドモ及ブ能ハズ於此乎一心不撓久シキニ堪エテ以テ逃走者ヲ疲ラサムト決シ遂ニ之ヲ追フテ山麓ニ至ル事ヤ假想ナリ追蹕疾驅ヤ實ナリ皇子ガ妄想此ニ至ツテ極マルト謂ヒツベシ。

皇子疾走山麓ニ至ツテ始メテ我ニ復リ自ラ其徒勞ヲ笑ヘリ。既ニシテ仰イテ山ヲ望ミテ曰ク「此山是レ予ガ快樂ノ享受ト德義ノ演習トニ對スル無殘ナル障害物タリ。嗚呼予ガ願ト望トハ此山外ニ趨ルコト既ニ久シキニ而カモ尙ホ予ハ未ダ曾テ之ヲ踰ユルヲ企テザルナリト

此感情ニ痛ク刺衝セラレテ皇子ハ默爾トシテ坐シテ熟慮シ初メ幽居ヲ脱出セムト決セシ以來金鳥頭上ヲ翔ケルコト既ニ二閏年ナルヲ覺エ。於此乎皇子ハ既往曾テ知覺セザリシ悔恨ニ沈ミ。徒ニ消過シテ後ニ毫末ノ實跡ダモ殘サトル過去ノ日月中果シテ幾干事ヲ爲シ得タルヤヲ追懷シ。則チ人ノ一生ヲ徒消ノ二十箇月ニ比較シテ曰ク「人事ヲ辨別セザル幼時ト執務ニ堪ユ能ハザル老年トハ之ヲ人間ノ生命中ニ算入スベキモノニアラズ。而シテ所謂人事不別ノ幼時ハ長ク且ツ濫蓋事ニ堪エザルニ至ルモ速カナリ。今此等計算外ノ年月ヲ除キ去リテ眞實ナル人間ノ存立時限ヲ計フレハ蓋シ四十年トシテ大差ナカラム果シテ然ラムニ



ハ予ハ實存時限ノ二十四分ノ一ヲ徒消シタルモノタリ。吁予ハ確カニ經過シ來タレルヲ知ルヲ以テ確カニ二十箇月ヲ失フタルヲ知ル然ルニ向後將ニ來ラムトスル二十箇月ハ誰カ予ヲシテ之ヲ空費セシメザルヲ保證シ得ルヤト。深ク既往ノ愚ナリシニ驚キテ呆然自失タルコト久シカリシガ漸クニシテ已レニ復リ重テ曰ク「予ガ生レテ以來輒近二十箇月ノ日子ヲ除キ去リタル他ノ年月ハ予ノ祖先ノ罪惡無智ト予ノ國ノ拙劣愚意ナル法度トニ依ツテ徒消セラレタルモノニシテ予ハ之ヲ嫌惡スト雖モ而カモ深ク悔恨セザルナリ然ルニ前途屬望ノ新光輝予ガ心府ヲ徹照セシ以來正理ナル幸福ノ計策ヲ畫セシ以來經過シケル」則チ輒近ノ二十箇月ハ是予自ラノ過失ニ依ツテ空シク消費シ去リタル所。實ニ予ハ決シテ々々々々回復シ得ベカラザル貴賈ヲ失ヒタルナリ予ハ二十箇月間東嶺ヲ出テ、遂ニ西山ニ没スル太陽ノ運行ヲ見タレドモ是唯漫然天光ヲ眺メタルノミ毫モ得ル所アラザルナリ。此際雖ハ既ニ十分發育シテ其母ノ巢ヲ離レ自ラ天空ニ飛揚シ林中ニ翱翔ス、又山羊仔ハ母羊ノ乳房ヲ棄テ、獨リ岩上ニ攀登シ自ラ食ヲ求ムルノ能ク生シタルニ。予ハ唯リ寸毫ノ進歩ダモナサハルノミナラズ尙ホ自ラ扶クルノ能ク智モアラズ。月ハ二十回以上ノ變化ヲ示シテ壽命漸ク流過スルヲ予ニ戒メ眼前飛奔セル淵流ハ予ノ緩慢不敏ナルヲ嘲笑ス。地ノ範例遊星ノ警醒夫レ斯ノ如クナルモ予ハ深ク之ニ意ヲ留メズ徒ラニ妄想ニ魅セラレテ盤鉢ノ得ル所ナシ。歎ズベキカモ二十箇月ハ流レ去リヌ抑モ何人カ予ノ爲ニ之ヲ回復スベケムト斯ル悲難ノ觀念ハ其心ヲシテ鞏固ナラシメ今ハ漫然タル決定ニ時日ヲ徒消スルコトアルベカラ

ズト決心シ之ガ爲メ又更ニ四ヶ月ヲ經過セリ。當時一下婢アリ過ツテ磁器ノ酒杯ヲ破損シ則チ曰ク繕フベカラザルモノハ悔ユルモ益ナシト皇子之ヲ聞イテ大ニ悟ル所アリ爲ニ幾層ノ勇奮ヲ加ヘヌ。蓋シ此婢ノ言當然ノ理アルヤ明カナリ然ルニ皇子ガ此理ヲ看ルノ機會今日ニシテ始メテ生シタルニアラス否既往屢々之ヲ暗示スルノ機ニ出會シタリケレドモ畢竟其心徒ニ高尚無邊ナル絶域ニ趨ツテ目前踏易キノ眞理ヲ等閑ニ付シ去リタルナリ惟フテ此ニ至ツテ皇子自ラ其愚ナリシヲ恰ミ。而カモ尙ホ其徒ニ悔ヒタリシヲ悔ユルコト少時、余來至意ヲ此幸溪ヨリ逃出スルノ策ニ注ゲリ。

第五章 皇子彼ノ逃走ヲ思慮ス

彼ハ今想像ニマテ其ガ甚ダ容易ニ結果サレテアリシ所ノ其ヲ結果スベク其ガ甚ダ困難テアルテアラウ事ヲ見出セシ。彼ガ彼ノ廻リヲ見回ハセシ時ニ彼ハ決シテ尙破ラレテアラナシ所ノ天然ノ柵ニ依ツテ而シテ門其ヲ通ホシテ一度其ヲ通過シタリ所ノ雖モガ會テ還ルベク適當テアラザリシ所ノ門ニ依ツテ禁錮サレタル彼ヲ見シ。彼ハ今格子箱ノ内ノ騷ノ如ク性急テアリシ。彼ハ若シモ其處ニ豎樹ガ封鎖シ得シ所ノ或間道ガアリレカチ見ルベク山ニ攀チ登ルコトニ於テ週ノ後ニ週ヲ獲得セシ、併彼等ノ峻高ナル一ニ依ツテ近ツクベカラズト絶頂ヲ見出セシ。鐵門ヲ彼ハ開クベク失望セシ奈ントナラハ其ガ技術ノカノ總テヲ以テ確クセラレテアリシノミナラス尙又常ニ常置ノ番兵ニ依ツテ見守ラレテアリシ而シ



テ其ノ位置ニ依ツテ住民ノ總テニ就テノ永久ノ觀察ニマテ晒サレテアリシ。彼ガ然ル時ニ湖ノ水ガ發流シレテアリシ所ノ洞穴ヲ吟味セシ。而シテ太陽ガ其レノ口ノ上ニ強ク輝キシ時ノ時ニ於テ見下ダス所テ彼ガ其レハ縱令彼等ガ多クノ狹キ通路ヲ通ホシテ流ルベク流レテ成セシトハ云ヘ堅キ周圍ノ或妹ヲ止ムルデアラウ所ノ破レタル岩ニ就テ其ガ滿チテアルベク發見セシ。彼ガ落膽シテ而シテ鬱氣シテ還リシ乍併今希望ノ幸ヒヲ知ツタ所テ決シテ失望セヌベク決定セシ。此等ノ結果ナキ穿鑿ニ於テ彼ガ十ヶ月ヲ費ヤセシ然リト雖モ時ハ愉快ニ通過シ去リシ朝ニ於テ彼ガ新シキ希望ヲ以テ起キンタニ於テ彼ハ彼自身ノ出精ヲ譽メ舉ケシ而シテ夜ニ於テ彼ハ彼ノ疲勞ニ於テ附睡セシ。彼ハ彼ノ勞動ヲ忘レサセシ而シテ彼ノ思考ヲ變ラセシ所ノ一千ノ快樂ニ出會ヒシ。彼ガ動物ノ種々ノ智能及ビ植物ノ性質ヲ考ヘシ。而シテ若シモ彼ガ決シテ彼ノ逃走ヲ逐ケルベク適當デアラヌデアラウナラハ觀察ヲ以テ彼自身ヲ慰ムベク目論見シ所ノ異常ヲ以テ十分ナル場所ヲ發見セシ縱令尙ホ不成功トハ云ヘ彼ノ努力ガ盡ヌベカラザル探險ノ原因ヲ以テ彼ニ供給シタリシ事ヲ樂シム所テ。乍併彼ノ原始ノ好奇心ガ尙ホ消耗サレテアラサリシ彼ハ人ノ仕方ノ或智識ヲ得ルベク決定セシ。彼ノ願望ガ尙續キシ乍併彼ノ希望ガ尙僅ニナリシ。彼ハ最早彼ノ年命ノ堅ヲ測ルベク止メシ而シテ彼ガ見出サレ能ハザリシヲ知リシ所ノ罅隙ニ向ツテ新シキ勞役ニ依ツテ索ムル

ベク免セシ而カモ見解ニ於テ幸ニ彼ノ企圖ヲ保ツヘク決定セシ而シテ時ガ與フルデアラウ所ノ或ル方略ニ於テ保チテ置クベク(決定セシ)。

其五 皇子溪間ヨリ脱出セムト謀ル

今ヤ皇子ハ事ノ容易ニ成功スベシト假定シタルモノ之ガ實行ヲ試ムレハ其成功頗ル困難ナルヲ發見スルノ機會ニ接セリ。皇子此幸溪ヲ逃山スベキ考案ヲ起シタル事ハ前段末既ニ之ヲ叙シタルガ偶々皇子ハ其周邊ヲ回顧シテ身ハ籠中ノ鳥ナルヲ見タリ則チ四圍帳々タル峻突兀トシテ聳ヘ以テ自然ノ堅ト成シ且ツ一方ノ出入口タル洞穴ハ何人ト雖モ一たび通過シテ復タ還ルヲ得能ハザル鐵門堅ク鎖サレタルヲ知ル。嗚呼皇子ガ心中今鐵欄中ニ錮セラレタル鶯鳥ノ如ク雲ヲ戀フコト火急ナレドモ、マタ如何トモスル能ハザルナリ。於此乎皇子ハ荆棘叢雜トシテ地ヲ密鎖セル邊リ或ハ間道ノアルモヤト憶測シ危巖ヲ攀チ怪羅ニ總リテ峻坡ヲ跋シ幽溪ヲ涉スルコト一週又一週然レドモ四屏ノ山岳皆高峻ナルヲ以テ到底其峯巔ニ近ツクベカラザルヲ發見セリ。然リ然ラハ夫ノ洞口ノ鐵門ハ如何之ヲ開カムコト固ヨリ望ムベキニアラズ蓋シ是レ往昔ノ鐵匠ガ其技術ノ全力ヲ竭シテ堅牢無比ニ裝置シタル所若シ鬼神ナラハ識ラズ人類ニアツテハ如何ゾ徒手之ヲ動カスヲ得ム加フルニ常置ノ守門兵アツテ晝夜間斷ナク監守スルヲヤ矧ンヤ又皇子ノ境遇溪内各民ノ常ニ着目スル所ナルヲヤ。

此ニ至ツテ皇子ハ要害絶頼ナル此天然郭毫寸ノ罅隙依ツテ以ツテ身ヲ脱スベキモノアラザ



ルヲ知リケルガ倏忽トシテ尙ホ一望ノ属スベキアルヲ起想セリ則チ夫ノ湖水溢レテ一條ノ急流ヲナス處其水路タル洞穴アルニ考及ボシ、日影洞口ヲ照ラスヲ俟ツテ熟々之ヲ探檢スルニ水ハ多クノ狹路ヲ通シテ能ク其流ヲ進ムト雖ドモ怪巖奇石出沒シテ相支フレハ動物其モノ、如キ固形跡ノ斷シテ之ヲ通ズベキニアラザルヲ見タリ。今ヤ皇子其苦心悉ク畫餅ニ属シタルヲ知ツテ失望又落膽快々トシテ宮ニ還リタリト雖モ、徒然無聊ノ既往ニ異ナリ既ニ希望ヲ懷クノ幸福ナルヲ知了シケル今日タマシク脱出ノ企圖遂ケザレバトテ、爲ニ失望スルコトアラザルベク決心セリ。

斯ク勞シテ効ナキ探檢ニ從事スルコト十閱月而カモ皇子ハ朝ニ新希望ヲ齎ラシテ夜衾ヲ離レタニ終日ノ電燈ヲ自讀シ夜ニ入ツテ疲勞ノ爲メニ鼾睡シ以テ愉快ニ明カシ愉快ニ暮ラシヌ。然ル間皇子ハ爲ニ其勞苦ヲ忘レ、依ツテ其思慮ヲ變シタル幾多ノ快樂ニ出會ス。則チ動物ノ種々ノ智能ヲ研究シ或ハ植物ノ種々ノ性質ヲ推考シ、而シテ尙ホ其逃出ノ希望成功ヲ見ルニ至ラズト雖モ之ガ探檢ノ努力ハ無盡藏ナル研究ノ材料ヲ給シタルヲ喜ビ、若シ決シテ最初ノ目的ヲ達スル能ハズンハ此第二ノ着眼ニ係ル到處異常ヲ以テ盈チ満チタル溪内ヲ逍遙シ各種ノ穿鑿ニ從事シテ以テ自ラ慰メムト志スニ至レリ。然レドモ其最初ノ好奇心尙ホ消失シタルニアラズ多少人世ニ處スルノ方法ヲ識ラムト決ス。斯クテ其願ヤ尙ホ繼續シタレドモ而カモ其望ム所漸ク僅少ナルニ及ビ。今ハ其牢獄ノ四壁則チ四周ノ山岳ヲ探檢スルヲ止メ竟ニ發見シ能ハザルヲ知了シタル逃出ノ轉機ヲ索メムトシテ更ニ新勞役ヲ執ル

コトアラジト決意シ而カモ衷心常ニ其計畫ヲ貯ヘテ則シ投ズベキノ時期鑿ツベキノ機會ヲ得ハ直チニ略ヲ廻ラシテ之ニ乗ゼムト定メタリ。

第六章 飛行ノ技術ニ於テノ説

其レノ住民ノ一致及ビ快樂ニ向ツテ働クベク幸福ナル溪ニ於テマテ許サレテアツタリシ所ノ工匠ノ間ニ必需並ビニ裝飾ノ多クノ器械ヲ工夫シタリシ所ノ器械力ノ彼ノ智識ニ向ツテ卓越ナル人ガアリシ。流レガ轉セシ所ノ車ニ依ツテ彼ハ塔ニマテ水ヲ押進メシ其レカラ其ガ宮殿ノ室ノ總テニマテ分配サレテアリシ。彼ハ花園ニ於テノ小亭ノ其ノ周リニ彼ガ技術上ノ驟雨ニ依ツテ常ニ冷ニ空氣ヲ保チシ所ノ花園ニ於テノ小亭ヲ造リシ。貴女ニマテ具ヘラレタル森ノ一ツガ扇ニ依ツテ簸ラレテアリシ其ニマテ其ヲ通ホシテ走ル所ノ溪流ガ斷エザル運動ヲ與ヘシ所ノ扇云々而シテ穩和ナル音樂ノ器械其ニ就テ或モノガ風ノ衝動ニ依ツテ演セシ而シテ或モノガ流ノ力ニ依ツテ演セシ所ノ音樂ノ器械ガ適當ナル距離ニ於テ置カレテアリシ。

此工匠ガ時トシテハ刺世拉斯其人ハ彼ノ知得ノ總テガ開キタル世界ニ於テ彼ニマテ必要ニ於テアルテアラウ時ノ時節ガ來ルテアラウ事ヲ想像スル所ヲ知職ノ各ノ種類ヲ以テ樂マサレテアリシ所ノ刺世拉斯ニ依ツテ見舞ハレテアリシ。彼ハ彼ノ通常ノ仕方ニ於テ彼自身樂ムベク一日來リシ、而シテ帆走ル所ノ兵車ヲ



管造スルヲニ於テ忙ガハシキ主人ヲ見出セシ、彼ハ企圖ガ平行ノ表面ノ上ニ實行  
 スベクアリシヲ見シ而シテ大ナル價付ケノ云表ハシテ以テ其ノ完成ヲ願ヒシ  
 労働者ガ皇子ニ依ツテ左様ニ多ク尊敬サレテ彼自身ヲ見出スベク樂マサレテア  
 リシ而シテ尙ヨリ高キ名譽ヲ得ベク決定セシ。彼ハ云ヒシ「殿下ヨ、汝ハ器械科學ガ  
 成就シ能フ所ノモノニ就テ只小部分ヲ見タ。予ハ瓶及ビ兵車ノ運搬ナル運送具ノ  
 代リニ人ガ翼ニ就テ尙迅速ナル移動ヲ用非得シ事空氣ノ野ガ智者ニマテ開カレ  
 テアル事而シテ唯リ無智者及ヒ怠惰者ガ地面ノ上ニ匍匐シ要スル事ノ意見ニ就  
 テ長クアツタト」

此合圖ガ山ヲ經過スルコトノ王子ノ願望ヲ再燃サセシ。器械師ガ既ニ成就シタリ  
 シ所ノモノヲ見タ所テ彼ガ尙多クヲ爲シ能ヒシ事ヲ彼ハ推想スベク欲シツ、ア  
 リシ尙ホ彼ガ失望ニ依ツテ彼ヲ悲シムベク希望ヲ惱ヤマセシ前尙遙カ間フベク  
 決定セシ。彼ガ工匠ニマテ云ヒシ「汝ノ推想ハ汝ノ熟練ヲ超エテ流行スル事及ビ汝  
 ハ今汝ガ知ル所ノモノヨリハ寧ロ汝ガ望ム所ノモノヲ私ニ告ケル事ヲ予ハ恐レ  
 テアル。各ノ動物ハ彼ニ定メラレタル彼ノ原質ヲ持ツ鳥ガ空氣ヲ持ツ而シテ人及  
 ビ野獸ガ地ヲ持ツト。器械師ガ答ヘシ「左様ニ魚ガ水其ニ於テ野獸ガ天然ニ依ツ  
 テ而シテ人ガ技術ニ依ツテ游泳シ能ク所ノ水ヲ持ツ。泳キ能フ所ノ彼ガ飛ブベク  
 失望シ要セメ。泳グコトハ尙厚キ流動物ニ於テ飛ブベクアル而シテ飛ブコトハ尙

稀薄ナルモノニ於テ泳グヘクアル。子輩ハ事柄ノ異ナリタル密ナルコト其ヲ通ホ  
 シテ子輩ガ通過スベクアル所ノ異ナリタル密ナルコトニマテ抗抵ノ子輩ノ力ヲ  
 平衡スベクアル。汝ハ若シモ汝ガ空氣ガ壓付カラ退キ能フヨリモ尙速ニ其ノ上ニ  
 或衝動ヲ再新シ能フナラハ空氣ニ依ツテ必然上ニ保タル、デアラウト」  
 皇子ハ云ヒシ「游泳スルコトノ演習ガ甚ダ勞苦テアル、最弱キ四肢ガ速ニ疲勞シテ  
 アル。予ハ飛ブコトノ技術ガ尙ヨリ多ク烈シクアルテアラウヲ恐レテアル而シテ  
 風ハ子輩ガ泳キ能フヨリハ子輩ガ尙蓋カニ飛ビ能フニ非レバ一ツノ大ナル用非  
 ニ就テアラマテアラウト」

工匠ガ云ヒシ「地面カラ登ル下ノ労働ハ子輩ガ尙重キ家禽ニ就テ其ヲ見ル如ク大  
 ニアルテアラウ、乍併子輩ガ尙高ク昇ル時ニ地球ノ引カト而シテ其ノ重力ハ子輩  
 ガ空邊其處ニ人ガ落ツルベキ或ル憂慮ナシニ空氣ニ於テ漂フテアラウ所ノ空邊  
 ニ到着スルテアラウマテ漸次ニ減少サレテアルテアラウ然ルモニ最微軟ナル衝  
 動ガ結果ニルテアラウ所ノ前方ニ動クベキ外一ツノ注意ガ必要テアラマテアラ  
 ウ。殿下ヨ、汝其人ノ好奇心ガ左様ニ廣クアル所、汝ハ如何ナル快樂ヲ以テ物理家  
 ガ翼ヲ以テ給セシカチ容易ニ氣付クルテアラウ而シテ空ニ於テ搖動スル所テ彼  
 ノ下ニ回轉スル所ノ而シテ其レノ日々ノ運轉ニ依ツテ同シ並行線ノ内ノ總テノ  
 國々ヲ紹エスニ彼ニマテ示ス所ノ地球及ビ總テ其レノ住民ヲ見ルテアラウ。隨及



ビ大洋都市及ビ砂漠ノ動ク所ノ光景ヲ見ルベク如何ニ其レガ漂搖セル見物人ヲ  
 樂マセテハナラヌヨ。商賈ノ市場及ビ戰爭ノ野野蠻人ニ依ツテ危フクセラレタル  
 山深山ナルニ依ツテ暮ハレ而シテ平和ナルニ依ツテ靜メラレタル豐實ナル地方  
 ナ一標ノ安全ヲ以テ測量スベキヨ。然ル時ニ如何ニ容易ニ予輩ガ彼ノ通路ヲ總テ  
 ナ通ホシテナイル河ヲ追跡スルデアラウヨ。隔タリタル地方ニマテ越エテ通過シ  
 而シテ地球ノ一極端カラ他ニマテ自然ノ外面ヲ吟味スルデアラウヨト。

皇子ハ云ヒシ之ノ總テガ多ク願ハルベクアル作併子ハ一ツノ人が思辨且ツ安穩  
 ノ此等ノ空邊ニ於テ呼吸スベク適當デアラヌデアラウコトヲ恐レテアル。予ハ呼  
 吸スルコトガ高キ山ノ上ニ困難デアル事ヲ告ゲラレタ尙ホ縱令空氣ノ大ナル微細  
 ナルコトヲ生ズベキダケ左様ニ高シトハ云ヘドモ此等ノ險峻カラ落ッベク其ガ甚  
 ダ容易デアアル其故ニ予ハ其處ニ生命ガ支ヘラレテアリ能フ所ノ或ル高キカラ其  
 處ニ餘リ速ナル降下ノ危險ガアリ得ルコトヲ疑フト。

工匠ガ答エシ「若シモ總テノ能フベキ反對ガ最初ニ打勝タレテアラ子ハナラヌナ  
 ラバ何モガ會テ企テラレヌデアラウ。若シモ汝ガ子ノ計畫ヲ親愛スルデアラウナ  
 ラハ子ハ先ツ子自身ノ任運爲作ニ於テ最初ノ進飛ヲ試ムルデアラウ。予ハ總テノ  
 飛行動物ノ組織ヲ考ヘタ而シテ人間ノ形造ニマテ最多ク容易ニ用達テラレタル  
 蝙蝠ノ翼ノ變アル所ノ聚合ヲ見出ス。此模様ノ上ニ子ハ明日子ノ事業ヲ始ムルデ

アラウ而シテ一年ニ於テ人ノ懼ミト而シテ進ヒテ越エテ空氣ニマテ飛揚スルベ  
 ク豫期スルデアラウ。作併子ハ技術ガ吹聴セラレテアラヌデアラウ事及ビ汝ガ子  
 輩自身ノ外或ルモノニ向ツテ翼ヲ造ルベク予ニ要セヌデアラウ事ノ此盟約ニ於  
 テノミ働クデアラウト。

刺世拉斯ハ云ヒシ「何故ニ汝ハ利益ヲ左様ニ大ニ他者ニ猜ムデアラウカ。総テノ惡  
 練ガ一般ノ善ニ向ツテ勵マサレテアルベク屬スル。各ノ人が他者ニマテ多ク勵シ  
 タ而シテ彼カ受ケタ所ノ親切ヲ拂戻スベク屬スル」ト。

工匠ガ返ヘセシ「若シモ人が總テ德義デアリシナラバ子ハ大ナル快爽ヲ以テ飛行  
 スベキ總テテ彼等ニ敵フルデアラウ。作併若シモ惡棍ガ任アット、ブレック、ニヤ意ニ彼等ヲ空カラ  
 墮ヒ能ヒシナラバ等ノ保安ガ何デアアルデアラウカ。障壁カ又ハ山カ又ハ海カ孰レ  
 テモ雲ヲ逆シテ帆走レ所ノ軍勢ニ對抗シテ或保安ヲ能ヘ能ハザリシ。北方ノ野蠻  
 人等ノ飛行ガ風ニ於テ搖動レ而シテ彼等ノ下ニ回轉シツ、アリシ所ノ豐實ナル  
 地方ノ都府ノ上ニ抵抗スベカラザル暴烈ヲ以テ直チニ落下シ得シ。諸皇子ノ隱居  
 所幸處ノ住居ナル此溪谷テスラモ南方ノ海ノ岸ニ於テ蠢動スル所ノ裸體ノ國民  
 ノ或者ノ突然ナル降下ニ依ツテ驚ラサレテアリ得シト。

皇子ハ秘密ヲ約セシ而シテ成功ニ就テ全キ無望デナク成就ニ向ツテ待ナシ。彼ハ  
 時カラ時マテ工作ヲ見舞ヒシ其レノ進歩ヲ注目セシ而シテ運動ヲ輕メ而シテカ



ヲ以テ極端ナルヲ結合スベク多ク才智ナル發明ヲ注目セシ○工匠が毎日彼が彼ノ後ヘニ賜及ビ驚ヲ殘スデアラウ事ヲ尙多ク確カデアリシ而シテ彼ノ信シノ傳

一年ニ於テ翼ガ成就シテアリシ而シテ指定シタル朝ニ於テ製作者ガ小サキ丘ノ上ニ飛行ニ向ツテ給セシ○彼ガ空氣ヲ集ムルベク一時彼ノ翼ヲ動搖セシ然ル時ニ彼ノ佇立點カラ躍飛セン而シテ直チニ湖ニマテ落ナシ○空氣ニ於テ一ノ用非ニ於テアラザリシ所ノ彼ノ翼ハ水ニ於テ彼ヲ支ヘシ而シテ皇子ハ畏怖ト而シテ困苦ヲ以テ半バ死シタル彼ヲ隨ニマデアリキシ○

其六 飛行術ノ説

此幸○ノ住者ニ便益ト快樂トヲ與フルノ技術ヲ施サシメム爲ニ溪内所住ヲ許サレタル多數ノ工匠中器械學上ノ智識特ニ卓出セル一工アリ曾テ多クノ日常必用具及ビ裝飾用器ヲ發明ス○其中二三ノ著大ナルモノヲ擧グレバ水車ノ作用ニ依ツテ塔上ニ水ヲ引キ而シテ其水ヲ殿内各室ヘ分配スルノ裝置○花園中ニ小亭ヲ營ミ其周邊ニ技術上ノ雨ヲ降ラシテ絶エズ空氣ヲ清涼ナラシムルノ工夫○貴女ノ保養所ニ充テタル林間ニ幾多ノ扇ヲ具ヘ其中央ヲ貫流セル水力ヲ利用シテ不斷ノ煽動ヲ之ニ與ヘ以テ涼風ヲ生ゼシムルノ妙案○適宜ノ距離ニ樂器ヲ置キ或ハ風力ニ或ハ水力ニ其運動ヲ依頼シテ以テ合奏ヲナサシムルノ奇工等トス○皇子屢々此名工ヲ訪問セリ蓋シ其心中大ニ期スル所アルモノニシテ則チ此有智有能ナル名

工ニ就キ親シク聞キ且ツ學ハヒ他日社會ニ立ツノ時ニ至ツテ之ヲ應用スベキ各種ノ智識ヲ得ムコトヲ思惟シタルヲ以テナリ○

一日皇子例ノ如ク自ラ益スル所アラムトシテ此名工ノ許ヲ訪ヒ致々トシテ風帆車ノ製作ニ從事シツ、アルヲ見タリ而シテ惟ヘラク此器是平地ノ實用ニ供スベキナリト輒チ口ヲ極メテ其妙案奇工ヲ賞讃シ完成ノ速カナラムヲ願ヘリ○工匠之ヲ聞イテ皇子ノ賞讃著大ナルヲ喜ビ而シテ更ニ幾層ノ榮譽ヲ得ムコトヲ希ヒ○曰ク「賢明ナル皇子刺世拉斯殿下ヨリ殿下ハ唯器械學上一小部分ノ技術ヲ見給ヒタルニ過ギズ○臣ハ駟車ノ如キ運鈍ナル運搬器ヲ以テ嫌焉タル能ハズ之ニ代フルニ羽翼ヲ以テシ其作用ニ依ツテ更ニ迅速ナル運行ヲ得ムコトヲ期ス蓋シ空中ノ通路智者ノ爲メニ開カシテ唯リ愚夫懦漢ノミ遲々タル地上ノ行ヲ要スベキ事ノ意見ヲ懷クコト久シカリシナリト○

言ヤ皇子ガ山ヲ踰エテ此溪間ヲ脱出セムトスルノ希望ヲ再燃セシマス○皇子既ニ此器械師ガ製造シタル幾多ノ妙工ヲ見タリ此ニ於テ手惟ヘラク渠レ尙ホ巧妙精緻ナル伎倆ヲ顯ハシ得ムヤ是レ予ノ否ニ能ハザル所ナリト然レドモ輕輕其言ヲ信シテ望外ノ結果ニ遭ヒ後悔ノ臍ヲ嚙マムヨリモ先ツ精細ナル推問ヲ施スノ優レルニ如カズト決心シ○便チ器械師ニ向ツテ曰ク「予ハ足下ノ期スル所或ハ足下ノ伎倆ニ超エタラム手ヲ恐ル蓋シ足下ハ足下ノ胸底ニ藏ムル智能ヲ予ニ告示シタルニアラズシテ寧ロ然セバヤト望ム所ヲ語リタルナルベシ○見ヨ各種ノ動物ハ皆其所適ノ原素ヲ有スルヲ則チ鳥ハ空氣ヲ特有シ人及ビ獸ハ土地ヲ特有



ス是其分ニ應シタル進退行動ヲ得ル所以ナリ何ゾ之ニ反シテ任意自在ナルヲ得ベケムヤ」ト。器械師答ヘテ曰ク「然リ貴説ノ如シ然レドモ請フ一考ヲ廻ラセ、夫ノ鱗族ハ水ヲ特有ス而シテ水ハ唯リ鱗族ニノミ限リテ游泳シ得ルニアラズシテ野獸亦其稟天ノ性ニ依ツテ游泳シ人類亦其技術ニ依ツテ游泳ス。既ニ水中ニ游泳シ得ルモノ豈空中ニ飛行スルヲ望ミナシトセムヤ。蓋シ游泳ハ是空氣ヨリモ一層濃厚ナル流動物(則チ水)中ニ飛行スルモノニシテ飛行ハ是水ヨリモ更ニ稀薄ナル流動物(則チ空氣)中ニ游泳スルモノナリ。果シテ然ラムカ游泳則チ飛行、飛行則チ游泳ニシテ唯其通過スベキ物質ノ疎密厚薄ニ從ヒ人身ノ抵抗力ヲ平衡セバ可ナラムノミ。殿下若シ空中ニ身ヲ投シ迅速火急ナル飛行ヲ以テ能ク空氣ヲシテ壓付ノ爲メニ退去スルノ道マアラザラシムルヲ得給ハハ則チ殿下ノ身空氣ノ爲メニ支ヘラレテ能ク虚空ニ漂垂シ給ハムヤ必然タラム」ト。

皇子曰ク「夫レ游泳ノ演習ハ頗ル勞苦トスル所強健ナル四肢ト雖ドモ之ヲ爲セバ速ニ疲ル予ハ飛行ノ術果シテ足下ガ云フ所ノ如シトスルモ其勞働ヤ更ニ游泳ノ幾倍ナラムヲ恐ル、ナリ蓋シ吾人ガ水中ニ游泳シ能フヨリモ遙ニ速ニ飛行シ得ルニアラズンバ風能ク吾人ヲ支ヘ得ルノ用ヲナササルベケム」ト。

工師曰ク「最初地ヲ離レテ空中ニ騰ルノ勞ハ吾人ガ常ニ躰量重キ家禽ノ輕飛スル能ハザルヲ見テ知ル如ク頗ル大ナルベシト雖モ既ニ一旦高空ニ騰ラバ地球ノ引カト躰量ノ重力ト共ニ漸ク減シテ毫モ墜落ノ憂慮ナキニ至ルベシ果シテ然ラバ最微至弱ナル動作モ能ク其結果

ヲ示シ得ベキ前進ヲ爲スノ外更ニ意ヲ用ウベキ要アラザルベケム。殿下若シ臣ノ技術ヲ利用シテ今臣ガ云フ所ノ如キ高空ニ騰飛シ給ハハ眼下ニ回轉シテ同並行内ニ當レル山川地海ヲ絶エズ殿下ノ貴覽ニ供フル地球及ビ其住民ヲ瞰視シ給フベシ其時ニ至ツテ識ラズ殿下ハ果シテ何等ノ感覺ヲ生シ給ハムヲ惟フニ殿下ハ夫ノ精巧ナル窮理家此靈妙ナル羽翼ヲ予ニ與ヘテ以テ予ヲ娛シマシムルコト何ゾ斯ク大ナルヤト感シ給フベシ。蓋シ行動セル海陸都市砂漠ヲ見。貿易ノ市場モ亂戰ノ原野モ、蠻民横行セル山谷モ、豐富平穩ナル地方モ一様ナル安意ヲ以テ臨視シ。夫ノ危險多クシテ足ヲ容ル、ヲ得ザルナイル河ノ水源ヲ探究スルモ易ク更ニ遙ニ飛行シテ地球ノ極端ヨリ極端マテ其天然ノ外面ヲ檢察スルモ難キニアラズ想フテ此ニ至ラハ愉快極マリナキニアラズヤ」ト。

皇子漸ク喜色顯ハレシガ倏チ眉根ヲ蹙感シテ曰ク「足下ガ舒アル所都テ切望スベキ事トモナリト雖モ予ハ足下ガ推想上安穩トスル其高空ニ於テ吾人々類ノ尙能ク呼吸ヲ保チ得ルヤ否ヤ蓋シ疑ヒナキ能ハザルナリ。開ク高山ノ頂ニ登ラバ呼吸頗ル困難ヲ感ズト是他ナシ山上ノ空氣ハ平地面ノ空氣ヨリモ大ニ稀薄ナルニ依ルモノニシテ其厚薄ノ度斯ル大差ヲ生ズル如キ高所ト雖モ尙其山嶺ヨリ落下スルハ甚ダ容易ナリ是ヲ以テ予ハ信ズ其能ク呼吸ヲ止ムルニ至ラズシテ生命ヲ支ヘ得ベキ所ニアツテハ山嶺ト虚空トニ論ナク必ズ墜落過速ナル危険アルベキ事ナ」ト。

工師乃チ答フラク「凡ソ一事ヲ畫スルニ當ツテ非難百出スル是素ヨリ免レ能ハザル所ナリ



ト雖モ爲メニ挫折シテ止ムニ至ラハ何等ノ企圖ヲモ起スヲ得ザルベキナリ。殿下若シ臣ノ計畫則チ空中飛行ノ企圖ヲ贊シ給ハハ臣先ツ一身ヲ犠牲ニ供シテ其安否ヲ試ムベシ。臣情々各種ノ飛行動物ノ組織ヲ案ズルニ人體ニ最モ適合セル翹翹具ハ蝙蝠ノ翅ノ如キ殘積ヲ有スルモノニ如クナシ。故チ以テ臣ハ則チ蝙蝠翅ヲ模形トシテ明日翹翹具ノ製作ニ着手シ一年ヲ出デズシテ竣工ニ至ラシメ人ノ危害ヲ加ヘムトスルモ又ハ追フテ捉ヘムト試ムルモ兩ツナガラ及バザル高空ニ飛騰スルヲ期スベシ。然レドモ之ニ先ダテ殿下ノ誓約ヲ請ハザルヲ得ザル事アリ則チ此技術ノ吹聴セラレザラム事及ビ殿下ト臣トノ約束ニ依ツテ着手スルモノ、外更ニ他ノ人ノ爲ニ之ヲ製作スベキコトヲ殿下重ネテ臣ニ命ジ給ハザルベキ事殿下若シ此二事ヲ誓ヒ給ハムニハ臣則チ起工スベキナリ」ト。

皇子曰ク「足下何スレゾ斯ク有利有益ナルモノヲ大ニ秘セムトスル。凡ソ世ニ勝グレタル技能ハ努メテ之ヲ公ケニシテ汎ク模範ヲ示シ以テ後進ノ徒ヲシテ奮勵之ニ則トラシムルヲ要ス。蓋シ人各々世ニ益セラル、所アリ既ニ之ヲ得ル宜シク其恩ニ酬ユルニ復タ世ヲ益スルヲ以テスベシ。斯クテコソ社會ノ義務ヲ全フスルモノト云フベキナレ」ト。

器械師聲ニ應ジテ答フラク「世人皆德義ノ心ヲ有スルナラハ臣ハ喜ソテ飛行術ノ一切ヲ傳授スベシト雖モ。若シ破廉耻漢アリテ此術ヲ傳習シ得ハ則チ任意ニ空中ヨリ降り襲ヒテ以テ良民ヲ苦シムルニ至ラム果シテ然ラハ良民ノ安全何ヲ以テ保護スベキ乎。障壁ヲ高フスルモ峻山ヲ隔ツルモ蒼海ヲ擁スルモ雲ニ乗シ風ヲ驅ツテ來襲スル軍勢ニハ毫モ防禦ノ用ナ

爲サハルナリ。北國ノ蠻族虚空ニ漂ヒ其眼下ニ運轉セル地球ヲ瞰視シ富國ノ首府ヲ認メ得テ直チニ降下シ來ラバ支フルニ術ナク防グニ略ナク一ニ其暴掠ニ任ズルノ外無クム而シテ彼レ既ニ飛行ノ術ヲ傳習ス之ヲ爲スコト固ヨリ容易ナルベシ亞比斯尼亞諸皇子ノ幽居ニシテ幸福ノ蒐集場タル此溪間デスヲ尙且南方海岸ニ群棲セル裸族ノ唐突ナル降下ノ爲ニ際關セラレムコトアルベキナリ凡ソ物一利アレバ必ズ一害アリ此術既ニ洪利ヲ有ス豈大害ナカラズヤハ思フテ此ニ至ラハ易ク世ニ傳フベキニアラザルナリ故チ以テ臣堅ク秘セムトス殿下請フ之ヲ諒セヨ」ト。

皇子語塞ツテ則チ其言ニ從ヒ之ヲ秘スルノ約ヲ結ビ術ノ成否ニ關シテハ未ダ全ク疑ヒテ棄テズシテ以テ器械ノ竣工ヲ待ツコトニシ。爾來連日工場ニ臨ミテ其製作ノ進歩ヲ檢シ運動ヲ輕易ニスルコト及ビ輕重ヲ配合スル等ノ精妙ナル考案ニ眼ヲ注ギテ常ニ怠ラズ。又器械師ハ一日ヨリ鷓鴣ヲシテ己レガ後ヘニ瞞着セシメ得ルノ自信ヲ確クシ從ツテ皇子ハ之ニ感染シテ漸ク迷信ノ淵ニ沈メリ。

日月漸ク積ツテ此ニ一年、工師ガ精勵着手セル翹翹具成ル、於此手豫メ定メタル朝トナリテ工師ハ湖畔ノ小丘ニ登リ身ニ自製ノ翹翹具ヲ着シテ飛行ノ準備ヲ施シ。先ツ空氣ヲ集ムル爲ニ暫時兩翼ヲ鼓動シ然ル後チ身ヲ跳ラシテ空中ニ飛ブ翹翹自在ナリト思ヒキヤ瞬轉ノ間倏チ湖中ニ墜落シタルヲ見ムトハ。嗚呼此無謀人ガ翼空中ニ寸毫ノ益ナクシテ却ツテ水中ニ用アリ工師之ガ爲ニ支ヘラレテ僅ニ溺レザルヲ得而カモ恐怖ト苦痛トヲ以テ幾ンド死



ニ瀕シケルヲ皇子辛シテ陸上ニ救助シケリ。

第七章 皇子學識ノ人ヲ見出ス

皇子ハ唯々彼ガ意見ニ於テ逃出ノ一ツノ他ノ方便ヲ持タザリシ故ニ尙幸ヒナル  
出來時ニ向ツテ望ムベク彼自身ヲ惱シタ所テ此不幸ニ依ツテ多ク苦マサレテア  
ラザリシ。彼ハ尙ホ最初ノ機會ニ依ツテ幸ヒナル溪ヲ見棄ツルベク彼ノ願望ニ於  
テ深リ固リシ。

彼ノ考慮ガ今停止ニ於テアリシ彼ガ世界ニマテ入込ムコトノ一ツノ容貌ヲ持タ  
ザリシ而シテ彼自身ヲ支ヘルベク總テ彼ノ努力ニモ拘ハラヌ不満足ガ餘カニ彼  
ノ上ニ壓付ケシ而シテ彼ハ降雨ノ季候其ハ此等ノ地方ニ於テ定時アル所ノ降  
雨ノ季候ガ森ニ於テ遠逝スルコトノ其ヲ不便宜ニナセシ時ニ悲ミニ於テ彼ノ思  
考ヲ失フベク再ビ始メシ。

雨ハ曾テ知ラレタリシヨリハ尙長ク且ツ尙多ク暴烈ヲ以テ續キシ雲ガ圍繞スル  
所ノ山ノ上ニ破レシ而シテ急流ハ洞穴ガ水ヲ疏通スベク餘リ決クアリシマテ各  
ノ傍ニ於テノ平原ニマテ流レシ湖ガ其レノ岸ヲ溢レシ而シテ溪ノ平地ノ總テガ  
汎濫ヲ以テ蓋ハレテアリシ。宮殿ガ建テラレテアリシ所ノ高阜及ビ高起スル所ノ  
地面ノ或他ノ部分ガ總テ其レハ眼ガ今發見シ能ヒシ所ノ總テアリシ。而シテ羊  
群及ビ畜群ガ收場ヲ去リシ而シテ桑ヲキ野賦並ビニ馴レタルモノガ山ニマテ退

キシ。

此汎濫ハ室内ノ快樂ニマテ諸皇子ノ總テヲ限リシ而シテ刺世拉斯ノ注意ハ人情  
ノ種々ノ状態ノ上ニイムラツクガ踊セシ所ノ詩ニ依ツテ特別ニ捉ハラレテアリ  
シ。彼ハ彼ノ室ニ於テ彼ヲ伴フベク詩人ニ命令セシ而シテ第二ノ時彼ノ詩ヲ踊  
セシ然ル時ニ親シキ話ニマテ入込ム所テ彼ハ左様ニ能ク世界ヲ知リシ而シテ左  
様ニ熟練ニ生活ノ光景ヲ描キ能ヒシ所ノ人ヲ見出シタ。ニ於テ幸ヒニ彼自身ヲ考  
ヘシ。彼ハ物其ニマテ總令總テ他ノ人ニマテ普通トハ云ヘ幼時ヨリノ彼ノ幽居ガ  
奇妙ニ彼ヲ保ツタリシ所ノ物ニ就テ一千ノ疑問ヲ問ヒシ。詩人が彼ノ無智ヲ憫ミ  
シ而シテ彼ノ好奇心ヲ愛セシ而シテ珍奇及ヒ教訓ヲ以テ時ヨリ時マテ彼ヲ嬰セ  
シ其故ニ皇子ハ睡眠ノ是非モナキヲ悔ヒシ而シテ朝ガ彼ノ快樂ヲ再新スルテア  
ラウマテ待設ケシ。

彼等ガ一緒ニ坐シツレアリシ時ニ皇子ハ彼ノ歴史ヲ話スベク而シテ如何ナル偶  
事ニ依ツテ彼ガ余義サレテアリシカ若クハ如何ナル感動ニ依ツテ幸福ナル溪ニ  
於テ彼ノ生命ヲ結了スベク導キシカヲ踏ルベクイムラツクニ命令セシ。彼ハ彼ノ  
傳話ヲ始ムルベク行キツレアリシ時ニ刺世拉斯ガ合興ニマテ招喚サレ而シテ日  
晡ニマテ彼ノ好奇心ヲ制スベク余義ナクサレテアリシ。

其七 皇子詩人ニ遇フ



器械師が蹉跌、皇子ノ希望ヲ空シカラシメシト雖モ而カモ皇子ハ其不幸ノ結果ヲ多ク歎ズルコトアラズ唯々其念頭他ノ脱出ノ妙策ヲ案起スル能ハザルヲ以テ更ニ其果ヲ結ブベキ事件ノ生ゼムヲ希ヒ爲ニ苦心焦思スル耳。斯クテ皇子ハ若シ機會ノ乘ズベキモノアルニ遇ハレ直チニ此幸溪<sup>①</sup>ヲ脱出セムトノ其願望ニ意ヲ凝ラスコト舊ニ依ツテ更ニ變ゼザレドモ。當時降雨ノ季候ニ際シテ滿目唯水毫モ逃出ノ便ヲ與フベキ形狀アルナク已ムヲ得ズシテ其思想ヲ停止セザルヲ得ザルニ至リ努メテ自ラ慰メムトスルニモ拘ハラズ不滿徐ロニ度ヲ高メテ鬱憂快惱遂ニ制スル能ハザルニ及ビヌ。抑モ此頃恰モ至レル降雨ノ季候ハ連年時ヲ違エズ循環シ來ルモノニシテ夫ノナイル河年々ノ暴漲ハ之ニ原ヅクモノナルニ由リ亞比斯尼亞ノ霖雨トテ廣ク世ニ知ラル、所ナリ而シテ其季間ハ林中ノ逍遙ヲ妨遏スルヲ以テ皇子之ヲ悲ムノ餘リ其社會ニ交ハラムトスルノ觀念ヲモ再ビ茲ニ失ハムトスルニ至ル。殊ニ當年ノ降雨ハ既往曾テ知ラレタルヨリモ更ニ長ク且ツ裂シク、雲ハ四周ノ山嶺ヨリ起リ濛々トシテ滿天ヲ埋メ急流滾々暴ニ漲ツテ八方ニ注ギ原野ヲ浸シテ洞穴水ヲ疏スルニ足ラザルニ至リ。湖水ハ澎湃トシテ溪ノ内全平地ニ汎濫シ、眼界一望唯是渺茫タル廣洋ニシテ僅ニ宮殿峙立セル高阜及ビ二三隆起セル丘頂ノ異ナルヲ見ルノミ。之ガ爲ニ豚羊ノ群ハ相伴ヒテ牧場ヲ去リ野獸ハ馴レタルモ馴レザルモ皆山中ニ潜伏セリ。

又皇子皇女等ノ如キモ外遊ノ途頓ニ閉塞サレタルヨリ只管其樂事ヲ殿内ニノミ限りケルガ就中刺世拉斯皇子ハイムラツクト稱スル詩人ガ人情ヲ描出セル各種ノ詩篇ノ爲メニ特ニ其

注意ヲ惹カレヌ。皇子イムラツク其室内ニ誘ヒ以テ已レニ侍セムコトヲ命ジ則チ親シク其談ズル所ヲ聞キイムラツクガ能ク世態人情ニ通曉シテ巧ミニ生活ノ光景ヲ描出スルヲ知リ斯ル好伴侶ヲ得タルヲ大ニ喜ベリ。蓋シ詩人ガ云フ所是世上普通ノ事タルニ過ギズト雖モ幼ヨリ此離宮内ニ養ハレテ曾テ人事ノ何物タルヲ識ラザル皇子ニアツテハ一言隻句モ皆珍奇異常ノ感起リ趣味頗ル快妙ナルヲ覺エテ皇子ハ頻リニ其曾テ見聞セザル萬般ノ事物ニ就テ疑問ヲ起ス。詩人大ニ皇子ノ無識ヲ憫ミ且ハ其好奇心ヲ愛シテ續々新奇ナル談話ヲ起シ教訓ヲ與ヘ以テ其心ヲ娛マシム。皇子之ニ由ツテ感嘆愈々措ク能ハズ爲メニ夜間尋ニ就クモ尙ホ險ヲ合セ得ズ拂曉速ニ至ツテ其快樂ヲ新タニスルヲ待僉アルニ及ベリト云フ。

一日皇子イムラツクト對坐シ徐ロニ問フテ曰ク卿何等ノ事情ニ逼マラレテ若クハ如何ナル感動ノ起ルアリテ、此幸溪ニ來住シ終世ヲ送ラムトスルニ至リタルカ願クハ其來由並ビニ卿ガ既往ノ經歷ヲ語レト。詩人乃チ其問ヒニ應ジテ己レガ履歷ヲ談セムトシタル時適々皇子ハ遊宴ニ招カレ爲ニ止ミナク其好奇心ヲ制セザルヲ得ザルニ至リ當日黄昏再ヒ會シテ之ヲ聞カムヲ約シ於此乎別ル。

### 第八章

#### イムラツクノ歴史

日ノ終リガ熱帯ノ地方ニ於テ鬱散及ビ宴會ノ唯一ノ時期デアル而シテ其ガ其故ニ音樂ガ止ミシ而シテ諸皇女ガ退キシ前ニ夜半デアアル。刺世拉斯ガ然ル時ニ彼ノ仲間ニ向ツテ呼ビシ而シテ彼ノ生活ノ話ヲ始ムルベク彼ヲ要セシイムラツクガ



云ヒシ「子ノ歴史ガ長クアラヌデアラウ。智識ニマテ愛ヤサレテアル所ノ生命ハ沈黙ニ通過シ去ル而シテ出来事ニ依ツテ甚ダ儘カ變化サレテアル。公ニ於テ話スベク獨居ニ於テ考フルヘク讀ムベク而シテ聞クベク聞ヒ且ツ數問ニ答フルベク學者ノ務メデアアル。彼ハ飾リ及ビ畏怖ナシニ世界ヲ遍歴シ廻ル而シテ彼自身ノ如キ人ニ依ツテノ外知ラレテカ或ハ責メレテカ執レテモアラヌ。

子ハナイルノ泉カラ一ツノ大ナラザル隔タリニ於テノゴイアマノ王國ニ於テ生レテアリシ子ノ父ハ亞弗利加ノ島ノ國々及ビ紅海ノ埠頭ノ間ニ通商セシ所ノ富ムダル商人デアリシ。彼ガ廉直ヲ節儉テ而シテ出精デアリシ乍併界シキ感情ニ而シテ袂々會得ニ就テアリシ。彼ハ唯富ムデアルベク而シテ彼ガ州ノ知事ニ依ツテ汚サレテアルデアラウ事ヲ恐レテ彼ノ富ヲ秘スベク願ヒシ。

皇子ハ云ヒシ「若シモ或人が他者ニマテ屬スル所ノ其ヲ敢テシ取ルナラバ確カニ子ノ父ガ彼ノ司法ニ就テ等閑デアラ子ハナラヌ。彼ハ諸王ガ爲シタルダケ其レダケ能ク成遂ケラレタル不正ニ向ツテ罪サルベクアル事ヲ知リナサヌカ。若シモ子ガ皇帝デアリシナラバ子ノ臣民ノ最界シキモノガ不道ヲ以テ壓付ケラレテアラヌデアラウ。子ハ商人ガ彼ノ廉直ナル得物ヲ樂シヨ敢テセザリシ事ヲ告ケラレテアル時ニ子ノ血ガ沸騰スル奈ントナラバ權者ノ食慾ニ依ツテ彼等ヲ失フコトノ恐レニ向ツテナリ。子が皇帝ニマテ彼ノ罪惡ヲ告知シ得ルコトノ爲ニ人民ヲ盜ミ

シ所ノ知事ヲ指名セヨト

イムラツクハ云ヒシ「殿下ニ汝ノ熱心ハ自然ガ少壯ニ依ツテ援助サレタル徳ノ結果デアアル。汝ガ汝ノ父ヲ見乘テ而シテ恐ラクハ尙儘カナル短慮ヲ以テ知事ニ就テ聞クデアラウ時ノ時節ガ來ルデアラウ。亞比斯尼亞ノ領土ニ於テ壓制ガ屢々カ或ハ忍メレテカ執ンテモアラヌ乍併政府ノ一ツノ組織其レニ依ツテ殘酷ガ全ク拒止サレテアリ能フ所ノ一ツノ組織ガアラヌ。管下ガ一部ニ於テ權力ヲ而シテ他ニ於テ服従ヲ想像スル而シテ若シモ權力が數人ノ手ニ於テアルナラバ其ガ時トシテハ濫用サレテアルデアラウ。至高治官ノ警戒ガ多クテナシ得ル乍併多クガ尙爲サレズニ殘ルデアラウ。彼ハ決シテ犯シテアル所ノ罪惡ノ總テヲ知リ能ハヌ。而シテ彼ガ知ル所ノ總テヲ帝レニ問シ能フ。

皇子ハ云ヒシ「子ハ了解シナサヌ乍併子ハ爭論スルヨリ寧ク汝ニ聞キタリシ。汝ノ傳説ヲ疑ケヨト

イムラツクガ進ミシ「子ノ父ハ始メニ商業ニ向ツテ私ヲ性質ツケ得シ如キ斯様ナルモノヨリハ一ツノ他ノ教育ヲ持タヌデアラウ事ヲ目驗見シ而シテ記憶ノ大ナル力及ヒ會得ノ敏速ナ子ニ於テ見出ス所テ屢々子ハ亞比斯尼亞ニ於テ最富ムタル人テ或時アルデアラウ。彼ノ希望ヲ告知セシ。

皇子ハ云ヒシ「何故ニ汝ノ父ハ彼ガ發見シ或ハ樂ミ敢テセシヨリハ其ガ既ニ尙大



デアリシ向ニ彼ノ富財ノ増加ヲ願ヒナセシガ子ハ汝ノ眞實ヲ疑フベク懼ヒツト  
 アル而カモ剛立シ難キコトガ共ニ眞實デアリ能ハヌト  
 イムラツクガ答ヘシ剛立シ難キコトガ共ニ正シクアリ能ハヌ乍併人ニマテ歸セ  
 ラレテ彼等が共ニ眞實デアリ得ルコトヲ父ガ尙大ナル保安ノ時ヲ豫期シ得シトハ  
 雖モ或爾ヒガ感動ニ於テ生活ヲ保ツベク必要デアル而シテ彼其者ノ眞實ナル慾  
 望が供給サレテアル所ノ彼が想像ノ其等ヲ許サズマナラヌト  
 皇子ガ云ヒシ之ヲ子ハ或世ニ於テ考ヘ能フ子ハ子ガ汝ヲ中入レセシ事ヲ後悔ス  
 ルト

イムラツクガ進ミシ此希望ヲ以テ彼ハ學校ニマテ子ヲ送リシ乍併子ガ一度習識  
 ノ快樂ヲ見出シタリシ而シテ才智ノ快樂發明ノ自負ヲ感セシ時ニ子ハ無言ニ富  
 ナ界シムベク始メシ而シテ子ノ父其人ノ理解ノ界シキコトガ私ノ憫ミヲ起セシ所  
 ノ子ノ父ノ目的ヲ違背スベク決定セシ子ハ彼ノ慈愛が旅行ノ疲勞ニマテ子ヲ晒  
 ラステアラウ前二十年老ヒテアリシ其時ニ於テ子ハ子ノ本國ノ文學ノ總テニ於  
 テ引續キタル先生ニ依ツテ教育セラレタリシ毎時新シキ或事ヲ子ニ教ヘシ時ニ  
 子ハ歐羅バノ級キタル進ニ於テ住ミシ乍併子ガ大人ノ方ニ進ミシ時ニ子ハ尊敬其  
 ナ以テ子ガ子ノ教育者ノ上ニ歸ムルベク用非テアツタリシ所ノ尊敬ノ多クヲ失  
 ヒシ余ントナラバ課業ガ終ツテアリシ時ニ子ハ普通ノ人ヨリハ尙賢ク或ハ尙善

ク彼等ヲ見出シナサヤリシ故ニ

遂ニ子ノ父ガ商業ニ於テ子ヲ入門サスベク決定セシ而シテ彼ノ土中ノ財帛ノ一  
 ツヲ開ク所テ資金ノ一万片ヲ計ヘ出セシ彼ハ云ヒシ之ガ資本其ヲ以テ汝ガ買  
 セ子ハナラヌ所ノ資本デアアル若キ人ヨリ子ハ五分ノ一ヨリハ尙僅ナリ以テ始メシ而  
 シテ汝ハ如何ニ出精ト而シテ節儉ガ其ヲ増加シタカチ見ル○若シモ汝ガ怠慢或ハ  
 放蕩ニ依ツテ其ヲ浪費スルナラバ汝ハ汝ガ富ムテアルデアラウ前ニ子ノ死ニ向  
 ツテ待タズマナラヌ若シモ四年ニ於テ汝ガ汝ノ資本ヲ二重ニスルナラハ子ハ其  
 日リ後子目下ヲ止マシムルデアラウ而シテ朋友及ビ仲間商人トシテ一緒ニ  
 住ムデアラウ○如何トナラバ彼ハ常ニ富ニナルコトノ技術ニ於テ一様ニ熟練シテア  
 ル所ノ子ト一様デアラウ故ニト

子輩ハ賠償ナル商貨ノ包荷ノ中ニ封緘シタル子輩ノ貨幣ヲ子輩ノ階級ノ上ニ置  
 キシ而シテ紅海ノ濱ニマテ旅行セシ子ハ水ノ廣濶ナルコトノ上ニ子ノ眼ヲ投ゲシ  
 時ニ子ノ心ガ逃走セル凶隣ノ其ノ如ク飛ビシ子ハ子ノ心ニ於テ無限ノ好奇心ガ  
 起ルヲ感セシ而シテ他ノ國民ノ仕方ヲ見ル事及ビ亞比斯尼亞ニ於テ知ラレサル  
 科學ヲ學ブ事ノ此機會ヲ捉フルベク決定セシ○

子ハ子ノ父ガ約束其ハ子ガ預ラスベク願セヌ所ノ約束ニ依テハナク乍併罰金  
 其ハ子ガ犯スベク自由ニ於テアリシ所ノ罰金ニ依ツテ子ノ資本ノ發還ニマテ子



ナ余義ナクシタリシ事ヲ記臆セシ而シテ其故ニ予ノ支那スル所ノ願望ヲ満足サ  
 スベク而シテ智識ノ泉ニ於テ飲ムトニ依ツテ好奇心ノ渴望ヲ醫スベク決定セシ  
 子ハ予ノ父ト緊聯ナシニ通商スベク想像サレテアリシ故ニ船ノ主長ト熟知サレ  
 テナルベク其ガ子ニ向ツテ容易テアリシ而シテ或他ノ國ニマテ通路ヲ生ズベク  
 其ガ子ニ向ツテ容易テアリシ。  
 子ハ予ノ航海ヲ整理スベク擇ビニ就テ一ツノ運商ヲ持タザリシ子ガ遍歴セシ何  
 處デモ予ガ前ニ見ナシ所ノ國ヲ子ハ見ルテアラウ事ノ其ガ子ニ向ツテ充  
 分テアリシ。子ハ其故ニ予ノ目論見ヲ告知スル所ノ書面ヲ子ノ父ニ向ツテ送シタ  
 所テスラツトニ向ツテ解読スル船ニ入込ミシ。

其八 イムラツクノ經歷

凡ソ熱帶圖下ノ各地方ニ在ツテハ日晡ヲ以テ遊興及ビ宴會ノ時期トス、然ルテ以テ此幸溪  
 内ニ於テモ皇子皇女等相集ツテ樂事ヲ開クハ毎ニ黄昏以後ナルニ由リ興盡キ宴果テ、諸皇  
 女各寢殿ニ退クニ先ダチ夜ハ既ニ三更ナリ。皇子刺世拉斯、前ニ詩人ニ約シケルガ如ク當日  
 否其夜ノ樂事果テ、後イムラツクヲ招キテ囑スルニ其履歷ヲ語ルベキヲ以テスイムラツク  
 乃チ曰ク「臣ノ履歷ハ之ヲ語ルニ多辨ヲ須フルヲ要セザルベシ凡ソ人何人ト雖モ其終生中  
 學事研究ノ爲ニ費消セル年間ハ特言スベキ波瀾モナウシテ經過シ去リ邂逅、事ノ起ルアツ  
 テ僅ニ變化ヲ生ズルノミ則チ或ハ公衆ニ向ツテ其抱負ヲ演シ或ハ獨居靜坐シテ考案ヲ廻ラ

シ或ハ書ヲ讀ミ或ハ疑問ヲ質シ及ビ質疑ニ答フル等は學者ノ務ナリ。寔ニ學者ハ華飾ヲ須  
 ヒズ畏怖ヲ懷カズ颯然トシテ世界ヲ漫遊シ、到ル處自己ト等シカルベキ人則チ多少學識ヲ  
 有スルノ人ニ依ツテノ外、名ヲ知ラレ若クハ尊重サル、コトアラザルナリ。

却説ス臣ハ索ナイル河ノ源泉ヨリ遠カラザルゴイアマ王國ノ出生ニシテ父ハ亞非利加諸島  
 國及ビ紅海ノ諸港間ニ通商ヲ營ミタル富商ナリ。父性廉直ニシテ且ツ節儉ヲ守リ加フルニ  
 業務ニ歎掌スル孜孜精勵タリト雖モ其思想ハ卑野ニシテ且ツ其理解力ハ狹隘ナリ。而シテ  
 其常ニ翼フ所鉅富ヲ致サムトスル事ト州知事ノ爲ニ其財產ヲ掠奪サレムヲ恐レテ其富ヲ秘  
 セムトスル事トノ二點ニアリキト

皇子之ヲ聞イテ曰ク「若シ何人ト雖モ敢テ他ノ所有權内ニ屬スルモノヲ奪取スナラハ是實  
 ニ予ガ父ノ施政上緩慢ナル點アルニ由ルト云ハザルベカラズ。凡ソ一國ニ君タルモノハ其  
 臣下ノ一舉一動皆已レ自ラ責ヲ負ハザルベカラザルモノニシテ換言スレバ臣下ノ處置其當  
 ナ失スルモノ罪當サニ國君ニ歸スベキ事固ヨリ云フテ俟タザルナリ而シテ予ガ父之ヲ知テ  
 ズヤ。予ニシテ若シ皇帝タラムニハ臣民中最モ卑シキモノト雖モ之ヲシテ無道ノ抑制ヲ蒙  
 ルベキ歎アラシメザルベキナリ。實ニ予ハ廉直ナル商人ガ正當ノ權利ヲ積ミツ、而カモ之  
 ガ保安ヲ憂スル如キ事ヲ耳ニスル時憤激轉々措ク能ハズ是レ他ナシ威權ヲ有スル輩ノ貪慾  
 ノ爲メ良商其利得テ奪ハレムコトヲ恐ル、ガ故ニ爾ルナリ。足下請フ貪婪不道ノ利ヲ占メ  
 タル知事ノ姓名ヲ予ニ語レ予ハ其罪惡ヲ帝ニ告ゲテ以テ典刑ヲ正サムトスルナリト



イムラツク曰ク「殿下ノ斯ク徳義ニ熱心ナルハ是血氣ノ撥動ニ出テタルモノニシテ。他日  
 殿下ニ於テモ父帝ノ過失紫ヨリ止ムヲ得ザル事情アリテ然ルニ至リタルモノニテ深ク咎ム  
 ベキニアラズトセラレ從ツテ知事カ非行ヲモ蓋シ大ニ寛宥セラル、ノ時ヤ來ラム。抑モ亞  
 比斯尼亞ノ版圖内深ク抑壓ノ行ハル、ト云フニハアラザレド亦決シテ之ヲシトスルニアラ  
 ズ然リト雖モ抑壓ハ是レ各國政府ノ通有ニシテ未ダ一政府ダモ其法度ニ依ツテ萬種ノ横害  
 悉ク拒止スルヲ得タルモノアラザルナリ。蓋シ主治者ニ權威アリ被治者ニ服従心アルハ固  
 ヲリ勢ヒノ然ラシムル所ニシテ、權威アルモノ時ニ之ヲ濫用スルモ亦免ル、能ハザル所ナ  
 ルベシ。主治者ノ警戒ハ其達スル區域頗ル廣カルベシト雖モ尙ホ且ツ其達セザル所多カラ  
 ムカ。則チ主治者ハ萬般ノ犯罪悉ク之ヲ知ラムハ決シテ爲シ得ベカラザルコトニシテ而カ  
 モ其之ヲ知リ得タルモノ悉ク刑罰ニ處スルコトヲ得テ行フハ極メテ希レナリ。斯レハ殿下モ  
 今日ミアツテコソ今ノ如キ義心起レ他日は等ノ情狀ヲ熟知セラル、ニ至ラハ或ハ大ニ悟リ  
 給フコトアルベキナリ」ト

皇子曰ク「予ハ足下ノ云フ所一々是トシモ會得シ能ハザレドモ、予ノ足下ヲ招キタル足下  
 ト論義辨難スル爲ニアラズシテ寧ロ足下ニ開ク所アラムトスル爲メナレバ今ハ貴説ノ當否  
 ナ論セザルベシ。請フ足下ガ履歴ヲ語リ續ケムナ」ト  
 イムラツク乃チ其談ヲ進メタリ曰ク「臣ノ父始メ臣ヲシテ商業家タラシメムトシ之ニ相當ス  
 ルモノ、如キヲ除キテハ毫モ他ノ教育ヲ受ケシメザラムト企テ而シテ臣ノ記憶力ノ強キト

理解ノ敏速ナルトヲ見ルニ及ムテ早晚臣ハ亞比斯尼亞國中最も富豪ナルモノトナルニ至ラ  
 ムトノ其希望ヲ屢々臣ニ告ゲタリ」ト

皇子曰ク「既ニ足下自ラ云フ如ク足下ノ父ハ大ニ資財ニ富ミ他ノ發見スル所トナラムヲ恐  
 レテ其保安ニ惱慮スルモノナラズヤ然ルモ尙ホ富財ノ増殖ヲ願ヘルカ。予ハ足下ノ言ヲ確  
 信シ衷心之ニ疑ヒテ容ル、ヲ快カラズトスルモノナレドモ而カモ矛盾ノ談ハ孰レカ一方具  
 實ナラザルモノアラム足下以テ如何トナス」ト

イムラツク答ヘテ曰ク「然リ貴言ノ如ク矛盾ノ所談孰レモ眞實ナルヲ得ズト雖モ人事ニ就  
 テハ強チ然ルモノニアラズ時ニ或ハ孰レモ正當ナル事アリ。蓋シ臣ノ父ガ更ニ鉅富ヲ致サ  
 ムコトヲ望ムハ是レ早晚更ニ安全ニ之ヲ有チ得ベキ時節ノ到來スベキヲ豫望シテ然ルモノ  
 ニシテ則チ矛盾ノ言敢テ矛盾トスベキニアラザルナリ。況ンヤ處世ノ進歩ヲシテ常ニ活動  
 ナ保タシメムニハ必ズ若干ノ希望ヲ懷抱スルヲ要シ既ニ實際ノ需要ヲ欲カザルモノハ其想  
 像上ノ慾望ヲ必要トスルモノナルニ於テナヤ」ト

皇子曰ク「予ハ多少其理ニ就テ會得スル所アリ於此手足下ノ談話ヲシテ中止セシメタルヲ  
 悔ニ足下請フ諒セヨ焉」ト

イムラツク則チ其談ヲ進ム、曰ク「此希望則チ實業家養成ノ希望ヲ以テ父ハ臣ヲシテ學校ニ  
 入ラシメキ然ルニ臣ハ一旦學業ニ從事シテ漸ク智識ノ快樂ヲ發見シ且ツ才學ノ愉快發明ノ  
 自負ヲ感起スルニ及ビ徐ロニ財貨ヲ卑シムノ觀念萌シ而シテ漸次父ノ見解ノ野卑ナルヲ憫



ムニ至ツテ臣ハ斷然父ガ期スル所ニ違背セムト決セリ。爾後歲月積ツテ臣ガ齡二十年ナルニ及ビ父始メテ臣ヲシテ旅行ノ難ヲ嘗メシムルヲ許シヌ其時ニ至ルマデ臣ハ絶エズ教師ニ從ヒ自國各種ノ學術ヲ研究シタリシガ。臣ハ連日連時新知識ヲ得テ歡喜ニ明カシ歡喜ニ暮ラシタリト雖モ屢々星霜ヲ重テ漸ク成人ノ期ニ進ムニ及ビ臣ハ從來臣ノ教師ヲ目シタル其尊敬ノ多分ヲ失ヒヌ蓋シ臣業ニ既ニ學課ヲ履修シ了リタル時臣ノ教師等ガ特ニ尋常人ニ優リタル所アラザルヲ發見シタレバナリ。

於此乎父ハ遂ニ臣ヲシテ商業ニ着手セシムト決シ其所有ニ係ル土中ノ一財帑ヲ開キテ一萬金ヲ出シ臣ニ對シテ曰ヘラツ「此一萬金は、以テ汝ガ商業ニ從事スベキ資本ナリ。予ハ其五分ノ一ニモ足ラザル資金ヲ以テ營業ヲ始メ勉勵ト節儉トニ依ツテ汝ガ見ル如キ今日ノ増殖ヲ致シヌ。汝若シ怠慢放逸此一萬金ヲ浪費シ盡サバ更ニ汝ガ富ヲ起スニ先ダテ手ヲ空フシテ予ノ死期至ルヲ俟タザルベカラズ之ニ反シテ若シ四箇年中此資本ヲ倍増セムニハ其後予ハ汝ヲ目スルニ予ノ眷屬タルヲ以テセズ親友且ツ商友トシテ共ニ住ムベシ。是レ蓋シ殖富ノ術ニ熟練ナル予ト一様タルベキヲ以テナリ」ト。斯ノ如クニシテ臣既ニ一萬金ノ資本ヲ得、之ヲ雜貨中ニ包ミテ駱駝ニ負ハシメ鄉關ヲ出テ、旅途ニ上リ以テ紅海ノ濱ニ至ル眼界一望水沙漫、茫漠トシテ端倪スル能ハザルヲ見、繫鎖ヲ脱シテ逃走シタル囚徒ノ如キ想ヒアリ。念頭勃々無限ノ好奇心起リ於此乎從來曾テ見ザル他國民ノ慣習ヲ觀察シ且ツ自國(則チ亞比斯尼亞)ニ於テ知ラザル學術ヲ研究スルニ就テ此好機會ニ乘ゼムモノヲト決

心セリ。

臣既ニ云ヘルガ如ク臣ノ父ハ必然臣ヲシテ履行セシムベキ約束ヲ以テセズ自ラ甘受スルニ於テハ之ヲ犯サムコト自由ナル爵ヲ以テ臣ノ資金増殖ノ事ヲ臣ニ逼リタルヲ記スルヲ以テ臣ハ臣ノ渴望ヲ滿タシメ智識ノ源泉ニ咽ヲ潤シテ勃々タル好奇心ヲ治メムト決シヌ。臣既ニ父ノ干涉ヲ離レ獨立シテ業ヲ營ムモノナルヲ信認サレタルヲ以テ恐長ト面識ヲ得且ツ孰レノ國ヘモ航行スルノ便ヲ得ムコト容易ナリキ。臣ハ未ダ孰レノ國ヘ航行シテ宜ガルベキヤヲ自ラ擇取スルノ識ナシト雖モ而カモ臣ノ到ル處其何國何地タルニ別ナク孰レモ既往未曾見ノ所ナルヤ固ヨリ云フヲ俟タズ。故ニ臣ハ一書ヲ裁シテ父ニ送リ以テ臣ガ企圖ヲ告ゲ而シテスラツトニ向ツテ解纜スル船ニ乘リタリ」

### 第九章

イムラツクノ歴史 (續キ)

予ガ最初水ノ世界ノ上ニ入込ミシ而シテ陸ノ觀覺ヲ失ヒシ時ニ予ハ樂シム所ノ受佛ヲ以テ予ノ周リヲ見廻ハセシ而シテ無限ノ容貌ニ依ツテ擴大サレテ予ノ精神ヲ考フル所ヲ予ハ永久満足スルコトナシニ凝眸シ廻ハシ能ヒシ事ヲ想像セシ。併暫時ニ於テ予ハ唯ダ予ガ既ニ見タリシ所ノモノヲ再ビ見能ヒシ所ノ荒レタル不變ヲ隔ムルコト就テ厭勞シタナリシ。予ガ然ル時ニ船ノ中ヘ降りシ而シテ予ノ未來ノ快樂ノ總テガ不快及ビ失望ニ於テ此ノ如ク終ハラヌテアラウカ孰レカヲ



一時ノ間疑ヒシ子ハ云ヒシ尙確ニ大洋及ビ陸ガ甚ダ異ツテアル水ノ唯一ノ變化  
 ハ休止ト而シテ運動トアル乍併地ハ山及ビ谷砂漠及ビ都府ヲ持ツ其ガ異リタ  
 ル慣習及ビ反對ノ意見ノ人ニ依ツテ住ハレテアル而シテ子ハ縱令子ハ自然ニ於  
 テ其ヲ失フテアラウトハ云ヘ生命ニ於テ變化ヲ見出スベク望ミ得ル。

此考ヘテ以テ子ハ子ノ心ヲ靜メシ而シテ時トシテハ航海ノ技術其ハ子ガ決シテ  
 實行セザリシ所ノ航海ノ技術ヲ水夫ガラ學ブトニ依ツテ而シテ時トシテハ種々  
 ノ位置其ノ一ツニ於テ子ガ曾テ置レテアラナシ所ノ種々ノ位置ニ於ケル  
 子ノ行爲ニ向ツテ計策ヲ組織スルトニ依ツテ航海ノ間子自身ヲ娛マセシ。

子ハ子輩ガストラツトニ於テ安全ニ上陸セシキニ子ノ海上ノ快樂ニ就テ幾ンド疲  
 レテアリシ。子ハ子ノ貨幣ヲ安全ニセシ而シテ表示ニ向ツテ或ル便利品ヲ購求ス  
 ル所テ内地ノ地方ニマテ經過シツトアリシ所ノ隊商ニマテ私自身ヲ結合セシ。或  
 道理或ハ他ニ向ツテ子ノ伴侶ハ子ガ富ムテアリシ事ヲ推察スル所テ而シテ子ノ  
 質問ト而シテ驚嘆ニ依ツテ子ガ不案内デアリシ事ヲ見出ス所テ新參者其人ヲ彼  
 等ガ欺クヘキ權利ヲ持チシ所ノ而シテ其人ハ通常ノ出金ニ於テ欺騙ノ技術ヲ學  
 ブベクアリシ所ノ新參者トシテ子ヲ考ヘシ。彼等ガ奴僕ノ偷盜及ビ官吏ノ賂奪ニ  
 マテ子ヲ賂ラセシ而シテ彼等自身ノ智識ヲ優越ニ於テ樂ム事ノ其レノ外彼等自  
 身ニマテ利益ナシニ不信ナル云前ノ上ニ掠奪サレタル子ヲ見シト。

皇子ハ云ヒシ「二分時停止セヨ其處ニ彼ガ彼自身ニマテ利益ナシニ他者ヲ困泥セ  
 シムルデアラウト」如キ期望ナル愚クナリテ居ル。人ニ於テアルカ。子ハ總テ  
 ガ卓越ヲ以テ樂マサレテアル事ヲ容易ニ氣付ク能フ乍併汝ノ無智ハ單ニ偶然ノ  
 出來事其ハ汝ノ害惡カ又ハ汝ノ愚痴カ孰レモアラヌ所テ彼等自身ヲ賞讃スベ  
 キ一ツノ道理ヲ彼等ニ與ヘ能ハザリシ所ノ偶然ノ出來事デアリシ而シテ彼等ガ  
 有チシ所ノ而シテ汝ガ缺キシ所ノ智識ハ彼等ガ汝ヲ誑カセシダケ其レダケ活潑  
 ニ警戒スル事ニ依ツテ示シ能フタト。

イムラツクガ云ヒシ「高慢ガ希ニ優美テアル其ガ甚ダ弊シキ利益ヲ以テ其自身ヲ  
 樂マスデアラウト」而シテ其レガ他ノ不幸ト比較サレテアリ得ル時ノ外猶ヨ其自  
 身ノ幸福ヲ感セヌ。彼等ハ子ノ敵デアリシ奈ントナラハ彼等ハ富ムテ私ヲ考フル  
 ベク苦痛セシ故ニ而シテ子ノ抑壓者テアル奈ントナラハ彼等ハ弱ク私ヲ見出ス  
 ヘク樂ミシ故ニト。

皇子ハ云ヒシ「進メ。子ハ汝ガ話ス所ノ事實ニ付テ疑ハヌ併汝ハ起端ヲ誤ルベク  
 彼等ヲ非難スルヲ想像スル」ト。

イムラツクハ云ヒシ「此伴侶ニ於テ子ハ都府其ニ於テ大要臥兒ガ幣ニ住ム所ノ都  
 府ナル印度斯坦ノ首都アグラニ於テ到着セシ。子ハ國ノ言語ニマテ子自身ヲ充用  
 シ而シテ數月ニ於テ學ヒタル人ト會話スベク適當デアリシ其人ノ或者子ハ嚴



格ニ而シテ沈黙ニ見出セシ而シテ他者ヲ容易ニ而シテ交談好キニ見出セシ(或者ハ彼等ガ困難ヲ以テ彼等自身學ンダリシ所ノモノヲ他者ニ教フルベク好ヒツ、アリシ而シテ或者ハ彼等ノ研究ノ企圖ガ教訓スルノ威儀ヲ得ベクアリシトテ示セシ。

若キ皇子等ノ教官ニマテ子ハ非常ノ智識ヲ人トシテ皇帝トマテ示サレテアリシトホド左様ニ多ク子自身ヲ紹介セシ。皇帝ガ子ノ國及ビ子ノ旅行ニ關ハル所ノ多クノ疑問ヲ子ニ問ヒシ。而シテ縱令子ハ今彼ガ普通ノ人ノ拙カノ上ニ願ハセシ所ノ或事ヲ退想シ能ハストハ云ヘ彼ハ彼ノ才智ニ於テ驚カサレテ子ヲ送リ遣リシ而シテ彼ノ善良ニ就テ恍惚セシメテ(子ヲ送リ遣リシ)。

子ノ信用ハ今商人其者ト共ニ子ガ旅行シタリシ所ノ商人ヲ朝廷ノ貴女ニマテ紹介スルコトニ向ツテ子ニマテ充用シ事ホド左様ニ高クアリシ。子ハ請願ノ彼等ノ大膽ニ於テ驚カサレテアリシ而シテ歸カニ道ニ於テ彼等ノ實行ヲ以テ難詰セシ。彼等ハ還ハサル冷談ヲ以テ子ヲ聞キシ而シテ耻辱或ハ悲哀ノ一ツノ徵候ヲ示サリシ。

彼等ハ然ル時ニ賄賂ノ授與ヲ以テ彼等ノ要求ヲ勢ヒ付ケシ乍併子ガ親切ニ向ツテナサステアラウ所ノモノヲ貨幣ニ向ツテナサステアラウ而シテ彼等ガ子ヲ害シタリシ故テハナク乍併子ガ他者ヲ害スベク彼等ヲ適當ニセメテアラウ故ニ彼

等ヲ拒ミシ。

其處ニ最早學バラレテアルベクアラザリシマテアアラニ於テ住ムダ所テ私ハ波斯ニマテ旅行セシ其處ニテ子ハ往古ノ壯麗ノ多クノ遺物ヲ見シ而シテ生活ノ多クノ新シキ適當ヲ見付ケシ。波斯人ハ卓出ニ社交ノ國民アル而シテ彼等ノ會合ガ性行及ビ慣習ヲ注目スルノ而シテ總テ其レノ變革ヲ通ホシテ人間ノ性質ヲ追跡スルノ毎日ノ機會ヲ子ニ與ヘシ。

波斯カラ子ハ亞刺比亞ニマテ行キ其處ニテ子ハ一度ニ收畜及ビ勇氣ナル國民其人ハ或ル定マリタル住居ナシニ住ム所ノ其人ノ唯一ナル富財ハ彼等ノ畜群及ビ羊群テアル所ノ而シテ其人ハ縱令彼等ガ彼等ノ所有ヲ食ルカ又ハ諸ムカ執レモナシトハ云ヘ而カモ總テノ人類ト總テノ時代ヲ通ホシテ世襲ノ戰爭ニ從フタ所ノ國民ヲ見シト。

其九 イムラツクノ履歷 (承前)

臣始メテ洋中ニ入ルヤ四阿皆水陸影一點眼界ヲ遮ギルモノナク渺漫無端ノ廣界ナルヲ見テ心胸頓ニ擴大サレタルヲ覺エ長ク眺望ニ飽クナケムト想像シタリシガ未ダ幾クナラザルニ早ク光景一様不變ナルニ倦厭セリ。於此手臣ハ甲板ヲ降ツテ船室ニ入り將來ノ快樂モ亦総テ斯ノ如ク不快ト失望トヲ以テ終ラザルベキヤ否ヤヲ疑フコト時アリシ。則テ自ラ曰ク尙ホ大洋ト陸地トハ頗ル趣ヲ異ニスルコト確焉タリ蓋シ水ノ變狀ハ唯ダ靜穩ナルト彼動ヲ



起ストノ二様ニ過ギザレドモ陸地ニアツテハ大ニ然ラズ則チ陸上ニハ山嶽アリ溪谷アリ砂漠アリ都會アリ且ツ風俗思想ヲ異ニセル人民ノ住居スルアリ而シテ縱令天然ノ光景悉ク目ニ馴レテ竟ニ變状ヲ見ル事能ハザルニ至ルモ尙且ツ人事ノ異動ヲ發見スベキ望ミアリト。斯ル考ヲ以テ臣ハ自ラ不快ノ感情ヲ制止シ或時ハ臣ガ曾テ實行セザリシ航海術ヲ水夫ヨリ學ビ或時ハ臣ガ曾テ臨マザリシ種々ノ境遇ニ於ケル處置ニ就テノ方畧ヲ立案シ彼此自ラ慰メテ以テ航海ノ日子ヲ送レリ。

既ニシテ船スラツトニ到着シ臣等乗客一同無事ニ上陸シケリシ時臣ハ幾ンド航海ノ倦勞其極度ニ達シテアリタリ。其後チ臣ハ携帶セル貨幣ノ安全ヲ計リ、商人タル扮粧ニ用ウベキ若干ノ物品ヲ購求シ萬事ノ準備整頓シテ方サニ内地ニ進マムトスル結隊旅客ニ同伴セリ。然ルニ臣ノ同行者等ハ何等ノ見ル所アツテ然ルヤ臣ノ財囊頗ル富メルヲ推察シ而シテ臣ガ物ニ觸レ事ニ就テ疑問ヲ起スト驚嘆スルトニ依ツテ臣ノ不知案内ナルヲ發見シ、則チ臣ヲ目スルニ未經驗ノ旅者ヲ以テシ何人ト雖モ始メテ不知案内ノ旅途ニ上ルモノハ先ヅ金錢ヲ失ツテ自ラ欺騙ノ何タルヲ解スルニ至ルモノタレバ之ヲ欺クコト是レ經驗アル旅者ノ權内ニアリト思惟シ。臣ニ教ヘテ安全ヲ得セシメムトノ信情アルナク却ツテ臣ヲ苦シマシメテ以テ自己等ノ經驗ニ富メルヲ誇示セムトノ野心ニ出テ臣ガ奴僕ニ誑カサレ官吏ニ強奪サル、チ袖手傍觀セリ嗚呼臣ハ其識量ノ優レルヲ示シテ以テ之ヲ愉快トスルノ外毫モ其身ヲ益スル所ナキ同行者等ノ不信ナル口實ニ欺カレ掠奪ノ災厄ニ遭遇シテキト。

皇子之ヲ聞イテ頓ニ中言スラク「請フ暫時停語セヨ。苟モ人ニシテ毫モ其身ヲ益スル所アラザルニ尙且他人ヲ災厄ニ罹ラシムル如キ邪惡ノ害心ヲ有スルモノアルカ。凡ソ我識量ノ卓出ナルヲ他ニ誇示セムトスル事ヤ是レ人ノ常情ナリト雖モ足下ノ不知案内ナルハ單ニ偶然ノ事タルニ過ギズシテ固ヨリ足下ノ缺點若クハ愚昧ナルヨリ然ルモノニアラズ又是ヲ以テ足下ノ同行者等ガ自己ノ識量優レルヲ誇ルベキ材料ニ供スル理アラザルナリ蓋シ彼等之ヲ有シ足下之ヲ有セザルノ經驗ハ之ヲ顯揚スルニ誑僞ヲ用フムヨリ寧ロ忠告シテ不知ヲ禍害ニ陷イラシメザルノ優レルニ如カザルナリト」

イムラツク曰ク「高慢ハ是極メテ卑劣ナル趣味ヲ以テ其身ヲ樂シマシムルモノニシテ勿論優美ナルベキニアラズ且ツ嫉妬ハ他ノ不幸ト比較サレ得ル時ヲ除キ毫モ其身ノ幸福ヲ感ズルモノニアラズ。彼等同行者ハ臣ノ富有ナルヲ知ツテ之ヲ猜嫉セル故ニ臣ノ敵タリ而シテ臣ノ經驗ナキヲ見テ樂ミタル故ニ臣ノ抑壓者タリト」  
皇子曰ク「予ハ足下ガ語レル事實ニ就テ疑ヒテ容ル、モノニアラズト雖モ而シテモ其理由ヲ誤解スルナキヤナ恐ル。請フ先ヅ次段ヲ語テムナト」  
イムラツク曰ク「既ニシテ臣等一隊ノ旅客アグラニ着スアグラハ印度斯坦ノ首府ニシテ大莫臥兒帝ノ常ニ居住セル所ナリ。臣、身ヲ其國ノ言語習得ニ委ネ僅々數月ニシテ國ノ學者ト語ヲ交ヘ得ルニ至レリ蓋シ此國ノ學者ニハ端嚴沈黙ナルアリ磊落放談ヲ喜ブモノアリ或ハ瑩雪ノ辛苦ヲ嘗メテ習得シタルモノナルヲ惜ミ之ヲ教フルヲ嫌フモノアリ或ハ他日人ヲ教



訓スルノ尊榮ヲ博スルヲ以テ其學術研究ノ目的トスルモノアリ。臣多クノ學者ト交際ヲ結  
ベル間此國王子ノ教官タル人ニ面識ヲ得、臣ヲ以テ非凡ノ學識ヲ有スルモノトシ爲ニ皇帝  
ニ拜謁スルノ榮ヲ得ルニ至レリ。皇帝臣ニ下問スルニ臣ノ國情及ビ臣ノ旅行中ノ事ヲ以テ  
ス。今ヤ臣ハ帝ガ尊大ナル言辭ヲ以テセル其一言隻句ヲモ追懷シ能ハズト雖モ而カモ尙ホ  
帝ノ才智臣ヲ驚カシメタルト帝ノ善長臣ヲ恍惚タラシメタルトハ之ヲ腦底ニ記シテ忘レザ  
ルナリ。

當時臣ノ信用ハ頗ル偉大ニシテ爲メニ臣ガ旅行ノ伴侶タリシ商人ハ宮中ノ貴女ニ紹介ヲ得  
ムコトヲ臣ニ托スルニ至レリ。臣實ニ其商人ノ臣ニ對シテ斯ル依托ヲ爲セル鐵面皮ニ一驚  
ヲ喫シケルガ於此乎徐ロニ發キノ途上ノ彼等ガ臣ニ施シタル其處置ヲ難詰セリ。然ルニ彼  
等ハ冷然トシテ臣ガ云フ所ヲ聞キ毫モ耻辱ト懺悔ノ色ヲ示スコトアラザリキ。

既ニシテ彼等ハ賄賂ヲ以テ臣ノ心ヲ動かサムトシケレドモ臣固ヨリ親切ノ爲ニナサトル所  
金銀ノ爲ニ之ヲナスモノニアラズ而シテ彼等臣ヲ害シタル故ニアラズ臣ガ彼等ヲ紹介  
シタル爲メ彼等ヲシテ又其害毒ヲ流サシメ得ルニ至ルベキヲ恐ル、ガ故ニ其依托ヲ拒絕シ  
ケリ。

今ハ此國ニ於テ學ブベキモノアラザルニ至リケレバ則チアグラヲ去ツテ足ヲ波斯ニ容レ其  
國ニ在ツテ古代偉觀ノ許多ナル遺物ヲ見且ツ風俗慣習ノ新奇ナルヲ認メタリ。蓋シ此國ノ  
人民ハ頗ル交際ヲ重ズルヲ以テ其日々ノ會合ノ爲ニ臣ハ性行慣習ノ觀察及ビ人情變動ノ一

般ヲ探求スルノ好機會ヲ得タリ。

臣波斯ノ視察ヲ了ツテ次ニ亞刺比亞ニ到リ牧畜ヲ業トシ戰鬪ヲ好メル國民ヲ見ル、抑モ此  
國ノ人ハ一定ノ住家アルニアラズシテ常ニ水草ヲ逐フテ移轉シ其富財トスル所唯豚羊ノ群  
アルノミ而シテ他ノ所有ヲ侵害シ或ハ之ヲ嫉妬スルノ念アリテ然ルモノニアラズト雖モ開  
國以來今ニ至ルマデ人類ト時代トヲ通シテ戰鬪相續ギ寸時モ干戈ヲ休ムルコトアラザルナ  
リト

### 第十章

イムラツクノ歴史 續キ

詩學ノ上ノ説

子ガ行キシ何處デモ子ハ詩學ガ最高キ學問トシテ考ハラレテ而シテ人ガ天使ノ  
性質ニマテ拂フデアラフ所ノ其ニマテ稍々近寄ル所ノ尊敬ヲ以テ視認サレテア  
リシ事ヲ發見セシ。而シテ尙ホ殆ンド總テノ國々ニ於テ最モ往古ノ詩ガ最良ナル  
モノトシテ考ヘラレテアルコト其ガ驚ヲ以テ子ヲ充ダス、智識ノ各ノ他ノ種類ガ  
漸次ニ得ラレタル得物アル而シテ詩學ハ一度ニ與ヘラレタル賜物アル事ノ  
其レガアルカ或ハ各ノ國民ノ最初ノ詩學ガ新奇トシテ彼等ヲ驚カセシ而シテ其  
ガ最初ニ於テ偶然ノ事ニ依ツテ受取リシ所ノ承諾ニ依ツテ信用ヲ得シ事ノ其ガ  
アルカ孰レカ或ハ詩學ノ本分ガ天然及ビ情慾其ハ常ニ同ジテアル所ノ天然及ヒ  
情慾ヲ記スベクアルトシテ最初ノ記者ガ記述ニ向ツテ最多ク感動スル所ノ物味



ノ所有ヲ取リシ而シテ小説ニ向ツテ最多ク實ラシキ發願ノ所有ヲ取リシ而シテ  
同シ事件ノ翻轉及ビ同シ意匠ノ新ラシキ結合ノ外何モテ彼等ニ續キシ所ノ其等  
ニマテ殘サレリシカ執レカ——道理が何デアリ得ルトモ早キ記者ハ天然ノ而シ  
テ彼等ノ後續者ハ技術ノ所有ニ於テアルトノ其ガ普通ニ注目サレテアル最初ノ  
モノガ勢力及ビ發明ニ於テ秀テ而シテ終リノ者ガ莊麗及ビ精妙ニ於テ秀ツル事  
ノ其レガ普通ニ注目サレテアル。

予ハ此著名ナル仲間ニマテ予ノ名ヲ附加フルベク願ヒアリシ。予ハ波斯及ビ亞刺  
比亞ノ詩ノ總テヲ讀ミシ而シテメツカノ寺院ニ於テ懸ケラレテアル所ノ卷ヲ記  
越ニ依ツテ誦スベク適當デアリシ。乍併予ハ速ニ一ツノ人が摸倣ニ依ツテ曾テ大  
家デアサザリシ事ヲ見出セシ。卓越ノ予ノ願ヒガ天然ニマテ及ヒ生活ニマテ予ノ  
注意ヲ移スベク予ヲ追遣リシ。天然ガ予ノ趣旨デアルベク而シテ人が予ノ聽衆テ  
アルベクアリシ予ハ決シテ予ガ見ナシ所ノモノヲ記シ能ハザリシ予ハ快  
樂若クハ畏怖ヲ以テ其等其人ノ利益及ヒ意見ヲ予ガ了解シナサザリシ所ノ其等  
ヲ助カスベク望ミ能ハザリシ。詩人デアルベク今決定シテアル所テ予ハ新シキ目  
的ヲ以テ各物ヲ見シ注意ノ予ノ園内ガ突然ニ廣メラレテアリシ知識ノ一ツノ種  
類が見外ゾトレテアラザリシ。予ハ意匠及ビ類似ニ向ツテ山及ビ砂漠ヲ逍遙セシ  
而シテ森ノ各ノ樹及ビ溪谷ノ花ヲ予ノ心ノ上ニ描キシ。予ハ岩ノ突岨及ビ宮殿ノ

絶頂ヲ一様ノ注意ヲ以テ氣附ケシ。時トシテ予ハ予ガ溪流ノ混雜ニ沿フテ通歴セシ  
而シテ時トシテハ夏ノ雲ノ變化ヲ看守リシ。詩人ニマテ何モガ不用デアリ能ハサ  
リシ。美麗デアアル何デモ及ビ恐ロシクアル何デモ彼ノ意匠ニマテ親シクアラ予ハ  
ナラス彼ハ恐ロシキ莫大若シクハ緻密ナル些小デアアル所ノ總テヲ以テ親シクア  
ラ予ハナラヌ。○花園ノ植物森ノ動物地ノ曠物及ビ空ノ流星ガ無盡ノ變化ヲ以テ彼  
ノ心ニ貯ンベク總テ集合セテバナラヌ奈ントナラバ各ノ思想ガ道德若クハ宗教  
ノ真理ノ發揮若クハ裝飾ニ向ツテ必要デアアル故ニ而シテ最多ク知ル所ノ彼ガ  
彼ノ感能ヲ變化スル事及ビ玄幽ナル譬喩及ビ豫期セサル教訓ヲ以テ彼ノ讀者ノ  
満足サスル事ノ最多クノ勢力ヲ持ツテアラウ。

天然ノ現ハレノ總テヲ予ハ其故ニ研究スベク注意深クアリシ而シテ予ガ通歴シ  
タ所ノ各地方ガ予ノ詩學ノカニマテ若干事ヲ密セタ。ト

皇子ハ云ヒシ「左様ニ廣キ通歴ニ於テ致ハ確ニ多ク注目セズニ殘シタ予メナラヌ  
予ハ今マテ此等ノ山ノ四周ノ裡ニ住ムテ而シテ尙ホ予ガ決シテ前ニ歸メナシ  
或ハ決シテ注意セナシタリシ所ノ或物ノ觀エナシニ外ニ歩行シ能ハヌ」ト  
イムラツクハ云ヒシ詩人ノ務ハ單個テナク乍併數種類ヲ探檢スベクアル(大概ノ  
性質及ビ大ナル容貌ヲ注目スベクアル彼ハ鬱金香ノ線文ヲ數ヘ若クハ森ノ綠色  
ニ於ケル異ナリタル陸ヲ記シナサヌ彼ハ各ノ心ニマテ原始ヲ呼返ス如キ斯様ナ



ル卓越ニシテ且ツ感動スル所ノ容狀ヲ天然ノ彼ノ描像ニ於テ顯ハスベクアル。而シテ一人ガ注目シ得テ而シテ他ガ等閑視シタ所ノ綿密ノ區別ヲ等閑ニセテマラヌ蓋シ細視及ビ無注意ニマテ一様ニ著シクアル所ノ其等ノ特格ニ向ツテナリ。乍併天然ノ智識ハ詩人ノ事業ノ唯半マテアル彼ハ又生活ノ方則ノ總テヲ以テ熟知シテアラテマナラヌ。彼ノ性質ハ彼ガ各ノ境遇ノ幸福及ビ不幸ヲ價ツケ總テ彼等ノ結合ニ於テ總テノ情慾ノカチ看察シ而シテ幼稚ノ活潑カラ老衰ノ鬱鬱ニ至ルマテ季候若クハ慣習ノ種々ノ制度及ビ偶然ノ感化力ニ依ツテ彼等ガ變更サレテアルトシテ人間ノ心ノ變化ヲ追索スル事ヲ要スル。彼ガ彼ノ時代及ビ國ノ偏見カラ彼自身脫離セネバナラヌ彼ハ彼ノ拔萃セル且ツ變ズベカラザル有様ニ於テ正當及ビ不當ヲ考察セテマナラヌ彼ハ現在ノ法律及ビ意見ヲ局外視セネバナラヌ而シテ常ニ同一デアアルデアラツ所ノ一般ノ而シテ優越シタル真理ニマテ上ラテマナラヌ。彼ハ天然ノ通辯者及ビ人類ノ立法者トシテ世カチマナラヌ而シテ未來ノ蒼生ノ思考及ビ仕方ノ上ニ支那スルトシテ時及ビ所ニマテ優越シタル活物トシテ彼自身考ヘテマナラヌ。

彼ノ勞役ハ未ダ終了ニ於テアラヌ彼ハ多クノ國語及ビ多クノ科學ヲ知ラテマナラヌ而シテ彼ノ作休ガ彼ノ思考ニ付テ價ヘツケラレ得ル事ノ爲ニ止マザル實行ニ依ツテ談話ノ各ノ醜陋及ビ句調ノ美麗ヲ彼自身ニマテ懸ニセテマナラヌト

其十 イムラツクノ履歷 (承前) 詩學ノ論說

臣ノ諸國ヲ遊歴スルヤ到ル處詩學ヲ以テ至高ノ學問トナシ而シテ略々天使ヲ禮スル如キ尊敬ヲ以テ詩人ヲ遇スルヲ見タリ。然ルニ各國概ネ最古ノ詩ヲ以テ其最モ秀逸ナルモノト認定スルヲ實ニ臣ヲ奇異ノ感措ク能ハザラシメヌ。蓋シ爾他各種ノ學識ハ漸次ニ進達スルモノニシテ詩學ハ全ク之ト異ナリ唯詩人其稟天ノ才力ニ依ツテ特ニ發達スルノミ凡ソ各國古代ノ詩ハ其新奇ヲ以テ當時ノ人ヲ一驚セシメ偶々喝采ヲ博シ得タルモノ延イテ今日ニ及ビタルニテ、詩ノ本分トスル所天然ト人情トヲ描出スルニアレバ、古代ノ詩家ハ其立案ノ料トシテ最モ感動スベキ事物ト最モ適實ナル情話トヲ得、後年ノ學者ノ爲ニ其先人ノ休ヲ奪ヒ骨ヲ換ヘ同一ノ意匠ヲ新タニ結合スルノ外更ニ何等ノ餘地ヲモ殘サトリシ故ナラムカ。理ノ歸スル所果シテ然ルヤ否ヤハ暫ク擱クモ古代ノ詩家ハ天然ノ事物ヲ以テ立案ノ料トシ後年ノ詩家ハ人造ノ事物ヲ以テシ前者ハ勁奇ニ富ミ後者ハ妙緻ニ秀ツル事はレ一徹着目スル所ナリ。

臣モ亦此著名ナル社會ニ名ヲ懸ケムコトヲ冀ヒヌ。是ヲ以テ所有波斯及ビ亞刺比亞ノ詩ヲ通讀シメツカノ寺院ニ藏スル所ノ詩ノ如キ之ヲ暗誦シ得ルニ至リタリ。然レドモ幾クモナウシテ他ノ模倣以テ大名ヲ成シタルモノ古來未ダ曾テ一人ダニアラザルヲ認メ。天暗俊秀ノ詩家タラムヲ期スル臣ノ豫望ハ臣ヲシテ意ヲ天然ト人事トニ注ガシムルニ至リヌ。蓋シ



曾テ一覽セザルモノ決シテ之ヲ描出スル能ハズ趣味意向ヲ解セズシテ而カモ讀者ニ怡然爽快ヲ感セシメ若クハ慄然畏怖ヲ懷カシムル事モ亦決シテ望ミ能フベキニアラザレハナリ於此乎山野河海太空ノ現象等凡百ノ天然事物ハ臣ガ觀察探檢ノ趣旨トナリ世人ハ臣ガ演述ノ聽衆タルベカリキ

今ヤ臣斯ク詩人タラムト決スルニ及ムテ自然新目的ヲ以テ天地間ノ各事物ヲ觀察シ注意ノ區域頓ニ廣メラレテ苟モ研究ノ料タルベキ種類一ツモ臣ノ眼界ヲ脱スルモノアラザルニ至レリ。臣又意匠ヲ練リ描寫ノ材料ヲ貯ヘムトシテ山嶽砂漠ヲ遍歴シ或ハ林間ノ樹木ヲ又ハ溪谷ノ花卉ヲ心頭ニ描キ。岩石ノ突端宮殿ノ聳頭ニ至ルマデ都テ一様ノ注意ヲ以テ熟覽シ時ニ淵流ノ迷蹊ヲ踏ムテ逍遙シ時ニ夏雲ノ變狀ヲ仰望シ。宇宙ノ現象一トシテ詩人ニ用ナキハアラザルヲ知ル。蓋シ詩人ハ苟モ美形ヲ帶アルモノ假リニモ人ヲシテ悚然タラシムベキモノヲ熟知シ及ヒ驚クベキ宏大ナルモノ若クハ極微些末ナルモノヲ都テ其意匠ノ料トシ貯ヘ。花園ノ草木森林ノ動物地中ノ礦屬天空ノ現象等ニ關シ變化無盡ヲ以テ之ヲ腦底ニ藏蓄セザルベカラズ是他ナシ道德若クハ宗教ノ真理ヲ發揮シ若クハ裝飾ヲ加フルニ就テ各種ノ思想必要ナルヲ以テナリ而シテ最モ博覽多識ナル詩人ハ其思想ヲ變轉描出シ幽妙ナル譬喩意外ナル教訓ヲ以テ讀者ヲ満足セシムルノ最モ大ナル力ヲ有スベキナリ。是ヲ以ツテ臣ハ深ク意ヲ留メテ自然ノ現象ノ總テヲ研究シ而シテ歷遊通覽セル各地皆臣ガ詩學思想ニ對シテ多少ノ裨益ヲ與ヘタリ」トイムラツク滔々辨シ去リヌ。

皇子之ヲ聞イテ曰ク「足下ノ歷遊其區域ノ廣大ナル定メテ見聞スル所大ナラム然レドモ必ズヤ注目ヲ洩レタルモノ多カラザルヲ得ズ。予ハ生來今日ニ至ルマデ山岳四周他界ト隔絶セル此溪谷ノ範圍内ニ住ミ其疆域頗ル廣カラズト雖モ尙且出テ、漫行スル毎ニ既往曾テ之ヲ見ズ若クハ曾テ之ガ注意ヲ惹カザリシ若干ノ事物ヲ目撃セザルハナシ。予是ヲ以テ爾云フ如何」ト

イムラツク乃チ曰ク「凡ソ詩人ノ着眼トスル所單個ノ事物ニ就テ之ヲ細査スルニアラズシテ大別ノ種類ヲ穿鑿スルニアリ換言セバ一般ノ性質及ビ大体ノ容狀ヲ注目スルニアリ。茲ニ一例ヲ舉ゲムニ詩人ハ鬱金香ノ線文ヲ數ヘ若クハ林中區々ノ綠蔭ヲ描クガ如キ事ヲ爲サズ讀者ヲシテ意ヲ原物ノ想像ニ及ボサシムル如キ卓越ニシテ且ツ感動ヲ喚起スベキ容狀ヲ描出シテ以テ自然ノ形体ヲ顯ハスニアリ。故ニ能ク之ヲ熟視セルモノニモ更ニ之ニ注意セザルモノニモ等シク明瞭ナルベキ特格ヲ舒述スルニ着目シテ一人之ニ着目シ他ハ之ヲ知ラザル如キ微細ノ區別ヲ度外視セザルヲ得ズ。然ルニ天然事物ニ關スル研究ハ唯是詩人ノ事業ノ半ハタルニ過ギズシテ則チ之ニ加フルニ人間處世ノ各方則チ熟知セザルベカラズ。貴賤トナク貧富トナク其境遇ニ伴ヘル禍福ヲ測リ總テ其情慾ノ力ヲ看察シ。幼稚ノ活潑ヨリ傾齡ノ老益ニ至ルマデ人心ハ季候風俗制度及ビ偶然ノ事變ニ依ツテ化セラル、モノタレハ此等ノ變化ヲモ研究セザルベカラズ。超然トシテ其時代及ビ國家ノ偏見ヨリ脫離シ、不變不動ノ眞理ニ居テ正當ト不當トヲ考察セザルベカラズ現行ノ法律及ビ時人ノ意見ヲ介慮セ



古今ニ通シテ變動アルナキ宇宙ノ原理ノ眞粹ヲ極メザルベカラズ。或時ハ造化ノ通辨者トナリ或時ハ人類ノ立法者トナツテ筆ヲ揮ハザルベカラズ未來人士ノ思想及ビ風俗ヲ左右シ時ト處トニ超絶シタル活物トシテ其身ヲ考ヘザルベカラズ。已上叙スル所尙ホ之ヲ以テ詩人ノ勞苦終レリトスルニアラズ則チ各國ノ用語及ビ百科ノ學理ヲ解知セザルベカラズ而シテ其叙スル所ノ体格能ク意思ノ美ヲ現ハシ得ムガタメニ間斷ナク練習シテ用語ノ優美句調ノ流麗ヲ熟セシメザルベカラザルナリト。

### 第十一章

イムラツクノ物語 續キ

順禮ノ暗示

イムラツク今熱心ノ發作時ヲ感セシ而シテ彼自身ノ專業ヲ大キクスベク進ミツ  
ハアリシ其時皇子ハ「充分ヨ、汝ハ一ツノ人間活物ハ曾テ詩人デアリ能ハヌ事ヲ予  
ニ確信サセタ。汝ノ物語ヲ以テ進メ」ト叫ビ出セシ。  
イムラツクハ云ヒシ「詩人デアルベク實ニ甚々困難デアルト」ト。  
皇子ハ返ヘセシ「予ハ現在ニ於テ最早彼ノ勞苦ニ於テ聞カヌテアラウ」トホド左様  
ニ困難ナリ。汝ハ汝ガ波斯ヲ見タリシ時ニ何處ヘ行キシカヲ予ニ語レト  
詩人ハ云ヒシ「波斯カラ予ハ支里亞ヲ通ホシテ旅行セシ、而シテ三年ノ間予ガ歐羅  
巴ノ北方及ビ西方ノ國民ノ大ナル數ト會話セシ所ノ巴列斯多印ニ於テ住ミシ、國  
民其レハ今總テノ勢力及ビ總テノ智識ノ所有ニ於テアル所ノ其人ノ軍勢ハ抵抗

スベカラズアル所ヲ而シテ其人ノ艦隊ハ地球ノ最隔タリシタル部分ヲ下知セシ  
所ノ國民ナリ。予ガ予輩自身ノ王國及ビ予輩ヲ圍繞セシ所ノ其等ノ土人ト是等ノ  
人ヲ比較セシ時ニ其ガ活物ノ類ニト他ノ階級ニ見エシ。彼等ノ國ニ於テ得ラレテ  
アリ得ヌ所ノ或物ニ向ツテ望ムベク其ガ困難デアル一千ノ技術其ニ付テ予輩ガ  
決シテ聞カザリシ所ノ一千ノ技術ガ絶エズ彼等ノ便宜及ビ快樂ニ向ツテ勞働シ  
ツ、アル而シテ彼等自身ノ季候ガ彼等ヲ拒ムダリシ何テモガ彼等ノ商業ニ依ツ  
テ供給セラレテアルト

皇子ハ云ヒシ「如何ナル意味ニ依ツテ歐洲人ハ斯様ニ有カデアルカ、若クハ彼等ガ  
左様ニ容易ニ通商或ハ征服ニ向ツテ亞細亞及ビ亞非利加ヲ訪問シ能フ以來何故  
ニ亞細亞人及ビ亞非利加人ハ彼等ノ海岸ヲ侵シ彼等ノ海港ニ於テ植民地ヲ樹テ  
而シテ彼等ノ土着ノ王侯ニマテ法律ヲ與ヘ能ハヌカト」  
イムラツクハ答ヘシ「彼等ハ予輩ヨリハ尙多ク有カデアアル殿下ヨ、奈ントナラバ彼  
等ハ尙賢クアル故ニ智者ハ人ガ他ノ動物ヲ支配スル如ク無智者ヲ越エテ常ニ支  
配スルデアラウ、乍併何故ニ彼等ノ知識ガ予輩ノヨリハ尙多クアルカ予ハ神ノ探  
ルベカラザル意志ノ外如何ナル道理ガ與ヘラレテアリ能フカヲ知ラヌ。  
長大息ヲ以テ皇子ハ云ヒシ「何時子ハ巴列斯多印ヲ訪ヒ而シテ國民ノ此有カナ  
ル集合ト混ズベク適當デアアルデアラウカ。其幸願ナル時ガ到着スルデアラウマテ



予ヲシテ汝が予ニ與ヘ能フ如キ聖權ナル表明ヲ以テ時ヲ充タサシメヨ。予ハ其場  
所ニ於テ斯様ナル歐チ集合スル所ノ起端ニ就テ無知デアラヌ而シテ才智及ヒ信  
神ノ中心其ニマテ各地ノ最良ナル且ツ至智ナル人が絶エズ見舞ヒツ、アラ予マ  
ナラメ所ノ中心トシテ其ヲ考フル外能ハヌト

イムラツクハ云ヒシ「其處ニ巴列斯多印ニマテ儘カノ訪問者ヲ送ル所ノ或國ガア  
ル奈ントナラバ歐羅巴ノ多クノ歐及ビ學ビタル宗派ガ迷信トシテ願禮ヲ非難シ  
若クハ笑フベシトシテ其ヲ嘲笑スベク起ル故ニ」ト

皇子ハ云ヒシ「如何ニ儘カ予ノ生活ガ予ヲシテ意見ノ種々ナルトヲ以テ知了セシ  
メタカチ汝ハ知ル、爾方ノ傍ニ於ケル議論ヲ聞クベク其ガ餘リ長クアルデアラウ  
汝ガ彼等ヲ考察シタ事ノ結果チ予ニ告ゲヨ」ト

イムラツクハ云ヒシ「信神ノ多クノ他ノ行ヒノ如ク巡禮ハ主義其ノ上ニ其ガ成サ  
レテアル所ノ主義ニマテ從フ所テ道理若クハ迷信デアリ得ル。眞理ノ搜索ニ於テ  
長キ旅行ガ支那セラレテアラヌ。生命ノ整理ニマテ必要デアル如キ斯様ナル眞理  
ハ常ニ其ガ麻直ニ要メラレテアル所ニ見出サレテアル。」

場所ノ變化ガ信神ノ増加ノ一ツノ自然ナル原因デアラヌ奈ントナレバ其ガ避ケ  
難クニ心ノ散亂チ生ズル故ニ。尙ホ人が野其處ニ大ナル行爲ガ成遂ゲラレタ而シ  
テ事件ノ尙強キ感動ヲ以テ還ツタ所ノ野ヲ見ルベク毎日行ク以來同種ノ好奇

心ガ國其處カラ予輩ノ宗教ガ其ノ原始ヲ持チシ所ノ其國ヲ見ルベク自然ニ予輩  
チ傾向サセ得ル、而シテ予ハ一ツノ人が神聖ナル決定ノ或確固タルトナシニ其等  
ノ恐ルベキ舞臺チ通覽スルチ信セス。神ガ他ニ於テヨリハ一ツノ場所ニ於テ尙  
多ク容易ニ慰メラレテアリ得ル事ガ愚鈍ナル迷妄ノ夢デアアル乍併或場所ガ非常  
ナル仕方ニ於テ予輩自身ノ心ノ上ニ働キ得ル事ガ時々ノ經驗ガ判斷スルデアラ  
ウ所ノ意見デアアル彼ノ苦惡ガ巴列斯多印ニ於テ尙多ク成切ニ圖ハレテアリ得ル  
事ヲ想像スル所ノ彼ガ恐ラクハ彼自身誤リテ見出ステアラウ而カモ彼ハ愚痴ナ  
シニ彼處ニ行キ得ル彼等ガ尙多ク自由ニ許宥サレテアルデアラウト考フル所テ  
彼ハ彼ノ道理及ヒ宗教チ一度ニ辱カシムル<sup>ト</sup>

皇子ハ云ヒシ此等ハ歐洲人ノ判斷デアアル。予ハ他ノ時彼等ヲ考フルデアラウ。何チ  
汝ハ智識ノ結果デアルベク見出シタカ。其等ノ國民ガ予輩ヨリハ尙幸福デアアルカ  
ト

詩人ハ云ヒシ「其處ニ辛フシテ或人が他ノ割合ノ幸福ヲ價立ツルベク彼自身ノ不  
幸カラ他ノ割合ノ幸福ヲ價立ツルベク余暇ヲ持ツトホド左様ニ多クノ禍害ガア  
ル。」

智識ハ各ノ心ガ其ノ思想ヲ増ス<sup>ト</sup>ニ付テ感スル所ノ天然ノ願望ニ依ツテ信セラ  
レテアルトシテ確ニ快樂ノ方便ノ一ツデアレ。然智ハ單ニ缺乏其ニ依ツテ何モガ



生セラレテアリ能ハヌ所ノ缺乏テアル其ガ空虚其ニ於テ精神ガ引力ノ欠乏ニ向ツテ動キナク且ツ麻痺サレテ坐スル所ノ空虚テアル。而シテ予輩ハ常ニ予輩ガ學フ時ニ樂シミ且ツ予輩ガ忘ル、時ニ悲ムカチ知ル、ナシニ坐スル所ノ空虚テアル。予ハ其故ニ若シモ何モガ學問ノ自然ノ關係ヲ妨ゲヌナラバ予輩ハ予輩ノ心ガ尙廣キ列ヲ取ルトシテ尙多ク幸ヒニナル事ヲ決定スベク傾向サレテアル。生活ノ格段ナル愉快ヲ計フルニ於テ予輩ハ歐洲人ノ傍ニ於テ多クノ利益ヲ見出ステアラウ。彼等ハ創傷及ビ疾病其ヲ以テ予輩ガ衰弱シ且ツ死没スル所ノ創傷及ビ疾病ヲ癒ス。予輩ハ彼等ガ去リ能フ所ノ季候ノ嚴酷ニ惱ム。彼等ハ予輩ガ入ノ出精ニ依ツテ成途ゲネハナラヌ所ノ多クノ勞苦ノ工作ノ職速ニ向ツテ器械ヲ持ツ。其處ニ一ツノ友人ガ辛シテ他カラ不在テアルベク云ハレテアリ能フ、トホドス。樞ナル通信ガ隔タリタル場所ノ間ニアル。彼等ノ政略ガ總テノ公ケノ不便ヲ撤去ス。彼等ハ彼等ノ山ヲ通ホシテ掘鑿シタル道及ビ彼等ノ河ノ上ニ置カレタル橋ヲ持ツ。而シテ若シモ予輩ガ生活ノ私ニマテ降りシナラバ彼等ノ住家ハ尙多ク便益テアル而シテ彼等ノ所有ハ尙多ク安全テアル。ト

皇子ハ云ヒシ「總テ是等ノ便利其ニ就テ予ハ容易ナル、其ヲ以テ分離サレタル友人が彼等ノ思想ヲ交換スル所ノ容易ナル、トダケ左様ニ多ク何モチ羨マヌ所ノ便利ヲ持ツ所ノ彼等ハ確ニ幸福テアル。ト

イムラツクハ答ヘシ「歐洲人ハ予輩ヨリハ尙儘カ不幸テアル乍併彼等ガ幸福テアラヌ。人間ノ生活ガ何處デモ有様其ニ於テ多クガ堪エラレテアルベクアル而シテ、儘カ、樂マレテアルベクアル所ノ有様テアル。ト

其拾壹 イムラツクノ履歷 (承前)

巡禮概見

沿々辨ツ去リ辨ツ來ツテイムラツクハ今倍々佳境ニ入り自ラ興味ヲ感ズルニ及ムテ愈々詩學ノ蘊奧ヲ叩キ之ヲ説カムトシタリケルガ皇子ハ突然隊ヲ容レテ其話頭ヲ轉セシム曰ク「詩學ニ關スル説話既ニ足レリ足下ハ上來諄々説明シテ以テ詩人タルノ極メテ困難ナルヲ予ニ信セシメヌ。請フ茲ニ其説話ヲ止メテ更ニ足下ノ履歷ヲ談セムナ」ト

イムラツク曰ク「詩人トナルハ實ニ頗ル困難ナリ」ト

皇子ハ之ニ答ヘテ「予今ハ詩人ノ勞苦ヲ聞カムコトヲ好マサルニ至ル實ニ其難ヤ難中ノ難ト云フベキカ。足下請フ重ネテ之ヲ説カザレ而シテ足下波斯ヲ遊覽シ了ツテ後チ何レハ趣キタルヤ請フ之ヲ語レ」ト云ヘリ。

詩人イムラツク乃チ曰ク「臣波斯ヲ出デ、叙里亞ヲ通行シ、巴列斯多印ニ足ヲ留ムルコト三年ナリキ其間歐洲北部及ビ西部ノ人ニ面ヲ接シ語ヲ交フルコト數次ナリ而シテ其等各國民ノ狀勢ヲ觀察スルニ勢力ト智識トニ富ミ、其軍國ハ強大ニシテ天下ニ敵ナク其艦隊ハ世界中最モ懸隔セル部分ニ至ルマデモ勇威ヲ振ヘリ。今此各國民ト予輩亞比斯尼亞國民及ビ四



隣各國ノ土人トナ比較セムニ其優劣ノ差アルコト彼ハ幾ンド我ト同一界ノ動物ニアラザルガ如キ觀アリ。蓋シ彼等ノ國ニアツテハ事足り物具ハリ毫モ不足欲乏ナルヲ見ルコトナク。未ダ予輩ノ見聞ニ達セザル千百ノ技術ハ常ニ公私ノ便宜且ツ快樂ヲ得セシメム爲メニ活動シ又季候ノ爲ニ其國ニ産出セザルモノ、如キハ商業上他國ヨリ之ヲ輸入シテ以テ供給セリト

皇子曰ク「抑モ歐洲諸國ノ民ハ何等ノ方便ニ依ツテ其如ク有力ナルヤ。彼モ人タリ我モ人タリ同一ノ人間ニシテ彼ハ容易ニ通商若クハ征服ノ目的ヲ以テ亞細亞及ビ亞弗利加ニ來航スルニ亞細亞及ビ亞弗利加諸國ノ民ハ歐洲諸國ノ海岸ヲ侵シ其諸港ニ殖民地ヲ開キ其地ノ王侯ヲシテ我法令ヲ遵守セシムルニ至ルコトヲ得ザルモノ果シテ何等ノ理由アツテ然ルヤト

イムラツク答フテク「彼レ歐洲諸邦ノ民ハ子輩亞弗利加人ヨリモ才智ヲ有スルコト優越セルヲ以テ其勢力モ亦我ニ優越セリ蓋シ智者ノ愚者ヲ制スルハ是レ古今ヲ通シテ變轉ナキ所ニシテ猶ホ人間ガ劣等動物ヲ制御スルモノ、如ク敢テ奇ムベキニアラズト雖モ彼等ノ才智何等ノ理由アツテ予輩ニ超越スルヤハ臣ノ解スル能ハザル所唯是不可思議ナル神慮ニ出ツルモノト云ハム外ナシト

皇子之ヲ聞クヤ天ヲ仰イテ歎息シテ曰ク「嗚呼何レノ日ゾ予ハ巴列斯多印ニ遊ビ有力ナル國民ノ群集ニ交ハルコトヲ得ルニ至ルベキヤ。唯請フ足下予ガ其幸福ナル時機ニ會スルニ

至ルマデ種々ノ說話ニ予ヲ慰メ以テ予ヲシテ遺憾ナキ時日ヲ消過シ得セシメムヲ。予ハ巴列斯多印ノ地何故ニ諸國多數ノ人民ヲ集合セシムルヤノ原由ニ就テ絶テ其ヲ端倪スル能ハズト云フニアラザレドモ若シ予ノ案ズル所ニシテ其當ヲ得ザラムカ予ハ更ニ爾他ノ理由ヲ考察スル能ハザルナリ蓋シ所謂予ノ案ズル所トハ其地智識ト信仰トノ中心タルニアリ果シテ然ラムカ則チ賢人智者陸續トシテ節ヲ此地ニ曳クモノ是レ勢ヒノ然ラシムル所ト云フベキノミト。

イムラツク曰ク「然ルニ歐洲中巴列斯多印訪問者ヲ多ク出サハル國アリ是學識アル宗派ノ巡禮ヲ以テ迷信笑フベキノ事ト非難シ嘲罵スルアルニ由ルト。

皇子曰ク「予ガ既往ノ閱歷ハ一所定住ニシテ多ク變轉ニ際會セザルヨリ見聞極メテ狹少ナルコトハ夙ニ足下ノ知ル所ナリ。予ハ巴列斯多印訪問ノ事則チ巡禮ノ果シテ迷信トシテ排斥スベキカ將テ殊勝トシテ賞賛スベキカ其是非當不ノ決着スベキ議論ヲ聞カムニハ到底一朝一夕ニ盡クベキニアラズト信ズ故チ以テ其詳論ヲ擱キ唯足下ノ之ニ關シテ考察ヲ廻ラシタル結果如何ナノミ予ニ告ゲラレムヲ請フト。

イムラツク曰ク巡禮ハ他ノ多クノ信仰上ノ所行ト等シク其之ヲ行フ人ノ主義如何ニ由ツテ或ハ有理トナリ若クハ迷信トナル。蓋シ眞理ノ發見ハ長途ノ旅行ヲ要スルモノニアラズ。人ノ世ニ處シテ身ヲ整フルニ必用ナルモノ、如キハ敢テ他國ニ行クヲ須ヒズシテ誠心之ヲ索ムル所ニ發見シ得ルモノナリ。固ヨリ塲所ノ異ナルガ爲ニ信仰心ノ加ハルベキ原由一ツ



トシテ存スルナク却テ人心ヲシテ散亂セシムベキ禍害ヲ避クベカラザルナリ。然リト雖モ  
 往昔曾テ大事遂ケラレ、一タビ足ヲ容ルレバ倏忽トシテ當時ヲ追懷スルノ感動ヲ起スベキ  
 舊跡ヲ見ムトシテ人ノ續々歩ヲ枉グルアルヲ以テ同種ノ好奇心之ガ爲ニ催ホサル自然自己  
 信奉ノ宗教其基ヲ開ケル地ヲ見ムトスルノ欲情發動スルニ至ル而シテ臣ハ一旦舊跡ヲ通覽  
 シタル人其信心決定ノ愈々堅ク倍々盛ンナラザルハナキヲ信ズ。抑モ神慮ヲ慰ムルノ行作  
 塲所ニ依ツテ其難易ヲ異ニスト云フハ是唯癡者ガ迷妄ノ夢想タルノミト雖モ一種格段ナル  
 塲所ハ一種格段ナル感動ヲ與フル事是日常經驗ノ判斷セル意見タリ。人、巴列斯多印ニ遊  
 ベハ他ノ塲所ヨリモ更ニ能ク其身ノ罪惡ヲ悛ムルニ適セムト想像スルニ於テハ早晚其誤解  
 タリシヲ悟ルニ至ラム而カモ其想像ヲ以テ彼ノ地ニ行カムハ尙可ナリ若シ一旦其地ヲ履マ  
 ハ忽チ罪障解脫セムト信ズルニ至ツテハ其人己レノ理想及ビ宗教ヲ共ニ辱カシムルモノト  
 云ハザルヲ得ズ」ト

皇子曰ク「是等ハ歐人ノ當ニ判斷スベキ所。予ハ他日之ヲ考究セム。抑モ足下ハ何等ノ事  
 態ヲ以テ彼レ歐洲人ノ智識ノ結果トシ認メタルヤ。彼等ハ予輩亞弗利加人ヨリモ更ニ優リ  
 テ幸福ナリヤ如何敢テ問フ」ト。

イムラツク曰ク「世上ノ禍災ノ多キ人皆其一身ヲ處スルニノミ且暮唯汲々トシテ復々他ノ  
 幸福ノ度ヲ量ルベキ余暇ヲ得ザルニ至ル。然レドモ知識ハ確ニ快樂ノ一方便ニシテ其然ル  
 所以ハ世人各見聞ヲ廣クシ以テ思想ヲ増大セムコトノ自然ノ願望ヲ有スルニ由リテ知ルベ

シ。又愚癡ハ何事ヲモ生ズルナキ空虚ニシテ精神引力ノ欲乏ノ爲メニ澁滯癡癖シ從ツテ學  
 ベハ樂アリ忘ルレバ苦アルノ理由何タルヲ知ラズ。故ヲ以テ臣ハ若シ學問自然ノ關係ヲ妨  
 過スルモノアラズンハ心智漸ク擴大スルニ從ツテ愈々倍々多幸福ナルベキヲ判斷スルニ  
 至レリ。又生活ノ格別ナル快愉ヲ擧ゲテ之ヲ計ヘムニ臣ハ歐洲人ニ於テ其好都合ナルヲ見  
 ル則チ歐人ハ予輩亞弗利加人ガ爲ニ困衰シ爲ニ死ニ至レル創傷ヲ療シ疾病ヲ治シ。又予輩  
 ガ惱苦セル暑熱ノ嚴酷ヲ避ケ。此國ニアツテ人手ヲ煩ハサトルヲ得ザル多種ノ勞働ニ器械  
 ヲ代用シテ却ツテ成功ヲ敏速ニシ。山川百里其居ヲ隔絶セル友人モ一堂ニ會スル如キ交話  
 ノ便ヲ得。政略ハ以テ公共百般ノ不便ヲ撤去シ。山腹ヲ穿ツテ墜道ヲ通シ河上ニ横ヘテ橋梁  
 ヲ架ス。而シテ若シ一步ヲ轉シテ一私人生活ノ状態ヲ看察セムニ予輩ノ國ニ於ケルヨリモ  
 其住居ハ更ニ利便ニシテ其財產ハ更ニ安全ナリ」ト。

皇子曰ク「果シテ足下ノ言ノ如クナラムニハ其利益便宜ノ多キ比類ナシト云フベキナリ而  
 シテ特ニ予ヲシテ羨望ニ堪エザラシムルモノハ千里居ヲ隔ツルノ友人ガ容易ニ音信ヲ通ズ  
 ルヲ得ルノ一事タリ洵ニ斯クノ如キ多利多便ヲ有スル國民ハ無上ノ幸福ヲ享受スルモノト  
 云ハズシテ何ゾヤ」ト。

イムラツク答ヘテ曰ク「然リ歐人ハ亞弗利加人ヨリモ其不幸ノ度更ニ甚少ナリト雖モ、而  
 カモ尙ホ幸福ナルニアラズ。蓋シ人世ノ状態ハ何國何地ヲ問ハズシテ勞苦ヲ忍ビ之ニ從ハ  
 ザルヲ得ザルノ事多ク之ニ反シテ歡喜快樂ハ極メテ少ナカルナリ」ト。



第十二章

イムラツクノ話 續キ

皇子ハ云ヒシ子ハ幸福ガ人ニマテ左様ニ節儉ニ分配サレテアルトナ想像スベク未ダ好ミツ、アラス又ハ若シモ子ガ生活ノ擇ビナ持チタリシナラバ子ハ快樂ナ以テ各ノ目チ充タステアラウトノ外信シ能ハヌ。子ハ一ツ人ヲ雷セヌデアラウ而シテ一ツノ憤怒ヲ遂セヌデアラウ。子ハ各ノ不幸ヲ救助スルデアラウ而シテ満足ノ感謝ヲ樂シムデアラウ。子ハ才智ノ間ニ子ノ友人ヲ而シテ有徳ノ間ニ子ノ妻ヲ擇ブデアラウ而シテ其故ニ樞謀或ハ憐情カラ一ツノ危難ニ於テアラヌデアラウ。子ノ小兒等ハ子ノ注意ニ依ツテ學ビテ而シテ精神アルデアラウ而シテ彼等ノ幼時ガ受領シタリシ所ノモノヲ子ノ老齡ニマテ拂還ヘヌデアラウ。彼ノ慈悲ニ依ツテ富マサレタル或ハ彼ノ勢力ニ依ツテ助ケラレタル數千人ニマテ各ノ傍ニ於テ呼ビ得シ所ノ彼ナ何ガ苦シムルベク救テスルデアラウカ。而シテ保護ト而シテ尊嚴ノ穩當ナル交換ニ於テ何故ニ生命ヲ靜和ニ流シ去ラヌデアラウカ。總テ之ガ必要ヨリハ寧ロ虚飾アルベク彼等ノ結果ニ依ツテ見ユルデアラウ所ノ歐洲人ノ精算ノ扶助ナシニ爲サレ得ル。子輩ヲシテ彼等ヲ棄テ而シテ子輩ノ旅行ヲ續ケシメヨト

イムラツクハ云ヒシ「巴列斯多印ヨリ子ハ亞細亞ノ多クノ地方ヲ通ホシテ經過セシ尙多ク開化シタル王國ニ於テハ強人トシテ山ノ野蠻人ノ間ニハ巡禮トシテ遂

ニ子ハ子ノ旅行及ビ疲勞ノ後子ガ子ノ最早キ年ヲ費ヤシタリシ所ノ場所ニ於テ休息シ得シ而シテ子ノ冒險ノ話ヲ以テ子ノ舊キ伴侶ヲ喜ハセ得シ所ノ子ノ本國ニ向ツテ望ムベク始メシ。應子ハ其等其人ト共ニ子ガ夜明クル所ノ生命ノ樂シキ時ヲ其ノ日晡ニ於テ子ノ廻リニ坐スル所ヲ子ノ話ニ於テ驚キツ、而シテ子ノ評斷ニマテ耳軟テツ、僥倖シ去リタリシ所ノ其等子ノ自身ニマテ象リナセシ。此思考ガ子ノ心ノ所有ヲ取ツタリシ時ニ子ハ亞比斯尼亞ニマテ尙近ク子ヲ持來シナサヤリシ所ノ各ノ時ヲ荒サレテアリシト考ヘシ。子ハ埃及ニマテ急ギシ而シテ子ノ性急ニモ拘ハラヌ其レノ古昔ノ壯麗ノ穿鑿ニ於テ而シテ其レノ上古ノ學問ノ殘物ヲ逐フテ吟味スルトニ於テ十ヶ月抑留サレテアリシ。子ハ總テノ國民ノ混交ヲ楷露ニ於テ見出セシ或者ハ智識ノ愛ニ依ツテ彼處ニ持來タセシ或者ハ得物ノ望ニ依ツテ而シテ多クハ注意ナシニ彼自身ノ仕方ヲ逐フテ住ムトノ而シテ群衆ニ付テ見難キトニ於テ隠レテ横ハルトノ願ヒニ依ツテ。奈ントナラバ楷露ノ如キ多人口ナル都府ニ於テ同時ニ社交ノ満足及ビ孤居、秘密ヲ得ルベク其ガ出來ベクアリシ故ニ。

楷露カラ子ハスエズニマテ旅行セシ而シテ子ガ港其レカラ子ガ二十年前ニ出發シタリシ所ノ港ニ於テ到着セシ迄海岸ニ沿フテ經過シツ、紅海ニ於テ乗船セシ。此處ニ子ハ隊商ニマテ子ヲ結合セシ而シテ子ノ本國ニ再ビ入りシ。子ハ今子ノ親



族ノ注意及ビ予ノ朋友ノ歡喜ヲ預期セシテ如何ナル價ヲ彼が富ノ上ニ置キ  
 タリシトモ予ノ父が國民ノ快樂及ビ名譽ニマテ附加フルベク適當テアリシ所ノ  
 息子ヲ歡喜及ビ自負ヲ以テ歸スルテアラウ事ノ望ミナシテアラザリシ。乍併予ハ  
 予ノ思考が徒爲テアリシヲ速ニ自信シテアリシ。予ノ父ハ或他ノ州郡ニマテ移  
 轉サレテアリシ所ノ予ノ兄弟等ノ間ニ彼ノ財産ヲ分與シタ所テ十四年前ニ死シ  
 テアツタリシ。予ノ伴侶ニ付テ過半部ハ墓ニ於テアリシ爾余ノモノニ就テ或者ハ  
 困難ヲ以テ予ヲ泄臆シ能ヒシ而シテ或者ハ外國ノ風俗ニ於テ腐敗サレタル人ト  
 シテ予ヲ考ヘシ盛衰ニマテ慣レタル人が容易ニ憂ヒテアラヌ。一時ノ後予ハ予ノ  
 落膽ヲ忘レシ而シテ王國ノ貴族ニマテ予自身ヲ紹介スベク島メシ彼等が彼等ノ  
 食卓ニマテ予ヲ許セシ予ノ話ヲ聞キシ而シテ予ヲ退出サセシ。予ハ學校ヲ開キシ  
 而シテ教フルベク禁セラレテアリシ。予ハ然ル時ニ家内ノ生活ノ靜穩ニ於テ坐ス  
 ベク決定セシ而シテ予ノ會話ニ付テ瀕ホレテアリシ乍併予ノ父が商人テアリシ  
 故ニ予ノ配偶ヲ拒ミシ所ノ貴女ニ話掛ケシ  
 遂ニ獨居及ヒ蹉跌ニ渡レテ予ハ永久世界カラ予自身ヲ隠クシ而シテ最早他者ノ  
 意見若クハ變心ノ上ニ屬セヌベク決心セシ。予ハ幸溪ノ門が開カレルテアラウ時  
 ノ時節其ハ私ガ希望及ビ畏怖ニマテ暇乞ヲナシ得シ所ノ時節ニ向ツテ俟チシ口  
 が來リシ予ノ慈能が親愛ヲ以テ區別サレテアリシ而シテ予が永久ノ幽居ニマテ

樂ミヲ以テ予自身ヲ委託セシ。

ラセラヌガ云ヒシ。汝ハ遂ニ此處ニ幸福ヲ見出シタカ。腹藏ナシニ予ニ告グヨ汝ハ  
 汝ノ境遇ヲ以テ満足シテアルカ。或ハ汝が再ビ遍歴シツ、而シテ吟味シツ、アル  
 ベク願ヒナスカ。此溪ノ住民ノ總テが彼等ノ運命ヲ著明ニスル而シテ皇帝ノ年々  
 ノ訪問ニ於テ彼等ノ快樂ノ相伴フベク他者ヲ誘フ下  
 イムラツクハ云ヒシ。大皇子ヨ予ハ眞實ヲ話スアラウ予ハ彼が此退隱所へ入込  
 ミシ時ノ時間ヲ悲シミナサヌ所ノ汝ノ住者ノ總テノ中テ一人ヲ知ラヌ。予ハ爾余  
 ノモノヨリハ尙僅カ不幸テアル茶ントナラバ予ハ予が任意ニ於テ變更シ且ツ結  
 合シ能フ所ノ想像ヲ以テ充分ナル心ヲ持ツ故ニ予ハ予ノ記憶カラ衰フルベク始  
 ムル所ノ智識ノ新々ニスル。予ハ依ツテ而シテ予ノ過去ノ生活ノ偶然ノ事件ノ追  
 憶ニ依ツテ予ノ獨居ヲ樂マセ能フ。而カモ總テ之ガ予ノ知能ガ今不用テアル而シ  
 テ予ノ快樂ノ何モガ再ビ樂マレテアリ能ハヌ。予ハ悲シマシキ考ニ於テ終ル。爾餘  
 ノ者其人ノ心が現在ノ時ノ外一ツノ感動ヲ持タヌ所ノ爾餘ノ者ガ惡心ナル情慾  
 ニ依ツテ喰入ラレテカ若クハ永久ノ休息ノ陰鬱ニ於テ鈍クサレテ坐スカ致レカ  
 テアル。

皇子ハ云ヒシ。如何ナル情慾ガ一ツノ競敵ヲ持タヌ所ノ其等ヲ苦シマセ能フカ。予  
 輩ハ場所其處ニ無能力ガ惡心ヲ訪グル所ノ而シテ其處ニ縊テノ猶嫉ガ快樂ノ一



致ニ依ツテ壓付ケラレテアル所ノ場所ニ於テアルト

イムラツクガ云ヒシ「其處ニ材料ノ所有ノ一致ガアリ得ル、乍併其處ニ決シテ愛情及ビ位階ノ一致ガアリ能ハス。」一人ガ他者ヨリハ尙多ク樂シムテアラウトノ其ガ起ラネバナラス彼ノ界シマレテ彼自身ヲ知ルトノ爲ニ常ニ猜疑シテアルテアラウ而シテ若シモ彼ガ彼ヲ界シム所ノ其等ノ目前ニ於テ住ムベク宣告サレテアルナラバ尙ヨリ多ク猜疑テ而シテ惡謀テアル。誘引其ニ依ツテ彼等ガ離濫テアルベク感ズル所ノ有様ニマテ他者ヲ誘フ所ノ誘引ガ望ミナキ不幸ノ自然ノ惡謀カラ進ミシ。彼等ハ彼等自身ニ就テ而シテ各自ニ付テ疲レテアル而シテ新シキ伴侶ニ就テ救助ヲ見出スベク預期スル。彼等ハ彼等ノ無智ガ材料ニ出シタ所ノ自由ヲ獲ム而シテ彼等自身ノ如ク禁錮サレタル總テノ住民ヲ尋ンテ見ルテアラウト然リト雖モ此罪惡カラ、予ハ全ク自由テアル。一ツ人が彼ガ予ノ説勸メニ依ツテ離濫シテアル、丁チ云ヒ能ハス。予ハ群集其者ハ年々幽屏ニマテ許容ヲ願ヒツ、アル所ノ群集ノ上ニ憫ミナテ以テ眺ムル而シテ彼等ノ危難ニ就テ警戒スルトノ其ガ予ニ向ツテ合理テアリシ事ヲ望ムト

皇子ハ云ヒシ「予ノ親愛ナルイムラツクヨ子ハ予ノ全キ心ヲ汝ニマテ開クテアラウト予ハ長ク幸溪カラ逃出ヲ考慮シタ。予ハ各ノ傍ニ於テ山ヲ吟味シタ乍併犯シガタク禁錮サレテ予自身ヲ見出セシ予ノ牢獄ヲ破ルベキ仕方予ニ教ヘヨ汝ガ予

ノ逃走ノ伴侶テ予ノ徘徊ノ嚮導テ予ノ幸福ノ仲間テ而シテ生活ノ探ビニ於テ予ノ單一ナル指揮者テアルテアラウト

詩人が答ヘシ「君ヨ汝ノ逃出ガ困難テアルテアラウト而シテ蓋シ汝ハ速ニ汝ノ好奇心ヲ後悔シ得ル。汝ガ溪ニ於テノ湖ノ如ク滑カニ且ツ靜カニ汝自身ニマテ象ドル處ノ世界ヲ汝ハ颯風ヲ以テ泡立ツ所ノ而シテ濶チ以テ沸騰スル所ノ海ト見出ステアラウト汝ハ時トシテ暴烈ノ波ニ依ツテ没セラレ而シテ時トシテハ野謀ノ岩ニ對シテ突カレテアルテアラウト不正及ビ欺騙競争及ビ苦慮ノ中ニ汝ハ靜穩ノ此等ノ住所ニ向ツテ一千度願フテアラウト而シテ好ムヲ恐レカラ自由テアルベク希望ヲ乘ツルテアラウト

皇子ハ云ヒシ「予ノ目的カラ予ヲ妨グベク察メナスナ予ハ汝が見タ所ノモノヲ見ルベク性急テアル而シテ汝ガ汝自身溪ニ於テ疲レテアル以來汝ノ以前ノ有様ガ是ヨリハ尙瓦クアリシトノ其ガ明白テアル。予ノ試驗ノ結果ガ何テアルトモ予ハ人ノ種々ノ境遇ニ付テ予自身ノ眼ヲ以テ判斷スベク而シテ然ル時ニ謹慎ニ予ノ生命ノ擇チナスベク決セシト

イムラツクガ云ヒシ「汝ハ予ノ陳戒ヨリハ尙強キ制限ニ依ツテ妨ケラレテアルチ予ハ恐レテアル尙若シモ汝ノ決定ガ確定サレテアルナラバ予ハ失望スベク汝ニ評斷シナサヌ儘ノ事ガ出精及ビ熟練ニマテ出來難クアルト



其十二 イムラックノ説話(承前)

皇子曰ク「足下ハ世上辛苦多クシテ快樂少ナシト云フト雖モ予ハ天幸福ヲ賦與スルニ其如ク節制ナルヲ信セズ予ヲシテ若シ處世ノ道ヲ撰擇セシメムカ予ハ則チ且暮唯快樂ヲ以テ時間ヲ消過シ去ルベシト信ズルノ外ナキナリ。蓋シ予既ニ社會ニ伍スルニ及ムテハ決シテ一人ニモ害ヲ加フルコトアラザルベク又決シテ他ノ憤怒ヲ挑發スルコトアラザルベシ否却テ他ノ不幸ヲ見テハ悉ク之ヲ救助シ其負恩ノ感謝ヲ以テ自ラ慰ムベシ。又予ハ友人ヲ智者ノ間ニ妻ヲ淑德者ノ間ニ擇ビ賢才貞操ノ中間ニ身ヲ置クベカレハ詐謀ニ惱マサレ無情ニ苦シメラル、ノ難ニ遇ハザルベシ。又予ノ小兒等ニハ深キ注意ヲ與ヘテ以ツテ學者タラシメ信仰者タラシムベカレハ予ノ老後ニ及ムテ兒等ハ其幼時蒙リタル恩ニ報フベクム。斯クテ予ノ慈惠ニ富ミ予ノ勢力ニ助ケラレタルモノ予ノ身邊ヲ圍繞スルニ於テハ何者ノ魔鬼カ敢テ予ヲ苦シムルヲ得ベキ。抑モ亦一旦慈恩ヲ蒙リテ之ニ報フルニ其恩人ノ生活ヲシテ安穩ナラシムルヲ以テセムト思ハザルモノアルベキヤハ。斯ノ如キハ皆淳朴ニシテ仁義ヲ守ルニ由ツテノミ得ラル、モノニシテ文明ノ力ヲ藉リ後チ始メテ得ベキモノニアラザルナリ之ニ由ツテ之ヲ見ルニ夫ノ歐洲ノ文明ノ如キハ必要ヨリモ寧ロ虚飾ト云フベカラム。請フ今ヨリ歐洲文明ノ談ヲ止メテ足下ガ旅行ノ閱歷ヲ語レト」

於此乎イムラックハ曰ク「臣巴列斯多印ヲ出テ、北部亞細亞ノ各地ヲ通遊シタリ其間文明國ヲ過グルニハ商人タルノ粧ヒチナシ蠻族栖息セル山間ヲ經ルニハ巡拜者ノ姿ヲ飾リヌ。既

ニシテ臣ハ遂ニ身軀痛ク疲レテ旅行ニ倦ミ漸ク望郷ノ念ヲ催シ一タビ故郷ニ歸ツテ多年ノ勞ヲ休メ旅中冒險ノ談ヲ以テ舊友ヲ樂シマシメムト志スニ至レリ蓋シ一旦望郷ノ念起リテヨリハ屢々幼時嬉遊ノ狀ヲ追懷シ日晡朋友團欒シテ或ハ語り或ハ論ヲ以テ愉快ノ時ヲ費ヤシタリシコトドモ頻リニ心頭ニ浮ビ出テヌ。斯クテ臣ハ片時モ早ク亞比斯尼亞ニ歸入セムトシ路次若シ郷里ニ近ヅクノ進行ヲナサハル事アラハ其間ノ時日ハ唯徒ラニ費消シタルノ思ヒセラレ。急行シテ埃及ニ到ル、既ニ其國ニ入ツテ臣ガ歸郷ノ念過急ナルニモ拘ハラズ上古偉觀ノ跡ヲ尋ネ古代文學ノ遺物ヲ探リ以テ十月ヲ費ヤシタリ。其間國都楷露府ニアツテ各國人民ノ群集雜居スルヲ見ル茲ニ此等ノ各國民ガ來集シタル目途ヲ探ルニ或ハ見聞ヲ廣メ智識ヲ磨カム爲メナルアリ或ハ商業ニ從事シテ利ヲ營ヤマ爲メナルアリ就中既ニ世務ニ飽キテ閑逸ノ日月ヲ送ラムトシ群集ニ紛レテ世ニ顯ハレザラムヲ希ヒ爲ニ來住スルモノヲ數ノ最モ多キ所ナリトス。蓋シ該府ノ如キ群民雜處セル繁華ノ都會ハ交際ノ便益ナルト同時ニ隱逸閑居ニモ亦利アルヲ以テナリ。

既ニシテ楷露ヲ去リ兩亞大陸ノ境界ナルスエズニ行キ乘船シテ纔チ紅海ノ濱ニ解キ岸邊ニ沿フテ進航シ當時チ距ルフ二十年以前臣ガ始メテ出帆シタリシ其港内ニ到着シヌ。臣此ニ上陸シテ身ヲ結隊旅客ノ間ニ投シ同行シテ再ビ故國ニ入ル。當時臣ガ念頭頻リニ豫望ヲ描出シテ愉快盈テ滿ツ則チ親戚知己ハ臣ガ歸郷ヲ聞キテ欣舞雀躍セム又父ハ其心裡富チ貴ブコト如何ニ大ナルモ國民ノ快樂ヲ増シ名譽ヲ加フルニ足ルベキ傑物タル其子ノ家ニ歸ルニ



遇ヒテハ必ズヤ欣喜措カズ心大ニ之ヲ誇ルニ至ラムト。然ルニ此愉快ナル豫想ハ忽ニシテ絶望ノ悲歎ト變ズ。嗚呼父ハ十四年以前既ニ黃泉ノ旅客トナリ生前所有ノ財産ハ悉ク之ヲ諸子則チ臣ノ同胞數輩ニ分與シ同胞亦尋イテ他州ニ轉居シ今ハ一人ノ鄉里ニ留マルモノアラズ。然ラハ舊友ハ如何是亦多クハ墳墓ニ隱レ尙ホ生存スルモノ、中ニ於テモ幾ソド臣ヲ記臆スルハ希レニ邂逅未ダ忘レザルモノニ遇フモ是等ハ皆臣ヲ外國ノ風俗ニ汚染セル臆物トシテ交際スルヲ喜ビズ此時ニ方ツテハ臣實ニ天上天下唯我獨身ナリ。然レドモ有爲轉變ハ素ヨリ人世ノ常態ナルヲ臣豈其理ヲ悟ラザラム既ニ其理ヲ悟ラムカ榮枯盛衰共ニ等シク世態ト見ムノミ何爲ゾ深ク喜ビ若クハ悲マム。凡心ノ情トシテ一時落膽シケレドモ是唯眞ニ一時ニ過ギズシテ直チニ之ヲ忘ル於此乎臣自ラ周旋シテ華貴縉紳ニ面接ヲ求メ以テ陪食ヲ許サレ談論ヲ試ムルヲ得タレドモ人々唯臣ガ所説ヲ聞ケルノミ重ク用非ムトスルハアラズ。輒チ退イテ學校ヲ開キケルガ是亦教授ヲ禁セラレテ目的ヲ達シ得ズ。其後臣ハ家族ヲ控ニテ靜ニ一生ヲ送ラムト決シ淑女ニ縁ヲ結ビテ之ト婚セムトシケレドモ其女臣ガ談話ヲ欣聽シ而カモ臣ガ父商人タルノ故ヲ以テ身ムテ配偶ヲ拒絕ス。

一蹙一跌企圖悉ク盡餅ニ屬シテ臣ハ茲ニ人世ノ不如意ニ厭キ長ク社會ト絶ツテ身ヲ他人ノ意志ニ托シ左右セラル、コトナケムト決心シ。幸溪ノ門扉披カレ人世ノ希望ト畏怖トニ永別ノ辭ヲ舒ベ得ベキ時期ノ到來セムヲ俟チタリ既ニシテ其時到ル臣ノ藝能ハ振擡ノ榮ニ遇ヒ得テ欣然永ク身ヲ幽居ニ托スルニ至リヌト

皇子曰ク「足下既ニ此溪内ニ居テ定メテ後遂ニ幸福ヲ發見シタリヤ。願クハ腹藏ナク之ヲ語レ足下實ニ足下ノ現遇ヲ以テ満足セルヤ將タ再ビ出テ、各地ニ漫遊シ探檢ニ從事セムコトヲ希ヘルヤ。抑モ此幸溪ノ住民タル皆其幸運ヲ嗚ラシテ年々皇帝臨御ノ時ニ際シ來ツテ快樂ヲ分受セムコトヲ他ニ勸誘ス果シテ其如ク幸福ナルヤ如何」ト

イムラツク曰ク「嗟吁大皇子殿下ヨ予ハ今胸襟ヲ開イテ毫モ隔心ナク談ズベクム。凡ソ殿下ノ侍從中一人トシテ此隱遁所ヘ入りタルヲ悲シマザルモノアラザルベシ。唯臣ハ爾他諸輩ノ不幸ヨリモ更ニ幾分ノ優レルモノアリ蓋シ臣ハ他ト異ナリ變化結合一ツニ心ノマ、ナル意匠ヲ有スルヲ以テナリ則チ或ハ將ニ遺忘シ去ラムトセル智識ヲ新タニシ或ハ既往ノ偶事ヲ追懷シ以テ自ラ我獨居寂寥ヲ慰メ得。然カモ其自ラ慰メテ怡然タルモノ毎ニ悲哀ノ思考ニ終ル是他ナシ臣ガ智識今既ニ不用ニ屬シ臣ガ快樂孰レモ再ビ娛マル、コトアリ得ベカラサルヲ思ヘバナリ然リ而シテ爾他諸輩ハ如何。其能乏シク其智淺ク單ヘニ現境ヲ想フノ他ニ毫モ感動ヲ有セザルヲ以テ徒ラニ野心ナル情慾ヲ逞フスルカ若クハ永久幽逸ニ安ソシテ鬱然茫乎空シク日月ヲ送ルカノ外ナキナリ」ト

皇子曰ク「競争ノ心ナウシテ而カモ慾情ニ惱マサル、コト果シテアリヤ。蓋シ吾人ノ住所タル此溪内ハ住民皆無能ニシテ惡意ヲ生ズルノ力ナク且ツ快樂ハ無一二平等ニシテ敢テ猜嫉ヲ起スノ理アラザルナト

イムラツク曰ク「實物ノ所有ニ於テハ貴言ノ如ク無一二平等ナリト雖モ愛情及ビ位階ニ至ツ



テハ決シテ然ラズ。甲ハ乙ヨリモ尙多幸多福ヲ娛シムベキコト是理トシテ起ラザルヲ得ザル所ニシテ乙若シ甲ニ劣レ其身他ノ擯斥ヲ受ケルヲ知ラハ乃チ嫉妬ノ念ヲ起スベキナリ況ンヤ其身ヲ卑シメル人ノ前ニ低頭屈腰以テ奉仕スルモノニ於テチヤ。蓋シ自ラ辛酸ヲ嘗メツ、アル其境遇ヘ他人ヲ誘導シテ以テ入ラシメムトスルモノハ其身絶望ノ不幸ニ逼マラレテヨリ遂ニ自然ニ生ツタル惡謀ニ出ヅル所ニシテ則チ其獨ニ倦ミ他ノ會合ニ厭キ更ニ新友ノ來ルアラハ或ハ爲ニ慰ム所アルベキチ豫期シテ然ルナリ。畢竟彼等其無智無能ナルガ爲ニ失却シタル自由ヲ羨ミ世人亦皆自己等ノ轍ヲ履ムテ斯ク幽屏セラレムヲ喜ビ望ムノ外ナラズ。然リト雖モ臣ハ全ク斯ル惡意ヲ有スルコトナシ。請フ看ヨ此溪内一人ダモ臣ノ勸誘ニ依ツテ困苦スト云ヘルモノアルカチ。蓋シ一人モアラザルナリ且臣ハ年々此閑宮ニ奉仕ヲ希望セル其等多數ノ競爭者ヲ憫ミ其方サニ難境ニ陥ラムトシツ、アルヲ警戒スルコトノ至當ナルヲ信ズ」ト

皇子曰ク「今ヤ予ハ予ノ胸底ヲ拂ツテ之ヲ足下ニ語ルベシ。予此溪間ヲ脱出セムト企ツルコト既ニ久シク爲ニ其途ヲ索メムトシテ周チク四屏ノ山岳ヲ跋涉シテ探檢頗ル昂メダレドモ峯巔峻絶攀ツルニ術ナク遂ニ目的ヲ果タス能ハザリキ切ニ請フ足下此天然ノ鐵壁ヲ破ツテ身ヲ脱スルノ術ヲ授ケヨ然ラハ則チ足下ハ予ノ脱出ノ伴侶予ノ漫遊ノ嚮導予ノ幸福ノ共受者予ノ處世術ノ單獨ナル指南者タルベキナリ」ト。

詩人イムラツ答ヘテ曰ク「殿下ノ計畫之ヲ遂ゲムコト頗ル難カルベク若シ又之ヲ遂得タリ

トモ蓋シ殿下ハ幾クモナウシテ其好奇心ニ過リタルヲ悔ヒ給ハム。今殿下ハ此溪間ノ湖面ノ如ク世上風ナク波ダ、シトコソ想像シ給フベケレ然ルニ其實際ノ状態ハ全ク殿下ノ想像ニ反シ颶風常ニ荒レ狂瀾天ヲ捲ケル蒼海ニ等シク而シテ殿下其間ニ身ヲ置キ給ハハ時ニ或ハ暴虐ノ怒濤ニ覆没セラレ或ハ奸詐偽謀ノ危巖ニ衝突シ給フベシ斯ク不正奸謀競爭惱慮ノ苦界ニ在ツテ殿下ハ必ズヤ靜穩平和ナル此溪間ノ居住ヲ慕ヒ素望ヲ抛擲シテ恐怖ヲ免レムトシタマフニ至ルベケム」ト

皇子曰ク「予ノ目的ヲ沮裂セシムルノ言ヲ爲ス勿レ予ハ足下ノ行爲ニ倣ツテ各地歴覽ヲ切望スルコト急ナルヲ足下既ニ此溪間ノ居住ニ倦メリト自白ス是ヲ以テ足下既往ノ状態現遇ニ優レルヲ知ルベシ。縱令予ノ經驗ノ結果如何トモ予ハ人世種々ノ境遇ニ就テ自ラ之ヲ看察判斷シ然ル後チ細心小思予ノ處世ノ法ヲ擇バムト決心セリ」ト

イムラツ曰ク「殿下ハ臣ガ現時ノ諫止ヨリモ更ニ強大ナル障礙ニ會ツテ爲ニ阻マレ給フコトアルベケム而カモ貴慮既ニ確定シタラムニハ臣復タ敢テ何チカ云フベキ。此ニ至ツテ唯一言以テ殿下ニ呈スベキアリ曰ク龍勉ト熟練トヲ以テセハ何事ト雖モ遂ニ其功ヲ成シ能ハザルハ極メテ希レナリ」ト

### 第十三章

#### 刺世拉斯逃出ノ方便ヲ發見ス。

皇子ハ今休止スベク彼ノ適意者ヲ退出サセシ作併異常及ヒ新奇ノ說話ガ邪礙スルコトヲ以テ彼ノ心ヲ滿タセシ彼ハ彼ガ聞イタリシノ總テヲ考ヘ廻ハセシシ



ナ朝ニ向ツテ不可計ノ問題ヲ準備セシ。彼ノ不安ノ多クガ余ヲサレテアリシ。彼ハ友人其人ニマテ彼ガ彼ノ思考ヲ分チ能シ而シテ其人ノ經驗ガ彼ノ企圖ニ於テ彼ヲ助ケ能ヒシ所ノ友人ヲ持チシ。彼ノ心ガ最早沈黙ノ苦慮ヲ以テ助振スベク實ノラレテアラザリシ。彼ハ幸<sup>○</sup>溪<sup>○</sup>テスラモ斯様ナル伴侶ヲ以テ耐忍サレテアリシ得シ事及ビ若シモ彼等ガ一緒ニ世界ヲ徘徊シ能ヒシナラバ彼ハ願フベク尙遙カ何ヲモ持タヌテアラウ事ヲ考ヘシ。

僅ノ日ニ於テ水ガ疏流シテ而シテ地面ガ乾燥シテアリシ。皇子及ビイムラツクガ然ルキニ爾餘ノ者ノ注目ナシニ談話スベク一緒ニ歩ミ出テシ。皇子其人ノ思考ガ常ニ翼ニ於テアリシ所ノ皇子ハ彼ガ門ニ依ツテ通過セシ時ニ悲哀ノ容貌ヲ以テ云ヒシ何故ニ汝ガ左様ニ強クアルカ而シテ何故ニ人ガ左様ニ弱クアルカト。

彼ノ仲間ハ答ヘシ「人ガ弱クアラヌ智識ガ勢力ニマテ一様ヨリハ尙多クデアアル。器械師ノ先生ガ勢力ニ於テ笑フ。予ハ門ヲ破リ能フ作併秘密ニ(破リ)能ハヌ。或他ノ方略ガ試ミラレテアラチマナラヌト」。

彼等ガ山ノ傍ニ於テ歩ミツ、アリシキニ彼等ハ白兎其ハ雨ガ彼等ノ穴カラ逐フタリシ所ノ白兎ガ糞生ノ間ニ隠場ヲ取ツタリシ而シテ斜線ニ於テ上ノ方ニ伴フ所テ彼等ノ後ニ穴ヲ形造ツタリシ事ヲ注目セシイムラツクガ云ヒシ「人間ノ道理ガ動物ノ天才カラ多クノ技術ヲ借リシ事ノ其レガ上古ノ意見デアツタ其故ニ予

觀チシテ白兎カラ學ブコトニ依ツテ下ゲラレテ予輩自身ヲ考ヘヌ。予輩ハ同ツ方角ニ於テ山ヲ貫徹スルコトニ於テ逃出シ得ル。予輩ハ絶頂ガ中央部ノ上ニ懸ル所ニ始メ而シテ予輩ガ降嶺ヲ越エテ發出スルデアラウマテ労働スルデアラウト

彼ガ此目論見ヲ聞キシ時ニ皇子ノ眼ハ樂ミヲ以テ輝キシ。施行ガ容易デアリシ而シテ成功ガ確カデアリシ。

一ツノ時ガ今失ハレテアラザリシ。彼等ハ彼等ノ坑ニ向ツテ適當ナル場所ヲ擇アベク朝ニ於テ早ク急ギシ。彼等ハ岩角及ビ窟盆子ノ間ニ大ナル疲勞ヲ以テ逍遙セシ而シテ彼等ノ企圖ヲ好都合ニスル所ノ或部分ヲ發見シタルトナシニ還リシ。第二及ビ第三ノ日ガ全ク仕方ニ於テ而シテ同シ徒勞ヲ以テ費サレテアリシ。作併第四日ニ於テ彼等ハ彼等ガ彼等ノ試驗サナスベク決定セシ所ノ叢林ニ依ツテ蓋絨サレタル小サキ洞ヲ見出セシ。

イムラツクハ石ヲ斫リ而シテ土ヲ移スベク適當ナル器械ヲ造リシ而シテ彼等ハ勇氣ヨリハ尙多クノ熱心ヲ以テ翌日ニ於テ彼等ノ工事ニマテ蔭ヲシ彼等ハ現ニ彼等ノ努力ニ依ツテ疲レ果テラレテアリシ而シテ草ノ上ニ喘クベク坐セシ。一分間皇子ハ落膽サレテアルベク見エシ。彼ノ伴侶ガ云ヒシ君ヨ實行ハ尙長キ時ノ間予輩ノ労働ヲ續クルベク予輩ヲ適當ニスルデアラウトハ雖モ如何ニ遙カ予輩ガ進ムダガチ標記セヨ而シテ汝ハ予輩ノ勞苦ガ或時終了ヲ持ツデアラウトヲ見出



スデアラウ。大工事ハ勢カニ依ツテハナク乍併一心ニ依ツテ成遂ケラレテアル  
彼處ノ宮殿ガ單ナル石ニ依ツテ起サレテアル尙ホ汝ハ其レノ高サ及ビ既サチ見  
ル。一日三時間勇氣ヲ以テ歩ムデアラウ所ノ彼ハ地球ノ周圍ニマテ一程ナル既サ  
チ七年ニ於テ通過スルデアラウト。

彼等ハ逐日彼等ノ工事ニマテ還リシ而シテ暫時ニ於テ甚ダ値ノ障礙ヲ以テ遂ニ  
通過スベク彼等ヲ適當ニセシ所ノ岩ニ於テノ刺レ目ヲ見出セシ。之ヲ刺世拉斯ハ  
善キ前兆トシテ考ヘシイムラツクハ云ヒシ「道理ガ知ラセ得ルヨリハ他ノ希望或  
ハ畏怖ヲ以テ汝ノ心ヲ擾メシナスナ若シモ汝ガ等ノ前兆ヲ以テ樂マサレテアル  
ナラハ汝ガ又惡ノ兆ヲ以テ恐ラサレテアルデアラウ而シテ汝ノ全キ生活ガ迷信  
ニマテ食物デアアラウ。予輩ノ工事ヲ極クスル何テモガ前兆ヨリハ尙多クアル其  
ガ成功ノ原因デアアル。之ハ歴々活潑ナル決定ニマテ越ル所ノ其等ノ樂シキ驚愕ノ  
一ツデアアル。企ツルベク困難ナル多クノ事ガ成遂ケルベク容易ナルヲ證明スル」ト

其十三

皇子逃出ノ方便ヲ發見ス

爰ニ皇子ハ就寐ノ爲メイムラツクヲ逃出セシメタリト雖モ珍奇異常ナル說話ヲ聞キテ爲ニ  
大ニ心動キ身夜衾ニ伏シテ尙眠ル能ハズ頻リニ其聞キタリシ始終ヲ回思シ且翌旦質サムト  
スル所ノ無數ノ問題ヲ考案セリ。今ヤ皇子ノ煩悶ハ概テ其跡ヲ絶ツニ至リヌ。蓋シ久シク  
其内心ニ蓄ヘタル企圖ヲ明カシ且ツ其扶翼ニ憑依シテ之ガ成功ヲ期シ得ベキ經驗アル友侶

ヲ得タルヲ以テ。皇子ガ心復タ沈思熟考ノ煩惱ニ動搖サル、コトナク。其夙ニ倦厭ヲ生シ  
タル幸溪ニ在ツテスラ尙且此友侶ト共ニ消光スルニ於テ煩悶憂鬱ヲ忍ブテ得況ンヤ之ト共  
ニ世界ヲ周遊スルニ於テヤ若シ能ク斯ノ如クナルヲ得ハ他ニ寸毫ノ望ミアラズトスルニ  
至レリ。爾後數日ヲ經テ一時溪内ニ汎濫タリシ洪水治マリ尋イテ地乾ク。於此乎皇子ハイ  
ムラツクヲ伴フテ野外ニ散步シ他ノ注目ヲ避ケテ相語ル。是ヨリ先キ皇子ハ羽翼ヲ得テ半  
空ニ翱翔シ以テ此幽居ヲ脱出セムト圖リシコト既ニ之ヲ記セル如クナルガ今ヤ洞口ノ門側  
ヲ漫行スルニ當リ悲哀ノ容貌ヲ顯ハシテ曰ク「門ヤ門ヤ門爾等何スレヤ斯ク鞏固ナル、我之  
ヲ如何トモスル能ハズ嗚呼人間何アズノ如ク弱キヤ」ト

イムラツク答ヘテ曰ク「人間決シテ弱キニアラズ蓋シ智識ハ其強キコト膂力ニ勝ル則チ精巧  
ナル器械脚ノ膂力ヲ蔑視セル所以ニシテ臣モ亦能ク容易ニ此鐵門ヲ破リ得ベシト雖モ唯ダ  
秘密ニ之ヲ行フノ難キノミ。然ルチ以テ脱出ノ方便ハ他ニ之ヲ索メサルヲ得ザルナリ」ト。  
且談シ且歩ミ山腹ヲ逍遙シツ、アリシ時偶々白兔ノ巢穴ニ隠ルヲ見ル蓋シ此白兔獲日ノ降  
雨ノ爲ニ其巢ヨリ逐ハレタルモノニシテ之ヲ檢スルニ巢ハ斜線ニ穿チタル穴窟ナリキ。於  
此乎イムラツクハ曰ク「人間ノ技術多クハ禽獸天賦ノ才能ニ鑿ミ之ヲ發明スルニ至リタルコ  
ト是古人ノ唱フル所故チ以テ予輩今白兔ヲ鑑トスルモ敢テ耻ツベキニアラサルナリ。則  
チ其巢穴ニ傲ヒ之ト同一ノ方角ニ山腹ヲ貫穿セバ脱出ノ計畫其功ヲ遂ゲ得ベケム。先ツ中  
部峯嶺ノアル所ニ起工シテ遂ニ山外ニ出テ得ルニ至ルマデ堀鑿ノ勞ヲ執ルベキナリ」ト



皇子此計畫ヲ聞イテ欣喜措カズ。而眸爲メニ光輝ヲ増シヌ而シテ此工事ヤ容易ニシテ確ニ成功ノ豫望アリ。

計畫既ニ成ツテ復々瞬間ニ猶豫スベキニアラズ。帳テ兩人掘鑿ニ適當ナル場所ヲ擇ハムトシテ早曉宮ヲ出テ岩角ヲ攀テ荆棘ヲ披キ疲勞ヲ極メテ徘徊シケルガ當日ハ其計畫ヲ實施スルニ便ナルベキ如何ナル部分ヲモ發見シ得ズシテ空シク宮ニ還ヘリ。翌日又翌日前日例ヲ履ムテ探檢シタレドモ未ダ以テ其効ヲ見ザリシニ。第四日ニ至ツテ始メテ草木叢生之ヲ覆ヘル一小洞穴ヲ疑見シ掘鑿ヲ試ミムト決セリ。

此ニ於テカイムラックハ石ヲ斫リ土ヲ運ブベキ器具ヲ用意シ其翌日起工ニ着手シテ熱中勞ニ從フ然ルニ其努力度ニ過ギテ現ニ大ニ疲レ頓ニ草上ニ坐シテ喘息ス當時一瞬皇子落膽ノ風アリシカバ。イムラック之ニ告ゲテ曰ク「殿下決シテ落膽シ給フ勿レ。即今起工ノ時ニ當ツテ頗ル疲勞ヲ覺ユト雖モ之ヲ久フスルニ從ツテ漸ク苦働ニ馴レ精根愈々長時ヲ支フルニ至ルベクム。請フ看ヨ既ニ工事ノ幾分ヲ遂ゲタルヲ斯クテ早晚竣工ニ至ルベキコト期シテ俟ツベシ。蓋シ難大ノ工事ハ一時ノ努力ニ依ツテ能ク奏功ヲ得ベキニアラズ一意専心不撓不屈ニシテ始メテ之ヲ得ベキナリ夫ノ阜上ニ巍立セル宮殿ノ如キモ個石漸ク積ムテ其宏壯ヲ致スニ至ル。一日僅ニ三時間歩ヲ進メテ怠ラザレバ七タビ歳ヲ閱シテ地球ノ空周ニ等シキ路程ヲ行クベシ泰山一粒ノ土ヲ棄テズマテ高ク江河一滴ノ水ヲ漏ラサズシテ深シトハ是此ノ謂乎殿下請フ勉メヨ焉」ト

兩人斯ノ如クニシテ連日勞働ニ從ヒ未ダ幾クナラズシテ盤石ノ罅隙ヲ發見シ障礙僅少ニシテ遠ク經過スルヲ得タリ。此時皇子之ヲ以テ吉兆トシタリシカイムラック之ヲ諫メテ曰ク「殿下須ラク道理ニ違背スルノ喜懼ニ貴心ヲ擾マシ給フベカラズ蓋シ吉兆ヲ以テ喜バ、必ズヤ凶兆ヲ以テ畏ルベシ若シ然ラムニハ終世迷信ノ奴隸トナルベキナリ。目下工事半ハニシテ此罅隙ニ遇フ是決シテ前兆タルニアラズシテ成功ノ原因タリ。凡ソ活潑ナル事業ニアツテハ斯ク愉快ナル異常ニ會フコト珍ラシトセズ。之ヲ企ツルニ難キ事却ツテ之ヲ遂グルニ易キハ世上屢々見ル所ノ實例ナリ」ト。

### 第十四章

刺世拉斯及ビイムラック豫期セザル訪問ヲ受ク

彼等ハ今半ハニマテ彼等ノ仕方ヲ成遂ゲタリシ而シテ自由ノ近寄ルコトヲ以テ彼等ノ勞苦ヲ慰メタリシ其時空氣ヲ以テ彼自身ヲ快爽ニスベク降ル所テ皇子ハ寤ミノ口ノ前ニ立ツ所ノ彼ノ姉妹ナル子カヤヲ見出セシ。彼ガ愕キレ而シテ周章シテ立チシ彼ノ企圖ヲ語ルベク恐レテ而シテ而カモ其ヲ秘スベキ望ミナク。僅ノ時間ガ彼女ノ信實ノ上ニ依リシテ腹藏ナシニ告知スルトニ依ツテ彼女ノ秘スルコトヲ確ムベク彼ヲ決定セシ。

皇女ハ云ヒシ「妾ガ間諜トシテ此處へ來リシ時ヲ想像シナスナ妾ハ汝ト而シテムラツクガ向テ照ノ方ニ毎日汝等ノ歩行ヲ指向クシ事ヲ長ク妾ノ應カラ注目ンタリシ作伴妾ハ汝ガ尙冷カナル陰或ハ尙多ク芳香ナル岸ヨリハ探ビニ向テ或



尙更キ道理ヲ持チシトナ想像シナサリシ又ハ汝ノ會話ノ相伴スベキヨリハ或  
他ノ企圖ヲ以テ汝ニ從ハザリシ。然ル時ニ嫌疑テナク乍併愛好ガ汝ヲ見出シタ以  
來妾ナシテ妾ノ發見ノ利益ヲ失ハシメナ。妾ハ幽居ニ就テ汝自身ト一様ニ渡レテ  
アル而シテ世界ニ於テ爲サレ或ハ堪エラレテアル所ノモノヲ知ルトニ就テ尙少  
ナカラス願フテアル。汝ガ妾ヲ見捨テタ時ニ尙ホヨリ多キ嫌厭ニナルデアラウ所  
ノ此味ヒナキ安穩カラ汝ト共ニ飛ブベク妾ヲ許可セヨ。汝ハ汝ニ伴フベク妾ヲ拒  
ミ得ル乍併從フコトカラ妾ヲ妨ゲ能ハヌト。

彼ノ他ノ姊妹等ノ上ニ子カヤテ愛シタ所ノ皇子ハ彼女ノ要求ヲ拒ムベク一ツノ  
意向ヲ持タザリシ而シテ彼ハ故意ナル相談ニ依ツテ彼ノ信用ヲ示スコトノ機會  
ヲ失フタリシ事ヲ悲ミシ。其故ニ彼女ガ彼等ト共ニ溪ヲ去ルデアラウ事ノ其ガ一  
致セラレテアリシ而シテ同時ニ彼女ハ或他ノ無面識者ガ機會或ハ好奇心ニ依ッ  
テ山ニマテ彼等ニ從フデアラウトテ恐レテ看守スルデアラウトノ其ガ一致セラ  
レテアリシ。

遂ニ彼等ノ勞動ガ終ニ於テアリシ彼等ハ峰嶺ヲ越エテ光ヲ見シ而シテ山ノ頂上  
ニマテ發出スル所ヲ彼等ノ下ニ遍歷スル所ノ尙ホ狹隘ナル急流ナルナイル河ヲ  
見シ。

皇子ハ旅行ノ快樂ノ總テヲ豫見シテ而シテ既ニ彼ノ父ノ版圖ヲ越エテ移サレテ

アリシ思考ニ於テ恍惚ヲ以テ眺メ廻ハセシ。彼ノ逃出ニ於テ縱令甚ダ樂シキトハ  
云ヘイムラツクハ世界其ハ彼ガ已前ニ試ミシ所ノ而シテ其ニ付テ彼ハ疲レテア  
ツタリシ所ノ世界ニ於テ快樂ノ尙備ナル豫期ヲ持チシ。刺世拉斯ハ彼ガ速ニ溪ニ  
マテ還ルベク口説カレテアリ能ハザリシ事ホト左様ニ多ク尙眠キ地平ヲ以テ樂  
マサレテアリシ彼ハ道ガ開イテアリシト及ビ何モガ今彼等ノ出發ニ向ツテ用意  
スベキ外強ラザリシ事ヲ彼ノ姊妹ニ告ケシ。

#### 其十四 皇子期セズシテ皇女ニ會フ

今ヤ工事半ハ其功ヲ遂ゲ脱出ノ期漸ク近ツクヲ以テ皇子及ビイムラツクハ其勞苦ヲ慰メヌ  
維時皇子新鮮ノ空氣ヲ呼吸シテ心神ヲ爽快ナラシメムトシ則テ隧路ヲ出テタリシガ圖ラズ  
モ其妹子カヤニ遇ヘリ。於此乎皇子愕然狼狽自ラ其爲ス所ヲ知ラズ蓋シ己レガ計畫ノアル  
所ヲ語ラムカ他ニ漏洩スルノ恐レアリ而カモ既ニ其所爲ヲ發見セラル今ニ於テ之ヲ秘スル  
ニ備ナキヲ奈ソ。少時處置ニ窮シテ茫手タリシモノ漸クニシテ意ヲ決シ則チ皇女ノ誠實ヲ  
恃ミテ腹藏ナク其計畫ヲ語り且堅ク之ヲ秘セムコトヲ戒諭ス。

皇女曰ク「妾阿兄ノ行爲ヲ探知セムトスルモノニアラズ唯ダ阿兄トイムラツクガ毎日同方向  
ニ歩ミテ運ハスルヲ妾ガ居房ノ應ヨリ眺メ日ヲ重ヌルコト多キニ及ビテ惟ヘラク是レ清涼  
ナル樹蔭覆郁タル流堤ヲタツヌルニ外ナケムト是ニ由ツテ妾ハ阿兄トイムラツク交話ヲ聞  
キテ以テ大ニ慰ム所アラムトシ追跡シテ此ニ來リシノミ毫モ他心アルニアラザルナリ。要



スルニ妾ガ此所爲嫌疑ニ出ヅルニアラズシテ却ツテ愛慕ニ基ツク今幸ニ阿兄ニ遇フ願クハ其利益ヲ失ハシメザレ。蓋シ妾ノ幽居ニ厭キタルコト阿兄ニ異ナラズ世路ノ歩行ヲ試ミムトスル望ミ亦敢テ阿兄ニ讓ラズ阿兄若シ妾ヲ棄テ、獨リ此無味ナル溪間ニ留マラシメムカ妾ハ倍々倦厭ノ情耐エ能ハザルニ至ルベシ切ニ請フ阿兄憐ミテ垂レテ妾ヲ伴ヒ給ハムコトヲ。尙ホ強ヒテ之ヲ拒ミ給ハハ妾亦強ヒテ隨行セムノミト

抑モ皇子ノネカヤチ鍾愛スルコト他ノ諸姉妹ニ勝リタルヲ以テ今其同行ノ懇望ヲ聞キ敢テ之ヲ拒否セムトスルノ意向ヲ有セズ却テ始メ之ヲ謀ラザリシヲ悔ヒ。則チ共ニ俱ニ溪間ヲ脱出セムコトヲ諾ス於此手皇女ハ阿兄ノ意ヲ領シテ隧道ノ口ニ立チ以テ看守ノ任ニ從フ是他ナシ更ニ他人ノ或ハ機ニ乘シテ脱出セムトシ若クハ單ニ好奇心ニ勵マサレテ追隨スルモノアラムコトヲ恐レテナリ。

日ヲ重テ遂ニ隧道ノ工事成ル此ニ皇子等始メテ山外ノ光輝ヲ望ミ亞イテ隧道ヲ出デ、眼下ニ環流セルナイル河(尙ホ狹隘ナル奔流タリ)ヲ瞰ル。

於此手皇子ハ旅行ノ快樂ヲ豫想シ身ハ既ニ父帝ノ領外ニ在ルノ思ヒナシ恍惚トシテ四方ヲ眺望ス。然ルニイムラツクハ既往曾テ瞰チ經一旦倦厭ノ情ヲ生ジタルコトアルヲ以テ目下ノ感想少シク皇子ニ異ナル所アリ。今皇子ハ廣濶無邊ナル宇内ノ光景ヲ眺メ心大ニ愉快ヲ感シテ容易ニ溪宮ニ還ルヲ諾セザルニ至ル而シテ後チ皇子ハ隧道全ク開通シ旅裝ヲ整フルノ外復タ一事ノ爲スベキモノアラザルヲ皇女ニ告ゲタリ。

### 第十五章

#### 皇子及皇女溪ヲ去ル而シテ多クノ異常ヲ見ル

皇子及皇女ハイムラツクノ指揮ニ依ツテ彼等ガ彼等ノ衣服ニ於テ隠セシ所ノ彼等ガ商法ノ場所ニマテ來リシ何時アモ彼等ヲシテ宮マシムベク充分ナル寶石ヲ持テシ而シテ次ノ満月ノ夜ニ於テ總テ去リシ。皇女ハ彼女ガ何處ヘ行キツ、アリシカナ知リナサヤリシ所ノ單ナル合意者ニ依ツテノミ從ハレテアリシ。

彼等ハ窺ミヲ通ホシテ逍遙セシ而シテ他ノ傍ノ上ニ降ルベク始メシ。皇女及ヒ彼女ノ婢ハ各ノ部分ノ方ニ彼等ノ眼ヲ轉セシ而シテ彼等ノ眼界ヲ限ルベク何モテ見メ所テ恐ロシキ空虚ニ於テ失ハレテアル事ノ危難ニ於テノ如ク彼等自身ヲ考ヘシ彼等ガ停步セシ而シテ饑餓セシ。皇女ハ云ヒシ「妾ハ旅行其二付テ妾ガ端涯ヲ氣付ケ能ハヌ所ノ旅行ヲ始ムルベク而シテ此廣漠タル平原其處ニ妾ハ妾ガ決シテ見サリシ所ノ人ニ依ツテ各ノ傍ニ於テ近寄ラレ得ル所ノ此廣漠ナル平原ニマテ試ムルベク幾ンド恐レテアル。」

皇子ハ幾ンド同一ナル感動ヲ感セシ縱令彼ハ彼等ヲ秘スルコトノ其ガ尙多ク男ヲシク考ヘシトハ云ヘトモ。

イムラツクハ彼等ノ長怖ニ於テ微笑セシ而シテ進ムベク彼等ヲ勵マセシ。乍併皇女ハ彼女ガ還ルベク除リ遙カ前方ニ知レ難クニ引カレテアツタリシマテ無決斷ニ續キシ。



朝ニ於テ彼等ハ彼等ノ前ニ牛乳及ビ果實ヲ置ク所ノ野ニ於テノ或牧羊者ヲ見出  
 セシ皇女ハ彼女が彼女ノ嬰囀ニ向ツテ用意サレタル場所及ビ美味ヲ以テ感ラ  
 レタル食卓ヲ見ナサリシ事ヲ奇シシ在併弱リテ而シテ飢エテ彼女ハ牛乳ヲ  
 飲ミ而シテ果實ヲ食ヒシ而シテ溪ノ産物ヨリハ尙高キ香味ニ就テ彼等ヲ考ヘシ  
 彼等ハ苦痛或ハ困難ニマテ總テ慣ラサレズニアル所ヲ容易ナル旅行ニ依ツテ前  
 ノ方ニ旅行セシ而シテ總令彼等ハ失ハレテアリ得シトハ云ヘ彼等ガ追尾サレテ  
 アリ能ハザリシ事ヲ知ル所ヲ(容易ナル旅行ニ依ツテ前ノ方ニ旅行セシ)儘ノ日ニ  
 於テ彼等ハイムラツクガ驚嘆其ハ彼ノ伴侶ガ仕方有様及ビ使用ノ種々ナル  
 於テ云表ハセシ所ノ驚嘆ヲ以テ樂マサレテアリシ所ノ尙多ク多人口ナル地方ニ  
 マテ來リシ。  
 彼等ノ衣服ハ秘藏スベキ或物ヲ持ツコトノ疑ヲ彼等ノ上ニ持來タシ得ザリシ如  
 キ斯様ナルモノテアリシ尙彼が來リシ何處デモ皇子ハ從順サレテアルベク豫期  
 セシ而シテ皇女ハ彼女ノ眼前ニマテ來リシ所ノ其等ガ彼女ノ前ニ彼等自身ヲ俯  
 伏シナサリシ故ニ驚カサレテアリシ。イムラツクハ彼等ガ彼等ノ非指ナル容子  
 ニ依ツテ彼等ノ位階ヲ顯ハスデアラウヲ恐レテ大ナル警戒ヲ以テ彼等ヲ注目  
 スベク通ラレテアリシ而シテ普通ノ人ノ視エニマテ彼等ヲ慣ラズベク最初ノ村  
 落ニ於テ數週彼等ヲ逗留サセシ。

漸次王家ノ通歴者が彼等ハ彼等ノ威儀ヲ一時ノ間放棄シタリシ事ヲ了解スベク  
 敬ヘラレテアリシ而シテ寛大及ビ丁寧ガ得能ヒシ如キ斯様ナル尊敬ヲノミ豫期  
 スベクアリシ(了)了解スベク敬ヘラレテアリシ而シテイムラツクハ多クノ異見  
 スル(了)ニ依ツテ港ノ騒擾ニ耐エルベク而シテ商業種族ノ粗野ニ耐エルベク彼等  
 ナ準備シタ所ヲ海岸ニマテ下ニ彼等ヲ持來タセシ。  
 皇子及ビ彼ノ姊妹其者ニマテ各ノ事物ガ新シクアリシ所ノ皇子及ビ彼ノ姊妹ハ  
 總テノ場所ニ於テ一様ニ満足サレテアリシ而シテ其故ニ尙遙カ經過スルベキ或  
 ル意向ナシニ港ニ於テ或月ノ間逗留セシ。イムラツクハ外國ノ危フサニマテ世界  
 ニ於テ慣ラサレザル彼等ヲ曝ラズベク其ヲ安全ト彼ハ考ヘナサリシ故ニ彼等  
 ノ滞留ヲ以テ満足シテアリシ。  
 遂ニ彼ハ彼等ガ發見サルルテアラウヲ恐ルルベク始メシ。而シテ彼等ノ出發  
 ニ向ツテ日ヲ定ムルベク云出セシ彼等ハ彼等自身ニ向ツテ判斷スベキ一ツノ云  
 前ヘテ持タザリシ而シテ彼ノ指揮ニマテ全キ企圖ヲ與ヘシ。彼ガ其故ニスエズニ  
 マテ概ニ於テノ通路ヲ取リシ而シテ時が來リシトニ大ナル困難ヲ以テ船ニ入込  
 ムベク皇女ノ上ニ脱伏セシ。彼等ハ迅速ナル且ツ安全ナル航海ヲ持テシ而シテス  
 エスカラ指露ニマテ陸ニ依ツテ旅行セシ。

其十五

皇子及ビ皇女溪間ヲ脱出シ未驗ノ旅行ニ滿目皆奇ナルヲ覺フ。



皇子刺世拉斯及ビ皇女禰伽也ハイムラツクノ指揮ニ從ツテ寶石ヲ懷ニス蓋シ此寶石一旦市場ニ出テ、之ヲ沽却セバ巨額ノ資財ヲ得ベキモノニシテ則チ旅費其他ノ準備タリ斯クテ全ク旅裝ヲ整ヘ満月ノ夜ニ乗ツテ一同相携ヘ溪間ヲ去ル。當時皇女ハ一人ノ婢ヲ携フ而シテ此婢常ニ皇女ノ殊寵ヲ蒙レルモノニシテ今隨行ヲ命ゼラレナガラモ其何レニ行カムトスルヲ知ラザリシナリ。

皇子以下一行夫ノ隧道ヲ通過シテ山背ニ出テ漸ク降路ニ向フ。其時皇女及ビ隨行ノ婢ハ首ヲ回ラシテ四顧シケルガ廣野茫茫々其陣ヲ遮ギルモノアラザルヨリ恐ルベキ空虚ニ彷徨シテ遂ニ往還ノ途ヲ失フベキ危難ニ陥ルモノ、如ク感起シ。頓ニ歩ヲ停メテ震慄ス。於此乎皇女ハ曰ク「妾今前途遙遠得テ其畢竟ズル所ヲ知リ難キ旅途ニ上リ到ル處東西トナク北南トナク孰レノ方面ヨリモ妾ガ曾テ見ズ知ラザル人々ニ近ヅカレ得ベキ此廣漠タル原野ニ進入スルニ當リ悚懼幾ソド措ク能ハザルナリ」ト

又皇子ハ其身荷モ男子ニシテ之ヲ色ニ表ハシ語ニ出ダサム事實ニ耻ツベキ所爲ナリト辨ヘ強ヒテ秘密ニ付シカリト雖モ心裡ノ所感畧皇女ト同一ナリ。

イムラツク早クモ皇子等ノ疑懼ヲ懷ケルヲ見テ徐ロニ微笑ヲ洩ラシ且勵マシテ歩ヲ進メシメムトシケレドモ尙ホ皇女ハ斷然其就ク所ヲ決スル能ハズ内心五六里霧中ニ彷徨シテ歩々夢路ヲ迎ルノ思ヒナリシガ遂ニ遙カニ進ムニ及ビテ始メテ其意ヲ決セリト云フ。翌日皇子等一行ハ一人ノ牧羊者ニ遇ヒ就テ牛乳及ビ果實ヲ求ム。維時皇女ハ響應ノ爲ニ準

備サレタル塲所モナク美饌ヲ排列シタル食卓モアラザルヲ以テ心大ニ之ヲ奇シミタリト雖モ而カモ疲勞且空腹ヲ感シタルヲ以テ則チ牛乳ヲ飲ミ果實ヲ喫シ而シテ其香味溪間ノ所産ヨリハ更ニ優ル、モノアルヲ覺エタリ。

抑モ此一行唯リイムラツクヲ除クノ外ハ曾テ苦痛且辛酸ニ慣レザルヨリ今ニ於テ注意セザレバ遂ニ歩ニ難キニ至ルベク且ハ其脱出ノ事直チニ宮人ニ知ラレムハ勿論ナレドモ而カモ逃奔ノ通路知り得ベカラザルヲ以テ追躡逮捕セラルベキニアラザルヲ知レバ悠々緩々以テ行途ニ向ヘリ。數日ニシテ一行稍々住民多キ地方ニ到ルイムラツクハ皇子等ガ其地人民ノ風俗執務頗ル目新ラシキヲ實見シ相語ツテ驚嘆セルヲ見テ獨リ其心神ヲ慰メヌ。

蓋シ皇子等ノ扮粧ハ世ノ嫌疑ヲ避ケムガ爲メ毫モ常人ト擇ブ所ナカルベキヲ注意シタレドモ尙ホ皇子ハ到ル處其身万民ノ尊敬ヲ受クベキヲ期シ且皇女ハ其面前ニ近ヅケルモノ皆身ヲ屈シテ禮ヲ施スコトアラザルヲ訝レリ。於此乎イムラツクハ皇子及ビ皇女ノ尊大ナルヨリ自然其素性ヲ顯ハスニ至ルベキヲ恐レ惟ヘテ今ニ於テ深ク戒心スル所アラズンハ早晚臍ヲ嚙ムモ及ブナキノ事ニ遭フベシト則チ皇子等ヲシテ平民ノ容狀ニ慣レシメム爲メ最初到着セル村落ニ數週間滯留セシメタリ。

日ヲ逐フテ漸ク是等王家ノ遍歴者ハ身既ニ尊嚴ナル地位ヲ離レタルモノニシテ今ヤ我彼ニ懇懇敬禮ヲ施セバ彼亦我ヲ敬スベク否ラズンハ更ニ他ノ尊崇ヲ受クベキニアラザルヲ領解スルニ至レリ又。イムラツクハ頻リニ皇子等ヲ戒メテ港市ノ熱鬧ト商民ノ粗野ニ耐得ルニ



至ラシメ之ヲ確メテ後始メテ海岸ニ伴ヘリ。

皇子及ビ皇女ハ見ル物皆珍奇ナラザルナキヲ以テ其孰レノ地ニ至ルモ等シク快樂ヲ感ズルヨリ更ニ遙カニ進マムコトノ意向ヲ生ゼズシテ數月間港市ニ滞在ス。然ルニイムラツクハ曾テ世ノ風潮ニ慣レザル尊門ノ子女ヲシテ外國渡航ノ危険ヲ冒サシメムハ未ダ以テ安全ナリトスベカラザルヲ感シ爲ニ其滞在ヲ喜ベリ。

既ニシテイムラツクハ皇子等ノ遂ニ其素性ヲ看破サル、ニ至ルベキ恐ルヲ感起シ爰ニ發出ノ日ヲ定メムコトヲ案ヲ出デタル然ルニ皇子ハ自ラ爲ニ判斷スベキ智能ナク從ツテ之ヲ左右スルノ口實ヲ有セズニイムラツクノ指揮ニ任シタルヲ以テ。先ヅ海路スエズニ到ラムト決ス而シテ其出帆ノ當日ニ及ビ皇女乘船ヲ否ミケルヲイムラツク百方之ヲ説得シ漸ク其承諾ヲ得テ則チ一同乗船シ海上恙ナク迅駛速航豫定ノ岸ニ到着シ而シテスエズヨリ陸路格露府ニ進メリ。

### 第十六章

彼等格露ニ入込ム而シテ各ノ人ヲ幸福ト見出ス。

彼等ガ市府其ハ驚愕ヲ以テ外國人ヲ充タセシ所ノ市府ニ近寄リシ時ニ皇子ニマアイムラツクガ云ヒシ之ハ旅行者及ビ商賈ガ地球ノ總テノ隅々カラ集マル所ノ場所デアアル。汝ハ此處ニ各ノ性質及ビ各ノ職業ノ人ヲ見出ステアラウ。商業ガ此處ニ貴ブベクアル予ハ商人トシテ行フデアラウ而シテ汝ハ好奇心ヲハ旅行ニ就テ一ツノ企テヲ持タヌ所ノ外國人トシテ住ムデアラウ予輩ガ富ムデアアル也ノ其

ガ速ニ注目サレテアルデアラウ予輩ノ名譽ハ予輩ガ知ルベク願フデアラウ所ノ總テニマア近接ナリ予輩ニ得サスルデアラウ汝ハ人情ノ總テノ狀態ヲ見ルデアラウ而シテ急ガズニ汝ノ生活ノ擇ビナナスベク汝自身ヲ適當ニスルデアラウ。ト彼等ガ今町ニ入込ミシ處キニ依ツテ群集ニ依ツテ乱サレシ。教訓ガ未ダ左様ニ習慣ナ越エテ流行セナンタリシ乍併彼等ハ街衢ニ沿フテ區別サレズニ通過シテ而シテ尊敬若クハ注目ナシニ人民ノ最モ低キモノニ依ツテ出會サレタル彼等自身ヲ見ルベク驚キシ。皇女ハ最初平人ト平行サルノ事ノ考ヘテ耐エ能ハザリシ而シテ若干日ノ間彼女ガ溪ノ宮殿ニ於テノ如ク彼女ノ親愛者ヘクアニ依ツテ務メラレテアリシ所ノ彼女ノ室ニ於テ續キシ。

商賈ヲ了解セシ所ノイムラツクハ翌日寶石ノ部分ヲ賣リシ而シテ彼カ直チニ大ナル富ノ商人トシテ考ヘラレテアリシトホド斯様ナル壯麗ヲ以テ彼ガ飾リシ所ノ家ヲ借りシ。彼ノ親切ガ多クノ面識ヲ惹キシ而シテ彼ノ寛大ガ多クノ屬者ニ依ツテ阿子ヲレテ彼ヲ爲セシ。彼ノ食卓ガ總テ彼ノ智識ヲ賞歎セシ而シテ彼ノ親愛ヲ願ヒシ所ノ各ノ國民ノ人々ニ依ツテ群集サレテアリシ。彼ノ伴侶ガ會話ニ於テ混ズベク適當デアラヌ所ヲ彼等ノ無知若クハ驚異ニ就テ一ツノ發見ヲ爲シ能ハザリシ而シテ漸次彼等ガ言語ノ智識ヲ得シ時ニ世界ニ於テ教ヘラレテアリシ。皇子ハ歷々ナル解釋ニ依ツテ貨幣ノ用弁及ビ性質ヲ教ヘラレタ乍併貴女ガ長キ



時ノ間金及ビ銀ノ小片ヲ以テ商人ガナセシ所ノモノ若クハ何故ニ左様ニ儲カナル用井ノモノガ生活ノ必須物ニマテ同價トシテ受領サレテアルデアラウカヲ領解シ能ハザリシ。

彼等ハ二年曾爾ヲ學ビシ然ル間イムラツクハ人類ノ種々ノ位階及ビ狀態ヲ彼等ノ前ニ置クベク用意シツヽアリシ。彼ハ凡テ其人ハ彼等ノ運命或ハ行爲ニ於テ非常ナル或物ヲ持テシ所ノ凡テト熟知サレテナリシ。彼ハ放逸及ビ吝嗇怠慢及ビ枯索商賈及ビ學ブノ人ト交リシ。

皇子ガ今口開宜キヲ以テ會話スベク適當テアル所テ而シテ外國人ト彼ノ交接ニ於テ注意サレテアルベキ必要ナル警戒ヲ學ンタ所テ彼ノ生活ノ擇ビナシ得シ事ノ爲メニ集會ノ場所ニマテイムラツクニ伴フベク而シテ總テノ集會ニ入込ムベク始メシ。

同シ時ヨリ彼ハ擇ビテ不必要ト考ヘシ如何トナラハ總テガ一様ニ幸福ト彼ニマテ見エシ故ニ。彼ガ行キシ何處テモ彼ハ快樂及ビ親切ヲ得シ而シテ歡喜ノ歌若クハ無氣ノ笑ヒヲ聞キシ。彼ハ世界ノ宇宙ノ澤山ヲ以テ汎濫タル事及ビ何モガ慾望カラカ或ハ功德カラカ教レモ控ヘラレテアラサリシ事各ノ手が寛大ヲ溜キシ而シテ各ノ心ガ仁慈ヲ以テ溜グシ事ヲ信ズベク始メシ。而シテ誰ガ然ルキニ離濫ニサレテアルベク惱ミテアルデアラウカト彼ハ云ヒシ。

イムラツクハ樂シキ迷妄ヲ許セシ而シテ未經驗ノ希望ヲ撰クベク嫌ヒツヽアリシ。一日一時無言ニ坐シタ所テ「予ハ予ガ予輩ノ友人ノ或者ヨリハ尙多ク不幸テアル」ノ道理ガ何テアリ能フカヲ知ラヌ。予ハ永久ニ而シテ不變ニ愉快ト彼等ヲ見ル乍併子自身ノ心ハ休ミナク而シテ不安ニ感ズル。予ハ予ガ最も多ク阿ネルベク見ユル所ノ其等ノ快樂ヲ以テ満足サレヌニアル。予ハ予自身ヲ迷ルヘキタケ左様ニ多ク樂シムベキナク面白キノ群集ニ於テ住ム。而シテ唯ダ予ノ悲哀ヲ秘スベク高聲且ツ娛樂テアル。ト皇子ガ云フヌマテ。

イムラツクハ云ヒシ各ノ人ハ彼自身ノ心ヲ吟味スル。ト依ツテ他者ノ心ニ於テ通過スル所ノモノヲ想像シ得ル。汝ハ汝自身ノ快樂カ僞作テアル。ト感ズル時ニ其ガ誠實デアラヌベク汝ノ伴侶ノ其ヲ疑フベク正シク汝ヲ導キ得ル。猶如ハ普通ニ相互デアアル。予輩ハ予輩ガ幸福ハ決シテ見出サレテアルベクアラヌ事ヲ自信シテアル。前長クアル而シテ各ハ彼自身ニ向ツテ其ヲ得ル。ト希望ヲ生キナガラ保ツベク其ガ他者ニ依ツテ所有サレテ信ズル。汝ガ前夜通過セシ所ノ會合ニ於テ其處ニ注意或ハ悲哀ニマテ近寄ルベカラザル尙晴レヤカナル地方ニ住フヘク形造ラレタル尙高キ階級ノ活物ニ適當シ能フタ如キ斯様ナル風采ノ活潑及ビ思想ノ輕快が見エシ。而カモ予ヲ信セヨ皇子。其處ニ福居ガ回想ノ憂慮ニマテ彼ヲ逐フデアラウ時ノ瞬間ヲ恐レナサリシ所ノ一ツガアラザリシト。



皇子が云ヒシ「其が子ニ就テ信實アル以來此が他者ニ付テ信實アリ得ル而カ  
 モ人ノ一般ノ禍災が何デアルトモ一ノ状態カ他者ヨリハ尙多ク幸福デアアル而シ  
 テ才智が確ニ生活ノ擇ビニ於テ最值ナル者ヲ取ルベク子輩ヲ指向クル」ト  
 イムラツクハ答ヘシ「等及ビ愚ノ原因ガ彼其人ハ撰擇ノ事フベカラザル道理ノ上  
 ニ彼ノ位置ヲ定ムルデアラフ所ノ彼ガ吟味シツ、而シテ勸考シツ、生活シ而シ  
 テ死テホバナラヌ事ホト左様ニ種々テ而シテ不確カテ左様ニ歴々相互ト共ニ混  
 雜サレテ左様ニ種々ノ關係ニ依ツテ變更サレテ而シテ豫見セラレ能ハヌ所ノ偶  
 然出來事ニマテ左様ニ多ク從ヘラレテアル」ト  
 刺世拉斯ハ云ヒシ「乍併確ニ才智ナル人其者ニマテ子輩ガ尊敬及ビ驚嘆ヲ以テ聞  
 ヲ所ノ才智ナル人が彼等ガ彼等ヲ幸福ニナスベク最多ク實ラシク考ヘシ所ノ生  
 活ノ其方法ノ彼等自身ニ向ツテ撰擇ス」ト  
 詩人が云ヒシ「其が値ガ撰擇ニ依テ住ム。各ノ人ハ原因其ハ彼ノ前観ナシニ働キン  
 所ノ而シテ其ヲ以テ彼ハ常ニ好ムテ手傳ヒナサリシ所ノ原因ニ依ツテ彼ノ現  
 在ノ位置ニ於テ置カレテアル而シテ其故ニ汝ハ希ニ彼自身ノヨリハ尙更ク彼ノ  
 隣人ノ運命ヲ考ヘナサヌ所ノ人ニ出會スルデアラヤ」ト  
 皇子ハ云ヒシ「子ノ生誕ハ子自身ニ向ツテ決定スベク子ヲ適當ニスル事ニ依ツテ  
 少クモ他者ヲ越エテ一ツノ利益ヲ子ニ與ヘテ事ヲ考フルベク樂マサレテアル。子ハ

此處ニ子ノ前ニ世界ヲ持ツ子ハ徐々ニ其ヲ再開スルデアラツタ。幸福ハ見出サ  
 ルベキ或處ニアルト

其十六 皇子等一行楷露府ニ入り万民各幸運ニ遇スルヲ見ル。

既ニシテ皇子等一行埃國ノ首都楷露ニ近ツクヤイムラツク皇子ニ告ゲテ曰ク「抑モ此楷露ト  
 稱スルハ旅人商賣世界各國ヨリ群集セル盛都ニシテ。殿下一旦足ヲ該府ニ履レ給ハハ各  
 種ノ性行各種ノ業務ノ人々ヲ發見シ給フベシ。該府素ト商業ヲ貴ベル所臣ハ當サニ商人ヲ  
 ルナ粧フベケム殿下ハ單ニ遊覽ヲノミ福旅ノ目途トシ他ニ更ニ索ムベキ所ナキ異邦人トシ  
 テ滯留シ給フベシ斯ノ如クナラムニ於テハ子輩ノ富有直チニ人ノ注目スル所トナルベク。  
 爲ニ傳ヘラレタル子輩ノ名聲ハ苟モ子輩ガ面識ヲ得ズト欲スル各ノ人ニ接スルヲ得セシム  
 ベシ而シテ殿下ハ徐ロニ世路進歩ノ方向ヲ、得テ親ラ撰ビ給フニ至ルベキナリ」ト。  
 斯クテ一行府内ニ入ル本來世上ノ状態ニ蒙昧ナル皇子等ハ始メテ般賑昌盛ナル大都會ノ地  
 ナ履ムテ滿目皆驚嘆ノ料ナラザルハナク其熱鬧喧噪ノ爲ニ耳聾シ群民雜襍ノ爲ニ肝消エ  
 ヌ義キニイムラツク皇子及ビ皇女ニ教フルニ尊大ノ風アルナク勗メテ其尊族ノ子女タルヲ  
 秘スベキヲ以テシケルニ訓戒尙未ダ習慣ヲ制スルニ及バズシテ皇子皇女共ニ街路通行ノ際  
 毫モ常人ト別アルナク且賤輩與族ノ已等ニ遇フモ尊敬ヲ施スハ勿論注目ダモセズシテ平然  
 行過クルヲ見、心裡大ニ奇怪ヲ感ズ。殊ニ皇女ハ始メ其身ノ平民ト同等視セラル、チ爾ユ  
 ル能ハズ數日ノ間ハ會テ溪宮ニ在リシ日ノ如ク愛婢ベクアニ侍カレテ旅舎ノ一室ニ閉籠リ



敢テ外出セザリシトゾ。

曾テ商事ニ經驗アルイムラックハ着都ノ翌日皇子等ガ携帶セル夫ノ寶石ノ幾分ヲ賣却シ尋  
イテ旅寓ニ充ツベキ居宅ヲ借り華麗ヲ極メテ之ヲ裝飾ス爲ニ數日ヲ出テズシテ大富商ト認  
メラルニ至レリ。於此乎イムラックハ懇懇以テ幾多ノ知人ヲ造リ寛大以テ衆人ノ尊敬ヲ收  
メタルヨリ。其食堂ニハ氏(イムラックヲ指ス)ノ博識多智ナルヲ讚嘆シテ懇親ヲ冀望スル  
各國民群集スルニ及ビヌ。然ルニ皇子等ハ他國ノ言語ニ通ザルヲ以テ是等衆客ト交談スル  
ヲ得ザレハ從ツテ其無智ナルヲナモ又世上ノ珍奇ナルヲモ絶エテ發見スル能ハズ而シテ  
言語ノ學習ニ從事シ稍々之ヲ解シ得ルニ及ビテ漸次世事ヲ學ブニ至レリ。

又皇子ハ屢々解説ヲ請フテ漸ク貨幣ノ用ト其性質ヲ知ルニ及ビタレドモ皇女ハ久シク之ヲ  
解セズ商賈ガ金銀ノ小片ヲ用非テ何等ノ事ヲヤ爲セルト訝リ若クハ何ガ故ニ斯ル細小物ガ  
日常必須品ト同價トシテ使用セラル、ヤチ奇シメリ。

皇子等言語學習ニ時日ヲ費ヤスニト二閱年其間イムラック皇子等ヲシテ人世各種ノ位地情  
態ヲ會得セシムルノ準備ヲナシ。勵メテ命運ノ異常ナル若クハ行爲ノ異類ナル友人ヲ索メ  
放蕩家客裔家遊情家劇務家及ビ商業家學藝家等ニ交際セリ。

今ヤ皇子語學履修ノ功積モリテ自在ニ談話ヲ交ヘ得ルニ至リ且ツ漸ク外人ト交際上必要ナ  
ル注意ヲ知了シタルヲ以テ其處世ノ途ヲ擇ハム爲ニイムラックニ伴ハレテ集會場ニ至リ各  
種ノ會同ニ列スルノ端ヲ發ケリ余來皇子ハ其處世法ノ撰擇ヲ必要ナシトスルニ至ル蓋シ其

見ル所万民皆同等ノ幸運ニ遇スルヲ以テナリ。

則チ皇子ハ其到ル所快樂ト懇篤トヲ得、歡喜ノ唱歌愉快ノ笑聲ヲ聞キ。世界ハ豊實ニシテ  
凡百ノ品物充滿シ事トシテ欲乏セルハナク各人ノ手ハ慈惠ノ雨ヲ降ラシ各人ノ心ハ博愛ヲ  
以テ相融和スルヲ信ズルニ及ベリ當時皇子ハ曰ク「世上既ニ斯ノ如シ誰カ辛楚ヲ歎ズルモ  
ノアラムヤ」ト。

イムラック假リニ皇子ノ迷妄ヲ然リトス是レ其妄ヲ辨シ謬ヲ正シテ一時ニ前途ノ希望ヲ摧  
カムヨリ寧ロ皇子ヲシテ自ラ經驗知得スルニ至ラシメムト期セルヲ以テナリ。然ルニ皇子  
ハ日ヲ經テ自得スル所アリシト覺エ一日暫時默坐シタル後チ徐ロニ語ツテ曰ク「予ハ吾曹  
ノ親友中何人ヨリモ不幸ナル其理由ノアル所ヲ辨ヘ能ハザルナリ予ハ親友諸輩ノ終始不變  
ニ愉快ナルヲ見ルト雖モ而カモ予ノ心ハ常ニ慊焉タルコトナク從ツテ晏然タル能ハザルヲ  
覺ユ。蓋シ予ハ幾ンド阿諛ニ類スルノ快樂ヲ以テ自ラ満足スル能ハス快活ナル會同ニ列ナ  
ルモ愉快ヲ感ズルヲアラザルハカリカ却ツテ之ヲ避ケムトスルニ至ル而シテ席上予ノ高談  
笑語スルハ唯是心裡ノ悲歎ヲ秘スルノ策ノミ」ト。

イムラック曰ク「凡ソ世人皆自ラ其心ニ鑒ミテ以テ他人ノ心事如何ヲ知ルモノダレハ殿下自  
ラ我快樂ノ假爲タルヲ感シ給ヘル時ハ從ツテ友人諸子ノ快樂モ亦假爲タルベキヲ想像シ給  
ハムコト是至當ノ推測ニシテ實ニ間然スル所アラザルナリ。蓋シ猜嫉ノ念慮ハ人皆互ニ懷  
ケルモノニシテ。幸福遂ニ得難キヲ自信スルニ至ルニハ幾星霜ノ長キヲ要シ其間常ニ汲々



トシテ之ヲ索ルモノ他人ヲ見レハ業ニ既ニ幸福ヲ享受シツ、アル如ク感セラレ從ツテ之ヲ羨慕スルノ念ヲ喚ブ而カモ深ク考究セハ真ニ幸福ノ境遇ニ在モノ世上復タ一人トシテアラザルナリ。殿下ノ昨夜列席シ給ヒタル宴會ノ如キハ臨會ノ諸人皆配慮悲歎ノ近接スベカラザル樂土ニ住ヘルモノ、如キ活潑ナル風采輕快ナル意想ヲ顯ハシツ、アリタレドモ尙且散會後ノ獨居寂寥ナル時ニ及ムデハ孰レモ彼此回想幾多ノ妄念ニ心神ヲ惱マサレザルハアラザルナリ殿下請フ旃ヲ鑒ミヨト

皇子曰ク「足下ノ云フ所既ニ予ニ於テ眞實タレバ他ニ於テモ亦然ラム而カモ世上一般ノ禍災ヲ攔キ人々其位地ヲ異ニスルニ從ツテ甲ハ乙丙等ヨリモ更ニ多幸多福タル事アレハ處世ノ方向其最モ禍害ノ少ナキヲ擇取スベキコト是レ才智ナル處置ト云フベクム」ト

イムラツク答ヘテ曰ク「利害ノ基ク所、撰擇ノ爭フベカラザル道理ヲ究メテ以テ其所就ヲ定メムトスル人ハ終身推考熟慮ニ日月ヲ費ヤサトルヲ得ザル如キ種々且ツ漠然タルモノニシテ動モスレバ相互混乱シ種々ノ關係ニ依ツテ變更シ且ツ預メ察知スルコト能ハザル偶然ノ事變ニ依ツテ頓發スル等質ニ之ヲ究メ得ベキニアラザルナリト

皇子曰ク「然レドモ吾曹ガ尊敬嚮慕ヲ以テ其人ノ所説ヲ傾聽スル如キ智者ニアツテハ必ズヤ最モ自身ヲシテ幸福タラシムルニ幾キ處世ノ方法ヲ擇ブベクム」ト  
イムラツク曰ク「處世法ヲ擇取シテ其所就ヲ定メタルモノ實ニ極メテ希レナリトス。人概チ預メ之ヲ察知スルコトナク且ツ常ニ好ムデ之ヲ得ム爲ニ力ヲ竭シタルコトナキ換言セバ預

知預期セザル原因ニ依ツテ現在ノ境遇ニ在ルモノタルヲ以テ殿下能ク意ヲ留メ給ハムニハ已レノ幸福ヨリモ他ハ更ニ優越セリトシテ之ヲ羨マザルモノ極メテ少ナキヲ認メ給ベシ」ト

皇子曰ク「予幸ヒニ尊族ニ生レテ爲ニ自身就クベキノ撰擇ヲナスニ少クモ他者ニ優サリテ一利ヲ得タルヲ考ヘ及ビ毎ニ喜ハザルハナキナリ。世界予ノ目前ニアリ向後予ハ徐ロニ考究ヲ廻ラシテ確然幸福ノ發見スベキ所ヲ索ムベクム」ト

### 第十七章

#### 皇子才氣且快活ノ若者ト結交ス

刺世拉斯ガ翌日起キシ而シテ生活ノ上ニ彼ノ經驗ヲ始ムルベク決定セシ。彼ハ叫ビシ「少壯時ハ歡喜ノ時テアル。予ハ若キ人其人ノ唯一ノ務ガ彼等ノ願望ヲ満足スベクアル所ノ而シテ其人ノ時ガ快樂ノ引續キニ於テ總テ費ヤサレテアル所ノ若キ人ニマテ予自身ヲ結合スルデアラウ」ト

斯様ナル會友ニマテ彼ガ容易ニ許サレテアリシ乍併數日ガ疲勞且ツ胸惡カサレテ後ニ彼ヲ持來タセシ彼等ノ愉快ガ意想ナシテアル彼等ノ笑ガ感動ナシテアル彼等ノ快樂ガ昇野テ而シテ暗慾テアル其ニ於テ心ガ一ツノ部分ヲ持タザリシ。彼等ノ行爲ガ一度ニ粗暴テ而シテ野鄙テアル彼等ガ秩序ニ於テ而シテ法律ニ於テ笑ヒシ乍併權カノ幾面ガ彼等ヲ憂ニシ而シテ才智ノ眼ガ彼等ヲ辱カシメシ。皇子ガ速ニ彼ハ決シテ生活ノ進ミ其ニ付テ彼ガ耻チラレテアリシ所ノ生活ノ進



ミニ於テ幸福デアラヌデアラウ事ヲ決定セシ。彼ハ計畫ナシニ働クベク而シテ機  
會ニ依ツテノミ悲ミ或ハ愉快デアルベク其が理想ノ活物ニマテ不適當ト考ヘシ  
彼ハ云ヒシ「幸福ハ畏怖ナシニ且ツ不確固ナシニ確キ且ツ不朽ナル或物デアラシ  
マナラヌ」ト

乍併彼ノ若キ伴侶が彼が警戒而シテ疎離ナシニ彼等ヲ見棄テ能ハサリシ事ホド  
左様ニ多ク彼等ノ信情及ビ叮嚀ニ依ツテ彼ノ尊敬ニ付テ得タリシ。彼ハ云ヒシ  
「予ノ親友ヨ予ハ予輩ノ仕方及ビ予輩ノ容貌ニ付テ殿シク考ヘタ而シテ予輩ハ予  
輩自身ノ利益ヲ睨ツテ取テ發見シタ。人ノ最初ノ年ハ最後ニ向ツテ進歩ナササ  
マナラヌ。決シテ考ヘヌ所ノ彼ハ決シテ才智デアリ能ハヌ。永久ノ浮世ガ無智ニ於  
テ終ラネマナラヌ而シテ縱令其ガ一時ノ間神氣ヲ燃シ得ルトハ云ヘ度外ハ生活  
ヲ短ク若クハ難進ニナスデアラウ。予輩ヲシテ少壯ガ一ツノ長キ續キニ就テアラ  
ヌコト而シテ想像ノ迷ハシガ止ムデアラウ而シテ快樂ノ幻像ガ最早踊ラヌデア  
ラウ時ノ尙熟シタル齡ニ於テ予輩ハ才智ナル人ノ價ツケ及ビ善ヲ爲スノ方便  
ノ外一ツノ愉快ヲ持タヌデアラウ。予輩ヲシテ考察セシメヨ。其故ニ予輩ヲシテ停マル  
ガ予輩ノカニ於テアル間停マラシメヨ。予輩ヲシテ人其人ハ時トシテ老ヒテナル  
ベクアル所ノ而シテ其人ニマテ愚癡ニ依ツテ彼ノ過去ノ年ヲ計フルベク而シテ  
暴飲ガ生ツタ所ノ疾病ニ依ツテノミ健康ノ彼ノ以前ノ奢侈ニ就テ追憶サレテア

ルベク其が總テノ害惡ニ付テ最多ク恐ロシクアルデアラウ所ノ人トシテ生活セ  
シメヨ。

彼等ガ一時相互ロニ沈黙ニ於テ深睡セシ而シテ遂ニ續キタル笑ヒノ一般ノ群ニ  
依ツテ彼方ニ彼ヲ逐ヒシ。

彼ノ感情ガ正シクアリシ而シテ彼ノ企圖ガ親切デアリシノ知覺ガ幸シク剛笑  
ノ恐レニ對シテ彼ヲ支持スベク充分デアリシ。乍併彼ハ彼ノ平穩ヲ回復セシ而シ  
テ彼ノ探索ヲ續ケシ。

其拾七

皇子愉快活ナル青年輩ト交ヲ結ブ

其翌日皇子夜衾ヲ離レテ處世ノ實驗ヲ始メト決ス。乃チ曰ク「少壯ハ歡喜ノ時期ナリ。予  
ハ其願望ヲ満足セシムルニノミ乞々タル且ツ其時間ヲ全ク快樂ニノミ消過シ去レル青年ト  
交ルベキナリ」ト。而シテ容易ニスル青年社會ニ交ルヲ得タリト雖モ數日ヲ出デズシテ之ニ  
倦ミ且ツ不快ヲ感ズルニ至リヌ。蓋シ彼レ青年輩ノ愉快ハ理想アルアツテ後チ然ルニアラ  
ズ其僥笑ノ如キモ亦感情發動ノ結果タルニアラズ娛樂渾テ野鼻且ツ表面的ニシテ毫モ本心  
ニ基ク所アラザルハカリカ。其行爲モ亦粗暴鄙陋ニシテ秩序ヲ輕シシ法律ヲ蔑ニシ。而カ  
モ權威ニ畏縮シ智識ニ逃避スル等洵ニ卑シムベキ社會タルヲ以テナリ。

皇子既ニ處世ノ實驗ニ着手ス爾降未ダ幾クナラザルニ夙夕耻ツベキノ生活ハ決シテ幸福タ  
ルベキニアラザルヲ洞觀ス。且惟ヘラク期スル所ナウシテ動作シ偶發ニ臨ムテノミ悲歎若



クハ歡喜スル事是レ苟モ理想ヲ有スル活物ニシテハ毫モ其可ナルヲ知ラザルナリト。於此乎曰ク「幸福ハ畏懼不安ナルコトナクシテ鞏固永久ナルモノヲラザルベカラズ」ト

然ルニ皇子、彼レ青年輩ノ已レテ遇スルコト頗ル親切懇篤ナリシヲ思ヒテ今ヤ其社會ヲ去ルニ臨ミ警戒諫諍ヲ施スコトナク默爾トシテ之ヲ棄ツルニ忍ビストナシ。則チ曰ク「予ハ予輩ノ慣習ト前途トヲ精細考察シテ予輩ノ大ニ誤レルヲ發見セリ。夫レ人少壯ノ時ニ當ツテ須ラク晩年ノ計ヲ爲サトルベカラズ。曾テ考察ヲ廻ラサトルモノハ決シテ才智タルコト能ハザルモノニシテ、常ニ輕躁浮佻タラムニハ遂ニ終世ヲ蒙昧ニ送ラザルベカラザルナリ又飲食其度ヲ節セザレバ一時神氣ヲ熾シテシムル如クナルモ其害ノ及ブ所必ズヤ天壽ヲ短縮シ若クハ困厄ヲ來スベキナリ。須ラク考察スベシ人世少時ノ短キヲ又年齒既ニ長シテ空想止ミ虛望起ラザルノ期ニ及ビテハ智者ヲ貴ビ且ツ善事ヲ行フヲ以テ唯一ノ快樂トスベキコトナリ。然ルニ由リテ予輩自ラ止ムヲ得ベキ時ニ止ムベキナリ。蓋シ予輩モ早晚老耄ニ趣クベカレバ其期ニ及シテ過去ノ蒙昧ヨリ生シタル害惡及ビ節制ヲ守ラザルヨリ來タシタル病弱ヲ悔歎スルコトナカルベキナリ今ヨリ深ク省ミテ宜シク戒慎スベキナリ」ト

之ヲ聞キタル青年輩暫時互ニ各自ノ面ヲ凝視シテ默然タリシガ遂ニ衆口一齊冷笑ヲ溢ラシテ皇子ヲ放逐シタリ。

今ヤ皇子ハ其青年ニ對スル感情ヤ正當ニシテ其忠告ノ處置ヤ親切ナリト觀ズルニモ拘ハラズ而カモ彼輩ノ已レテ冷笑シタルヲ慍リシト雖モ須臾ニシテ心氣平穩ニ復シ再ビ其探究ニ

從事セリ。

### 第十八章

皇子才智ナル且幸福ナル人ヲ發見ス

彼ガ一日街衢ニ於テ歩ミツ、アリシ時ニ彼ハ總テガ開放シタル戸ニ依テ入込ムベク誘ハレテアリシ所ノ廣闊ナル建物ヲ見シ。彼ハ人民ノ流ニ從ヒシ而シテ理論ノ館若クハ學校其ニ於テ學士ガ彼等ノ聽衆ニ向ツテ講釋ヲ讀ミシ所ノ館若クハ學校ト其ヲ見出セシ。彼ハ情慾ノ支配ノ上ニ大ナル熱心ヲ以テ談論セシ所ノ爾余ノ者ノ上ニ高マリタル賢哲ノ上ニ彼ノ眼ヲ定メシ。彼ノ容貌ガ貴ムベク彼ノ行爲ガ優美テ彼ノ發言ガ明亮テ而シテ彼ノ語法ガ美麗デアリシ。彼ハ人間ノ性質ハ尙低キ才能ガ尙高キモノヲ越エテ支配スル時ニ下ケラレテ而シテ界シサレテアルコトヲ、情慾ノ觀ナル想像ガ心ノ支配ヲ篡奪スル時ニ不法ナル管治ノ自然ノ結果

—— 紛亂及ビ混雜 —— ノ外何モガ從ハヌ事ヲ、彼女ハ叛逆人ニマテ心智ノ城砦ヲ隨シ而シテ彼等ノ旋通リノ君主ノ道理ニ對シテ蜂起スベク彼女ノ兒童等ヲ勵マズ事ヲ感情ノ大ナル力及ビ説明ノ變化ヲ以テ示セシ。彼ハ太陽其ニ就テ光輝ガ不斷テ一以テ而レテ繼續スルコトアル所ノ太陽ニマテ道理ヲ比較セシ而シテ輝キタル乍併暫時ノ光輝ヲ其ノ運動ニ於テ不規則テ而シテ其ノ方角ニ於テ不定ナル流星ニマテ想像ヲ(比較セシ)。

彼ハ然ルル中ニ情慾ノ征服ニ向ツテ時代カラ時代マテ與ヘラレタル種々ノ先例ヲ



與ヘシ而シテ重要ナル勝利其レノ後人が最早受怖ノ奴隸アラヌ若クハ希望ノ  
病者テアラヌ所ノ重要ナル勝利ヲ得タリシ所ノ其等ノ幸福ヲ願ハセシ最早猶嫉  
ニ依ツテ衰弱シテアラヌ忿怒ニ依ツテ熱セラレテアラヌ慈愛ニ依ツテ氣落チサ  
レテアラヌ悲痛ニ依ツテ壓付セラレテアラヌ作伴太陽ガ靜穩ナル若クハ暴烈ナル  
空ヲ通ホシテ彼ノ進ミチ一線ニ續クル如ク生活ノ騒動若クハ靜穩ヲ通ホシテ穩  
和ニ歩ミ進ム。

彼ハ苦痛或ハ快樂ニ依ツテ動カスベカラザル勇者其人ハ其等ノ方則若クハ偶事  
其ニマテ俗人が善及ビ惡ノ名稱ヲ與フル所ノ其等ノ方則若クハ偶事ノ上ニ不變  
ヲ以テ眺ムル所ノ勇者ノ多クノ例ヲ計ヘシ。彼ハ彼等ノ偏見ヲ放棄スベク而シテ  
傷ツケガタキ堪忍ニ於テ惡逆或ハ不幸ノ矢ニ對シテ彼等自身ヲ毀フベク彼ノ隨  
者ヲ戒メシ。此有様ガ唯幸福アリシ事及ビ此幸福ガ各ノ人ノ力ニ於テアリシ事  
ヲ決スル所ヲ。

刺世拉斯ハ卓越ナル活物ノ教訓ニマテ貴ブベキ勳ヲ以テ彼ニマテ傾聽セシ而シ  
テ戸ニ於テ彼ニ向ツテ待ツ所ヲ眞實ナル才智ノ左様ニ偉大ナル先生ヲ訪問スレ  
テ自由ヲ昇進シテ懇願セシ。講師ガ一分間躊躇セシ其時刺世拉斯ハ彼ノ手ニマ  
テ資金ノ財寶ヲ置キシ其ハ彼ガ歡喜及ビ驚異ノ混交ヲ以テ受領セシ所ノ(資金ノ  
財寶云々)。

イムラツクニマテ彼ノ歸ニ於テ皇子ガ云ヒシ「子ハ人其者ハ知ラルベク必要デア  
ル所ノ總テヲ教ヘ能フ所ノ其者ハ合理ノ勢力ノ握持セザル椅子カラ彼ノ下ニ變  
メル所ノ生活ノ光景ヲ瞰下スル所ノ人ヲ發見シタ。彼ガ脫話ス而シテ注意ガ彼ノ  
唇ヲ看守スル彼ガ理論ス而シテ信用ガ彼ノ段落點ヲ結了ス。此人ガ子ノ未來ノ綱  
導テアルデアラウ子ハ彼ノ教訓ヲ學ブデアラウ而シテ彼ノ生活ヲ模擬スルデア  
ラウ」ト

イムラツク日ク「作併道德ノ教師ヲ信ズベク若クハ賞賤スベク餘リ急グナ、彼等ハ  
天使ノ如ク談論ス而カモ彼等ハ人ノ如ク生活スル」ト

刺世拉斯其人ハ如何ニ或人が彼自身ノ證據ノ力ヲ感ズル「ナシニ左様ニ力強ク  
理論シ能ヒシカナ考ヘ能ハザリシ所ノ刺世拉斯ハ僅ノ日ニ於テ彼ノ訪問ヲ拂ヒ  
シ而シテ許容ヲ拒マレテアリシ。彼ハ今貨幣ノ力ヲ學ンダリシ而シテ資金ノ片ニ  
依ツテ内部ノ室ニマテ彼ノ道ヲ造リシ其處ニ彼ハ憂リタル彼ノ眼及ビ蒼白キ彼  
ノ顔ヲ以テ半ハ暗クシタル室ニ於テ哲學者ヲ見出セシ。彼ハ云ヒシ君ヨ汝ハ總テ  
人間ノ友誼ガ不用デアアル時ノ時期ニ於テ來ツテアル子ガ惱ム所ノモノガ醫治  
サレ能ハヌ子ガ失ヌタ所ノモノガ供給サレ能ハヌ。子ノ娘子ノ唯一ノ娘其者ノ慈  
愛カラ子ノ老年ノ愉快ノ總テヲ豫期セシ所ノ子ノ唯一ノ娘ガ昨夜熱病ニ付テ死  
セシ子ノ見解子ノ目的子ノ希望ガ終焉ニ於テアル子ハ今社交カラ解カレタル寂



皇子ハ云ヒシ「若ヨ死去ハ出來事其ニ依テ才智ナル人が決シテ愕カサレテアリ能ハヌ所ノ出來事アル子張ハ死ガ常ニ近クアル事ヲ知ル而シテ其故ニ其ガ常ニ豫期セラレテアルテアラハ(事ヲ知ル)ト」

哲學者ガ答ヘシ「若キ人ヨ汝ハ決シテ離別ノ苦痛ヲ感シナシトダ所ノ人ノ如ク語ス」ト

刺世拉斯ハ云ヒシ「汝ハ然ル時ニ汝ガ左様ニ有カニカツケタ所ノ先例ヲ忘却シタカ。才智ガ苦痛ニ對シテ心ヲ鍛フベク一ツノ力ヲ持タヌカ。皮想ノ毒ハ自然ニ變ズベクアル乍併眞實ト而シテ理ハ常ニ同様テアル事ヲ考察セヨ」ト。悲哀者ガ云ヒシ「眞實ト而シテ道理カ如何ナル愉快ナ子ニ與ヘ能フカ子ノ娘ガ回復サレテアラヌテメテアラウ事ヲ子ニ告グルベキ外如何ナル結果ニ付テ今彼等ガアルカ」ト。皇子其人ノ人情ガ非難ヲ以テ不幸ヲ賜シムベク彼ヲ慰エサセメテアラウ所ノ皇子ハ修辭上ノ音響ノ空成而シテ離カレタル段落照ノ及ビ學マレタル文章ノ無効ニ就テ自信シテ彼方ニ行キシ。

其拾八 皇子賢哲ニ值遇ス

一日皇子出テ、街路ヲ散步スルニ方リ廣濶ナル建築物ノ門戸ヲ開放シ公衆ノ入場ヲ許セルアルヲ見。輒チ群衆ニ從ヒテ之ニ入り一見惟ラク是學師其聽衆ノ爲ニ釋義ヲ演ズル講談樂

タラズンハ其發合タリト。既ニシテ場内設置ノ高壇ニ登リ情慾ノ管理ト稱スル論題ヲ掲ゲ非常ノ熱心ヲ以テ演述セル學士ニ眼ヲ注グニ。容貌尊嚴動作優美發言明亮語法華麗實ニ天晴ナル人物ナリ。學士ハ演ズラク「凡ソ人類ノ性質ハ愚者上ニ在ツテ賢者ヲ管治スレハ漸ク卑野ニ陥イルモノニシテ、情慾ノ父母タル妄想心頭ニ跋扈スルニ方リテハ恰モ無道ナル政治ノ自然ノ結果ノ如ク紛擾錯雜ノ外一物ヲモ生ゼザルナリ、蓋シ妄想ハ叛逆人ニ智力ノ城砦ヲ與ヘ且其餘派ヲ勵マシテ理想ノ正當君主ニ敵抗セシムルニ至ル」ト雄辯滔々説キ去リ説キ來ツテ大ニ聽衆ノ感情ヲ喚起シ且種々ノ説明ヲ以テ之ヲ證示セリ。尙學師ハ理想ヲ以テ其光輝不斷不變ナル太陽ニ比シ、妄想ヲ以テ其光輝燦煥タレドモ暫時ニ滅シ運行不整ニシテ方向不定ナル流星ニ比シタリ。

凡ソ人類ノ性質ノ愚者上ニ在ツテ賢者ヲ管治スルニ云々則チ所謂愚者トハ劣等ノ智能ヲ云ヒ賢者トハ優等ノ智能ヲ指スモノニシテ劣等智能ノ優等智能ヲ制御スル時ハ人性漸ク疎腐ニ歸スルヲ云ヘルナリ。

學師又情慾抑制ニ關スル古今幾種ノ先例ヲ演示シ且曰ク「能ク之ヲ制止シ得テ既ニ恐怖ノ奴隸若クハ希望ノ痴漢タル境遇ヲ脱シタル人ハ尙來常ニ無上ノ幸福ヲ享受スルモノニシテ則チ嫉妬ノ爲ニ疲レズ瞋恚ノ爲ニ熱セラレズ慈愛ニ依ツテ氣力衰ヘズ哀悼ニ依ツテ神心鬱塞セズ恰モ夫ノ太陽ガ晴雨暴和ニ拘ハラズシテ其運行ヲ進ムルト一般騷擾ニ驚カズ靜謐ニ泥マズ常ニ平然トシテ世路ヲ進歩スベキナリ」ト。



渠ハ又苦樂ノ爲ニ其心ヲ動カサトル勇者ハ俗人ノ或ハ吉ト稱シ或ハ凶ト號スル自然若クハ偶然ニ生シタル結果ヲ彼此同一視スルモノタル幾多ノ證例ヲ擧ゲ。其聽衆ヲ戒メテ曰ク「速ニ偏見謬妄ヲ棄テ犯スベカラザル耐忍ヲ以テ惡逆若クハ不幸ノ矢ヲ避クベシ然ラハ則チ絶類ノ幸福ニシテ其幸福ヤ則是何人ト雖モ自ラ索メテ得ベキモノナリ」ト論ヲ來ツテ斯ク斷定シ畢レリ。

皇子謹慎學師カ辨論ノ頗末ヲ傍聽シ則テ門前ニ立ツテ學師ノ退去ヲ待チ身ヲ謙リ辭チ身ヲシテ以テ懇懇ニ其家ヲ訪問スルノ許容ヲ請ヘリ。然ルニ學師ハ一時躊躇シテ容易ニ之ニ應ヘザリシニ皇子黃金一包ヲ呈シテ尙懇請スルニ及ビ驚キ且喜ビテ之ヲ許諾セリ。

斯クテ皇子ハ其旅寓ニ歸リイムラツクニ告ゲテ曰ク「予ハ今日人世須ラク知ルベキノ百般ノ要件ヲ辨ヘ合理不動ノ慧眼ヲ開イテ世上ノ變遷ヲ瞰視セル賢哲ニ值遇セリ。渠ノ口ヲ開キテ説ク所アレハハ其心ヲ委テテ之ヲ聽キ渠ノ理ヲ推シテ論ズレハ向々倍々信ヲ加フ。予ハ此賢哲ヲ以テ予カ將來ノ嚮導トナシ以テ其教訓ヲ學ビ其處世ノ法ニ則ルベキナリ」ト

イムラツク曰ク「貴言或ハ然ラム然レドモ請フ輕忽道德ノ教訓ヲ信任シ且賞讃スレ勿レ蓋シ其所談ヤ天使ノ如ク其生活ヤ凡人ノ如キモノ多カルヲ以テナリ」ト

然ルニ皇子ハ惟ヘラク誰カ自己ノ感得ノ力ニ依ラズシテ能ク彼ノ如ク論談愷切ナルヲ得ムヤト爾後數日ヲ經テ夫ノ學師ヲ訪問セシガ一旦面會ヲ拒絕セラレタリ。然レドモ皇子ハ既ニ貨幣ノ效能ヲ知レルヲ以テ愛ニ之ヲ利用シテ輒チ室内ニ入ルヲ得爾シテ學師ニ面ス當

時學師ハ日光ヲ遮ギツテ稍々暗黒ニナシタル室内ニアリシガ其眼ハ涙ヲ帶ビ其面色ハ青褪シタリキ。學師先ツ曰ク「足下ハ予ガ今人間ノ友誼總テ不用ナリトシタルノ時ニ來訪セリ予ノ惱慮ハ到底之ヲ治スルコト能ハズ予ノ失却セルモノハ竟ニ之ヲ回復スルコト能ハズ蓋シ予ハ予カ老後ノ單一ノ快樂ト豫期シタル最愛ノ女ヲ失ヘリ嗚呼予ガ獨子ナル愛女ハ昨夜熱ヲ疾ムテ逝キヌ予ノ見解予ノ目的予ノ希望ハ今頓ニ終焉ヲ告ク於此乎予ハ社會ニ棄テラレタル單獨寂寥ノ身タルナリ」ト

皇子之ヲ聞イテ則チ曰ク「死ハ是決シテ智者ノ驚カザル所ニシテ活物ノ免ルベカラザル常數タリ予ハ常ニ死ノ逼マレルヲ知ル從ツテ常ニ之ヲ期セザルヲ得ザルヲ解セリ」ト

學師答ヘテ曰ク「青年足下ニ、足下ハ決シテ哀別離苦ヲ感セザルモノ、如キ言ヲナス」ト  
皇子曰ク「然ラハ足下ハ曩ニ公然主張シタル夫ノ情慾制止ノ先例ヲ忘レタルモノ歟。才智毫モ惱苦ヲ退クルノ力ナキ歟。外面ノ扮裝ハ自ラ變ズベシト雖モ眞實ト理想トハ始終一徹ナルヲ考察セヨ」ト。哀悼者則チ學師ハ曰ク「抑モ眞實ト理想ト今如何ナル愉快ヲ予ニ得セシムベキ歟蓋シ予ノ愛女到底還ルベキニアラザルヲ知ラシムルノ外毫モ其結果トシテ生ズル所アラザルナリ請フ若シアラハ之ヲ示セ」ト

皇子素ト人情ニ厚カルヲ以テ深ク其不幸ヲ愁傷セル學師ノ所談ヲ難詰スルニ忍ビズトシ其言辭ノ流麗モ句調ノ精練モ皆空虛無効ナルヲ悟ツテノミ辭シ去リヌ。

### 第十九章

牧畜者ノ生活ノ概見



彼ハ同シ吟味ノ上ニ尙熱心デアリシ而シテナイルノ最低キ飛瀑ノ近傍ニ住シ  
シテ彼ノ清淨ノ名譽ヲ以テ全國ヲ滿タセシ所ノ隱者ニ就テ聞イタ所テ彼ノ退隱  
所ヲ訪問シ而シテ公ケノ生活ガ與ヘ能ハザリシ所ノ其體散チ獨居ニ於テ見出サ  
レテアルベクアリシカ孰レカヲ質問スベク決定セシ。而シテ人其人ノ齡ト而シテ  
徳ガ實ムベク彼ヲナセシ所ノ人ガ害惡ヲ避クルト或ハ彼等ヲ堪ユルトノ或格段  
ナル術ヲ教ヘ能フル孰レカヲ(質問スベク決定セシ)。

イムラツク及ビ皇女ハ彼ニ伴フベク一致セシ。而シテ必要ナル準備ノ後チ彼等ガ  
彼等ノ旅行ヲ始メシ。彼等ノ道ハ牧羊者ガ彼等ノ羊群ヲ伴ヒシ而シテ、  
ノ上ニ賦レツトアリシ所ノ野ヲ通ホシテ横ハル。詩人が云ヒシ「此ハ其レノ無智及  
ヒ靜穩ニ向ツテ屢々著名ニセラレタリシ所ノ生活アル予輩ヲシテ牧羊者ノ天  
羅ノ間ニ置ノ熱チ通過セシメヨ」而シテ總テ予輩ノ探索ガ牧畜者ノ質朴ニ於テ結  
了スベクアラヌカ孰レカヲ知ラシメヨト

云出シガ彼等ヲ樂マセシ而シテ彼等ハ彼等自身ノ有様ニ付テ彼等ノ意見ヲ語ル  
ベク僅少ノ贈物及ビ親シキ疑問ニ依ツテ牧羊者ヲ導キシ。彼等ハ甚僅力彼等カラ  
學ハレテアリ能ヒシトホド左様ニ粗野デ而シテ無智ヲ職業ノ害ヲ以テ善ニ比較  
スベク左様ニ備ガ適當テ而シテ彼等ノ物語及ビ説明ニ於テ左様ニ不判然デアリ  
シ、乍併彼等ノ心ガ不満足ヲ以テ腐敗シテアリシト及ビ彼等ノ富者ノ奢侈ニ  
向ツ

テ勞働スベク處刑サレメル如ク彼等自身ヲ考ヘシ而シテ彼等ノ上ニ置レテアリ  
シ所ノ其等ノ方ニ劍キ怨恨ヲ以テ腕上ケシ事ノ其ガ明白デアリシ。  
皇女ハ彼女ガ決シテ此等ノ猜嫉ナル野蠻人ヲ彼女ノ仲間アルベク堪エヌデア  
ラシ事及ビ彼女ハ田舎ノ幸福ニ就テ或尙多クノ種類ヲ見ルニ就テ最早願ハシ  
クアラヌデアラウ事ヲ性急ナリテ發言セシ乍併太古ノ快樂ノ總テノ物語ガ造話  
デアリシ事ヲ信シ能ハザリシ而シテ生活ガ財及ビ森ノ聲和ナル満足ニマテ正シ  
ク撰ハレテアリ能ヒシ所ノ或物ヲ持チシカ孰レカヲ尙疑ヒニ於テアリシ。彼ハ僅  
ナル有徳ノ而シテ奇麗ノ伴侶ト共ニ彼女ガ彼女自身ノ手ニ依ツテ植エラレタル  
花ヲ採メ彼女自身ノ牝羊ノ種羊ヲ愛護シ而シテ小川及ビ微風ノ間ニ蔭ニ於テ讀  
ム所ノ彼女ノ成女ノ一人ニマテ注意ナシニ耳傾クルデアラウ時ノ時節ガ來ルデ  
アラウ事ヲ希望セシ。

其拾九

皇子等隱君子ヲ訪フノ途ニ牧畜者ノ状態ヲ探ル

皇子尙ホ處世法探究ニ熱心從事セシガ當時其廉潔ノ名聲全國ニ噴々タル隱君子ナイル下流  
ノ飛瀑ノ近傍ニ閑居セルヲ聞キ便チ之ヲ訪問シテ公然タル生活上得ル能ハザル快樂ヲ閑居  
ノ間ニ發見スベキヤ否ヤヲ問ヒ且年齒道德共ニ高ク爲ニ超然世ニ卓出スルノ尊貴ヲ得タル  
君子ハ果シテ害惡ヲ避ク若クハ之ニ耐ユルノ術ヲ有スルヤ否ヤヲ質サムト決シ。旨チ皇女  
及ビイムラツクニ語りケルニ兩人モ亦其訪問ニ伴ハムコトヲ約ス於此乎之ニ必要ナル準備



ヲ整ヘ則チ旅行ノ途ニ上ル。中途牧野アリ牧羊者群羊ヲ監視シ稱羊處々ニ戯レ遊ブ。詩人  
 イムラツク之ヲ見テ曰ク「今見ル此牧羊ノ業ハ智識曠ク且ツ平穩無事ナルヲ以テ屢々著ハ  
 ル。予輩相伴フテ牧羊者ノ襟裡ニ入り日中ノ暑ヲ避クルト同時ニ予輩ノ探究若シ彼輩ノ質  
 朴中ニ存スル所アツテ爲ニ其終了ヲ見ルニアラムヤ否ヤヲ查サムニハ」ト  
 言ヤ頗ル皇子等ノ意ニ適合シ輒チ些少ノ贈與ヲ行フテ以テ牧羊者ノ承諾ヲ得、種々ノ問題  
 ナ設ケテ其境遇ニ關スル意見ヲ舒ベシメケルガ。彼輩實ニ粗野無識ニシテ職業ノ利害スラ  
 尙且之ヲ比較シ得ズ談話解説共ニ不明ナルヲ以テ就テ予輩ノ得ル所幾ンド絶無ナリシカド  
 モ而カモ其心不滿ヲ以テ腐敗シ身ハ富者ノ驕奢ノ爲ニ勞苦ニ從ハザルヲ得ザルカ如ク考ヘ  
 漫ニ上流社會ヲ怨恨スルノ情狀ハ明ニ其談中ニ顯ハレタリ。

其時皇女頗ル堪エ難キ風趣ヲ以テ曰ク「妾ハ決シテ斯ル猜嫉ノ念慮深キ蠢愚蒙昧ナル賊輩  
 ト伍スルニ忍ビズ且更ニ田舎ノ幸福ヲ探見スルヲ希ハザルナリ」ト然レドモ太古快樂ノ談  
 ハ都テ唐荒無稽ノ小話ニ属スルトハ信ズル能ハズ尙ホ人生果シテ山野ノ幽雅ナル娛樂ヲ無  
 上ノ快事トスルモノアリヤ否ヤヲ疑ヒ而カモ心裡傍ニ淑德優美ナル二三ノ友侶ト共ニ手ツ  
 カヲ栽培セル花ヲ摘ミ自カラ飼養セル稱羊ヲ愛撫シ微風徐ロニ芳蕙ヲ送レル溪流ノ岸ニ坐  
 シテ愛女ノ謠誦ヲ靜聽スルノ時來ラムコトヲ希ヘリ。

### 第二十章

#### 富榮ノ危難

翌日ニ於テ彼等ハ熱ガ隠レ場ニ向ツテ見回ハスバク彼等ヲ余義ナクセレマテ彼

等ノ旅行ヲ續ケシ儘ノ隔タリニ於テ彼等ハ彼等ガ入込ミシヤ否ヤ彼等ハ人ノ住  
 家ニ近寄リツ、アリシヲチ彼等ガ氣付ケシ所ノ繁リタル森ヲ見シ。灌木ガ蔭ガ最  
 モ暗クアリシ所ニ道路ヲ開クベク出精シテ伐リ去ラレテアリシ反對ノ樹ノ條ガ  
 人工ニ織ラレテアリシ花ノ斜草土ノ坐ガ空虚ナル場所ニ於テ起サレテアリシ而  
 シテ曲ガリタル路ノ傍ニ沿フテ戯レシ所ノ小流ガ時トシテハ小サキ「ベズン」ニマ  
 ア開キタル其ノ岸ヲ持チシ而シテ其レノ流ガ時トシテハ其レノ喃々チ増スベク  
 一縷ニ積マレタル石ノ小サキ堆積ニ依ツテ障得サレテアリシ。

彼等ハ森ヲ通ホシテ徐々ニ通過セシ其等ノ粗野ナル而シテ往來稀レナル地方ニ  
 於テ斯様ナル無智ナル奢侈ニ向ツテ閑暇及ビ技術ヲ持チシ事ホド斯様ナル豫期  
 セザル一致ヲ以テ樂ミシ而シテ彼ハ何テ或ハ誰デアリ能ヒシカヲ疑フヲ以テ  
 相互ヲ揆應セシ。

彼等ガ進ミシキニ彼等ハ音樂ノ響ヲ聞キシ而シテ森ニ於テ踊ル所ノ少年ト而シ  
 テ少女トヲ見シ而シテ尙ヨリ遙カ行ク所ヲ森ヲ以テ圍繞サレタル小山ノ上ニ建  
 テラレタル殿メシキ宮殿ヲ眺メシ。東洋ノ賓客款待ノ法ガ入込ムベク彼等ヲ許セ  
 シ而シテ主人ガ寛大且富有ナル人ノ如ク彼等ヲ好迎セシ。

彼ハ彼等ガ一ツノ普通ノ賓客デアラザリシ事ヲ直チニ考フルベク容貌ニ於テ充  
 分熟練デアリシ而シテ壯麗ヲ以テ彼ノ食卓ヲ廣ゲシ。イムラツクノ能辨ガ彼ノ注



意ヲ捕ヘシ而シテ皇女ノ高キ感服ガ彼ノ尊敬ヲ勸マセシ。彼等ガ出發スベク與ヘシ時ニ彼ハ彼等ノ逗留ヲ扱ヒシ而シテ翌日前ヨリハ彼等ヲ出遣ルベク尙ヨリ多ク嫌ヒツ、アリシ。彼等ハ容易ニ留ルベク口説カレテアリシ而シテ容儀正シキトガ自由及ビ信任ニマテ時ニ於テ生長セシ。

皇子ハ今爽快ナル家内ノ總テ及ヒ場所ノ回リニ微笑スル所ノ天然ノ顔ノ總テヲ見シ而シテ彼ハ彼ガ素メツ、アリシ所ノモノナ此處ニ見出ステアラウヲ望ムベク禁シ能ハザリシ、乍併彼ハ彼ノ所有ノ上ニ主人ヲ祝シツ、アリシ時ニ彼ハ長大息ヲ以テ答ヘシ「子ノ境遇ガ實ニ幸福ノ容貌ヲ持ツ乍併容貌ハ欣キテアル。子ノ富榮ガ危難ニ於テ子ノ生命ヲ置ク埃及ノ大宰相ハ子ノ富有及ヒ名望ニ依ツテ、怒ラサレタル子ノ敵テアル。子ハ爾來地方ノ侯伯ニ依ツテ彼ニ對シテ保護セラレタ乍併豪者ノ親愛カ不能テアルトシテ子ハ如何ニ逃ニ子ノ拒守者ガ大宰相ト掠奪ヲ分配スベク口説レテアリ得ルカヲ知ラヌ子ハ隔タリタル地方ニマテ子ノ財敵ガ子ノ住家ニ於テ遊宴シ且ツ子ガ植付シタ所ノ花園ヲ樂ムデアラウ」ト

彼等ガ總テ彼ノ危難ヲ悲痛スル「ニ於テ結合セシ而シテ彼ノ逃走ヲ祈念スル「ニ於テ結合セシ」而シテ皇女ハ彼女ガ彼女ノ室ニマテ退キシ事ホト左様ニ多ク悲痛及ビ憤懣ノ騒動ヲ以テ煩惱サレテアリシ。

彼等ハ尙長ク數日、彼等ノ親切ナル誘ヒ人ト共ニ續キシ而シテ然ルルニ隱者ヲ見出スベク前方ニ行キシ。

其貳拾

途上又豪家ヲ過ツテ皇子等富者ノ危難ヲ聞ク

其翌日皇子等ハ暑熱堪ニ難キニ至ルマテ行步ヲ進メ此ニ於テ暫時之ヲ避クベキ涼蔭ヲ得ムトシ忽チ近邊ニ茂林ノアルヲ見ル輒チ進ムデ之ニ入ルニ漸クニシテ人家ニ近ツケルモノ、如シ。樹葉鬱蒼トシテ日光ヲ遮ギレルアタリ灌木ヲ伐採シテ通路ヲ開キ其兩側ニ相對シテ生長セル樹木ノ枝條ヲ結合シ空地ニ花卉ノ苗床ヲ造リ又曲廻セル小徑ニ沿フテ細流ノ跳レルアリテ其岸ヲ所々ニ分岐シ以テ中間ニ洲ヲ擁セシメ或ハ流底ニ石ヲ積ムテ水聲ノ更ニ響々ナルヲ聞カシムル等。此僻陬寂寥ナル地ニ意外ノ風趣ヲ具備セル經營アルヲ見テ皇子等互ニ深ク之ヲ賞翫シ抑モ何人ノ住居ニシテ其人何等ノ事業ニ從ヘルモノナルヤヲ訝リツ、徐々トシテ歩ヲ進ムルニ。則テ劉亮タル音樂ノ聲ヲ聞キ林間ニ舞蹈セル少年ト少女ヲ見ル更ニ歩ヲ進メテ深ク入ルニ綠林周繞セル丘頭巍峨トシテ宮殿ノ峙ツテ認ム。既ニ殿前ニ進ツケハ東洋待賓ノ法ニ從ツテ入殿ヲ許容サル主人出テ、迎フ其處置頗ル敬意ヲ示セリ。

實ニ主人ハ一見シテ皇子等ノ常人ニアラザルヲ知り美饌ヲ備ヘテ宴ヲ開ク。席上イムラツクノ談ズル所其辨舌ノ清爽ナルヲ以テ大ニ主人ノ注意ヲ惹キ且皇女ノ禮儀懇懇ナルハ愈々其尊重ヲ深カラシム。既ニシテ皇子等別ヲ告ケテ去ラムトスルニ當リ主人敬慕ノ念轉々措ク能ハズシテ切ニ一夜ノ滯留ヲ望ミ翌旦ニ至ツテ倍々別ヲ惜ムコト深ク強チニ停メテ止マ



ザルヨリ皇子等輒チ其意ニ從ヒ漸ク滞在ノ日ヲ重キテ懇親ノ情亦漸ク加ハリ其始メ容儀端正ナリシモノ茲ニ胸襟ヲ弛ベテ語ルニ及ベリ。

今ヤ皇子ハ家事悉ク爽快ニシテ且周邊ノ地皆優雅ナルヲ見其曾テ搜索シツ、アリシモノヲ此ニ發見セムトスルノ欲望禁ズル能ハザリシガ其富有ヲ稱ヘテ主人ヲ祝スル時ニ方リ主人徐ロニ歎シテ曰ク「予ノ境遇ハ實ニ幸福ノ容貌ヲ示スト雖モ而カモ是假面而已蓋シ予ノ富榮ハ予ノ生命ヲシテ難中ニ在ラシムルモノニシテ則チ埃及ノ大宰相ハ予ノ富有ト名望ヲ猜ムカ故ニ予ノ敵ナリ。之ニ由ツテ予ハ地方侯伯ノ擁護ヲ蒙リ爲ニ僅ニ安穩ナルヲ得ト雖モ是未ダ以テ深ク恃ムニ足ラズ今日予ノ防守者タルモノ明日變ジテ大宰相ト與ミシ掠奪ノ配當ニ其腹ヲ肥ヤサムトスルニ至ルヤ識ルベカラサルナリ。是ヲ以テ予ハ既ニ予ノ財寶ヲ遠地ニ輸送シ之ヲ藏秘シテ不慮ニ備ヘツ而シテ一朝事變ニ接セバ直クニ此地ヲ去ツテ財寶所藏ノ地ニ走ラムトス準備常ニ整頓セリ吁々不幸ノ運命循環シテ所謂奔逃ノ日ニ際セバ仇敵予ガ住宅ニ入ツテ宴樂ヲ張リ予ノ栽培ニ成レル花園ニ遊戯スベクムト歎息頻リニ溢レテ底止スル所ナシ。皇子等之ヲ聞イテ共ニ其危難ナルヲ悲歎シ且其魔事ナカラムコトヲ祈願ス就中皇女ノ如キハ主人ノ所謂大宰相ノ暴狀良民ヲ惱マシムルコト斯クノ如ク酷シキヲ悲憤スルノ餘リ遂ニ其坐ニ耐エズシテ他房ニ退出スルニ至レリ。爾後尙ホ數日皇子等此家ニ滞留シタリシガ於此手辭シテ復々隱君子訪問ノ途ニ進メリ。

第二十一章

獨居ノ幸福隱者ノ履歷

彼等ハ農夫ノ指揮ニ依ツテ隱者ノ洞窟ニマテ第三日ニ於テ來リシ其ガ椰子樹ヲ以テ庇蔭サレタル山ノ側ニ於ケル洞テアリシ。熟慮ナル考案ニマテ心ヲ組成セシ如キ斯様ナル靜如タル一般ノ眩々特別ニ其ガ枝ニ間ニ鳴ル所ノ風ニ依ツテ助ケラレテアリシ時ニ(一般ノ眩々)ヨリハ尙多キ何モガ聞カレテアラザリシ事ホド斯様ナル飛鳥カラ懸隔ニ於テ。天然ノ最初ノ粗キ試ミガ洞ガ異種ノ用井ニマテ適當ニセラレタル種々ノ室ヲ保有セシ而シテ屢々旅人其人ヲ暗黒或ハ強風ガ屈伏セシ所ノ旅人ニマテ旅舎ヲ與ヘシ事ホド左様ニ多ク人間ノ勞役ニ依ツテ發達セラレテアツタリシ。

隱者ガ日晡ノ涼爽ヲ樂ムベク戸ニ於テ床几ニ於テ坐セシ。一ツノ傍ニ於テ筆及紙他ニ於テ種々ノ種類ノ器械的ノ器械ガ横ハル。彼等ガ彼ニ近寄りシ時ニ注意セザリシ、皇女ハ彼ガ幸福ニマテノ道ヲ發見シタリシ若クハ敬ヘ能ヒシ所ノ人ノ容貌ヲ注目セシ。

彼等ハ彼ガ禮義ノ形造リニマテ不慣レテナキ人ノ如ク拂戾セシ所ノ大ナル尊敬ヲ以テ禮セシ。彼ハ云ヒシ「若シモ汝等ハ汝等ノ道ヲ失フタナラバ汝等ハ此洞ガ與フルテアラウ如キ斯様ナル夜ニ向ツテノ便宜ヲ以テ好ムテ供給サレテアルデアラウ予ノ小供等ヨリ予ハ天然ガ要求スル所ノ總テ持ツ而シテ汝等ガ隱者ノ洞窟ニ於テ美味ヲ豫期セメテアラウト



彼等が彼ニ剛セシテ入込ム所テ場所ノ清潔ト而シテ整理ヲ以テ樂マサレテアリシ隱者ハ縱令彼が果實ト而シテ水ニ於テノミ養ヒシト云ヘ彼等ノ前ニ肉ト而シテ酒ヲ置キシ。彼ノ談話ガ輕卒ナシニ而シテ神信心ガ熱中ナシニ愉快デアリシ彼が速ニ彼ノ客ノ尊敬ヲ得シ而シテ皇女ハ彼女ノ性急ナル非難ニ就テ悔悟セシ。

遂ニイムラツク斯様ニ始メシ。子ハ汝ノ名譽ガ左様ニ逸カ成ガツテアル事ヲ今異シミナサヌ。子輩ハ汝ノ才智ニ付テ槽器ニ於テ開イテ而シテ生活ノ撰擇ニ於テ此若キ人及ビ處女トニ向ツテ汝ノ指揮ヲ願フベク此處ニ來リシト

隱者が答ヘシ能ク住ム所ノ彼ニマテ生活ノ各ノ形造リガ善クアル又ハ子ガ總テノ明々地ナル智恵カラ移スベキヨリハ撰擇ニ向ツテ或他ノ規則ヲ與ヘ能ハヌト

皇子ガ云ヒシ汝ガ汝ノ例ニ依ツテ推舉シタ所ノ其獨居ニマテ彼自身ヲ歸スルデアラウ所ノ彼が智恵カラ最多ク確ニ移ステアラウト

隱者が云ヒシ子ハ實ニ獨居ニ於テ十五年住ムダ乍併子ノ例ガ一ツノ撰倣者ヲ得ルデアラウト一ツノ願ヲ持タヌ子ノ少時ニ於テ子ハ武器ニ從事セシ而シテ漸次最高キ武ノ位階ニマテ起サレテアリシ。子ハ子ノ軍勢ノ頭ニ於テ成キ國々ヲ一行シタ而シテ多クノ戰闘及ビ攻圍ヲ見タ遂ニ尙若キ武官ノ昇進ニ依ツテ胸怒クセラレテアル所ア而シテ子ノ勇氣ガ衰フルベク始メツ。アリシ事ヲ感ズル所ア

子ハ絲蹄ニ付テ滿チタル世界ヲ見出シタ所テ平和ニ於テ子ノ生活ヲ終ルベク決定セシ。子ハ曾テ此洞ノ隱レ場ニ依ツテ敵ノ追躡カラ逃レシテ其故ニ子ノ最終ノ住居ニ向ツテ其ヲ擇ビシ。子ハ室ニマテ其ヲ形造ルベク工匠ヲ使用セシ而シテ子が要望スベク實ラシクアリシ所ノ總テヲ以テ其ニ時ヘシ。

子ノ退隱ノ後或時ノ間子ハ静寂及ビ休息ニマテ暇爭ノ騷擾ト而シテ混雜ノ突然ナル變化ヲ以テ樂マサレテアル所テ港ニマテ彼ノ入込ニ於テ強風ニ打タレタル水夫ソ如ク樂ミシ。新奇ノ快樂ガ彼方ニ行キシ時ニ子ハ溪ニ於テ生セシ所ノ植物及ヒ子が岩ノ間ニ蒐集セシ所ノ礦物ヲ吟味スル事ニ於テ子ノ時間ヲ使用セシ。乍併其吟味ガ今無味テ而シテ因却ニナリテアル。子ハ或時ノ間決定セズニ而シテ擾ダサレテアツタ子ノ心ガ時々子ノ上ニ支配セシ所ノ疑ヒノ一千ノ混雜及ビ想像ノ無益ヲ以テ擾雜サレテアル奈ントナラハ子ハ休息スルト若クハ驅散スルト一ツノ機會ヲ持タヌ故ニ。子ハ時トシテハ子ガ徳ノ演習カラ退隱スルトニ依ツテノ外皆惡カラ子自身ヲ保安シ能ハザリシ事ヲ考フルベク耻チテアル而シテ子ハ獨居ニマテ歸スルトニ依ツテ導キシヨリハ聲口懷怨ニ依ツテ勵マサレテアリシトナ疑フベク始メシ。

子ノ想像ガ無智ノ光景ニ於テ睡ケ而シテ子ハ子が左様ニ多ク失フダ而シテ左様ニ僅カ得ヌ事ヲ悲痛スル。獨居ニ於テ若シモ子が惡シキ人ノ例ヲ免ル。ナラハ子



ハ又善ノ評議及ヒ會話ヲ要望スル。予ハ長ク社會ノ利益ト害惡ヲ比較シツ、アツ  
タ而シテ明日世界ニマテ遊ルベク決定スル。寂寥ナル人ノ生活ハ疑ト難澁テアル  
テアラウヤ作伴駈ト神信心ヲナク」ト

彼等ハ驚異ヲ以テ彼ノ決定ヲ聞キシ乍併暫時ノ停語ノ後楷露ニマテ彼ヲ行フベ  
ク云出セシ。彼ハ彼ガ岩ノ間ニ隱シヌリシ所ノ著シキ財寶ヲ掘上ルシ而シテ市府  
其ノ上ニ彼ガ近寄りシ時ニ彼ガ恍惚ヲ以テ凝眸セシ所ノ市府ニマテ彼等ヲ伴ヒ  
シ

其貳拾壹 閑居ノ幸福茲ニ隱君子ノ履歷

皇子等一行ハ農夫ノ嚮導ニ依ツテ三日ヲ經テ隱君子ノ幽棲ニ到ル是レ山腹ノ洞窟ニシテ椰  
樹叢生四遊ヲ蔽ヒ。夫ノナイル下流ノ瀑布ヲ距ルコト遠クシテ其奔下ノ水音紛ニ傳ハルノ  
反響樹葉ヲ鳴ラセル風聲ト和スルノ外毫モ耳朶ヲ襲ヘルモノナク頗ル熟慮ニ適セルノ地位  
タリ。而シテ其洞窟ハ素ト天工ニ係ルモノ之ニ人工ヲ施シテ種々ノ需用ニ適應スベキ數室  
ヲ經營シ旅人ニシテ黯黒ニ困シミ強風ニ惱メルモノアル毎ニ之ニ宿泊スルヲ得セシメタル  
コト數次ナリト云フ。皇子等一行ノ近ヅケル時隱君子ハ黃昏ノ涼爽ニ終日ノ苦熱ヲ忘レム  
トヤ戸前ニ出テ、榻ニ倚リ一方ニ筆紙ヲ置キ他方ニ種々ノ器具ヲ排ベタルガ。今皇子等ノ  
近ヅキ來レルヲ知ラザルモノ、如クナリキ其時皇女隱君子ノ容貌ヲ見テ惟ヘラク是幸福ヲ  
享受スベキ方法ヲ發見シ若クハ之ヲ人ニ教フルニ足ルベキ非凡ノ人物トハ認メ難シト。

既ニシテ皇子等隱君子ノ面前ニ至リ交々敬禮ヲ施ス隱士亦禮法ニ熟シタル人ノ如ク鄭重ニ  
返禮ス而シテ曰ク「卿等若シ途ヲ失ヒテ此ニ至リシナラムニハ予ハ喜ンデ此洞窟ヲ以テ卿  
等ノ宿泊ニ充テ一夜ヲ明サシムベキナリ素ヨリ供膳ノ美味アルナシト雖モ予ノ貯蓄以テ飢  
渴ヲ滿タスニ足ル卿等亦斯ル山間ノ洞窟内美饌ノ準備アルベシトハ期セザルベクム」ト  
皇子等深ク其好意ヲ謝シ則チ洞内ニ入ル房中清潔整理大ニ意ヲ感ムルニ足レリ。今隱君子  
ハ酒肉ヲ供ヘテ新來ノ賓客ヲ饗ス而カモ自身ハ唯ダ果實ト水トヲ喫スルノミ。席上其談ズ  
ル所輕浮ニ失セズ熱情ニ流レズ愉快極リナキヲ以テ談話未ダ時ヲ移サトルニ夙ク賓客ノ敬  
意ヲ喚ブ於此乎皇女ハ曩ニ輕忽ニモ隱士ヲ身シミタルヲ悔悟セリ。

遂ニイムラックハ口ヲ開ク曰ク「予ハ足下ノ名聲汎ク天下ニ噴々タルヲ聞クコト日アリシガ  
今ニ至ツテ其然ル所以ヲ識了セリ。蓋シ予輩楷露ニ在ツテ足下ノ博識多才ナルヲ聞キ輒チ  
此年少ノ子女ノ爲ニ其處世法ノ擇取ニ關スル足下ノ教授ヲ請ハムトシテ此ニ來レルナリ」  
ト。隱士答フラク「好行善者天助以福、善ヲ以テ生活スルモノニアツテハ何等ノ方法ヲ取ル  
モ可ナリ予ハ明々地ノ害惡ヲ悉ク避忌スルノ外更ニ撰擇ノ方法ヲ示ス能ハサルナリ」ト。  
皇子曰ク「足下ノ例ニ倣ツテ身ヲ閑居ニ歸スル者蓋シ最モ能ク害惡ヲ避クルヲ得ベクム是  
足下身ヲ其境遇ニ投シテ之ヲ世ニ吹擧スル所ナラズヤ」ト

隱士曰ク「予ハ此閑居ニ星霜ヲ閱スルコト實ニ十五年ノ久シキニ及ベリト雖モ未ダ曾テ予  
ノ穢傲者ノ顯ハレムヲ願ヒタルコトアラザルナリ。因ニ予ノ既往ノ經歷ヲ貴聞ニ達セム則



チ少壯ノ時ニ當ツテ身ヲ軍事ニ委テ累進シテ高等ニ武官ニ昇リ。部下ヲ率ヒテ諸國ヲ横行シ戰鬪攻圍ニ從フコト幾數回ナルヲ知ラズ。然ルニ遂ニ年少武官ノ昇進シタルヲ見テ不快ヲ感シ且予ノ勇氣漸ク衰頹スルヲ覺エタルヨリ世ノ盤根錯節滿チタルヲ厭ヒテ餘命ヲ平和ノ間ニ送ラムト決シ。己前曾テ敵軍ノ追撃ニ遭ヒテ此洞窟ニ潛匿シ僅ニ身ヲ免レタルコトアリシヲ以テ則チ之ヲ予ノ最後ノ住居ト定メ技手ヲ雇イテ洞内ニ工作ヲ加ヘ斯ノ如クニ室ヲ營ミ余來必要アルベシト考ヘラレタル諸種ノ物品ヲ貯ヘタリ。

既ニシテ洞内ニ隱棲スルヤ予ハ干戈亂擧吶喊喧囂ノ境域ヲ出デ、一轉靜寂安息ノ閑地ニ退キタルヲ喜ブコト少時心裡恰モ海上疾風ニ困シメラレタル航海者ガ幸ヒニ死地ヲ出デ、港内ニ入りタル時ノ如キ感アリキ。然レドモ是畢竟事ノ珍ラシカリシ間ノミ、日ヲ重ヌニル及ムテ漸ク最初ノ娛樂痕跡ヲ斷チケリ於此乎予ハ溪谷ヲ跋涉シテ植物ヲ採シ岩石ノ間ヲ探ツテ礦屬ヲ蒐集シ以テ自ラ慰メタリシガ今ヤ是等ノ探採モ亦其趣味ヲ失ヘルハカリカ却ツテ煩勞ヲ感ズルニ至レリ。爾後暫時ハ心神擾亂鎮定スルコトナク毎時疑惑ノ紛々妄想ノ徒慮心頃ニ追去リ追來ツテ之ヲ鎮メ若クハ之ヲ散ラスノ機會ナシ。時ニ予ハ德義ヲ演行スベキ地ヨリ退出スルニアラズンハ過害ヲ避クルコト能ハザルヲ考ヘ且ツ耻チ又予ノ退隱ノ事タル是自然ニ此ニ至ルベキヲ導レタルニアラズシテ寧ロ怨恨ニ勵マサレタルヨリ然ルモノナルヲ疑ヒ始メ。妄想愚癡ニ亂レ失フ所多ク得ル所少キヲ悲ミ。閑居ノ爲ニ世ノ惡例ヲ見ルコトナキニ從ツテ善例ニ勵マサル、コトモ亦チキチ思ヒ。社交ノ利害ヲ比較スルコト既

ニ日アリシガ今ヤ大ニ悟ル所アリ則チ明日ヲ期シテ將ニ再ビ世ニ出デムトス。蓋シ幽棲閑居ノ身ハ實ニ難澁ニシテ而カモ決シテ心神安ラカナルモノニアラザルナリ」ト

皇子等隱士ノ決心ヲ聞キテ驚異轉々措ク能ハザリシト雖モ少時欲口ノ後チ共ニ措露ニ行カムコトヲ勸誘セリ隱士乃チ其意ヲ領シ岩石ノ間ニ埋藏シタル巨額ノ財貨ヲ掘出ダシテ皇子等ニ伴ハレ旅途ニ就ク、既ニシテ措露ニ近ヅクヤ隱士恍惚トシテ之ヲ望メリ」

### 第二十二章

#### 生活ノ幸福ハ自然ニマデ從フコトヲ導キシ

則世拉斯ハ學ビタル人其人ハ彼等ノ心ヲ打明ケルベク定メラレタル時ニ於テ出世會ヒシ而シテ彼等ノ意見ヲ比較スル所ノ學ビタル人ノ會合ニマテ屢々行キシ。彼等ノ仕方ガ稍々不作法アリシ乍併彼等ノ會話ハ教訓トナルモノテ而シテ彼等ノ議論ハ精細デアリシ縱令時トシテハ餘リ暴烈テ而シテ屢々執レモノ論議者ガ如何ナル問題ノ上ニ彼等ガ始メシカヲ記憶セザリシマテ續ケシ。若干ノ過失ガ彼等ノ間ニ殆ンド一般デアリシ各ノ人が爾余ノモノニマテ下知スベク顯フデアリシ而シテ各ノ人ガ昇マレタル他者ノ才能若クハ智識ヲ聞クベク樂マレサレテアリシ。

此會合ニ於テラセラヌハ隱者ト彼ノ内見ヲ語シツ、アリシ而シテ驚異其ヲ以テ彼ガ左様ニ謹慎シテ探ビタリシ而シテ左様ニ學ムベク從ヒシ所ノ生活ノ進ミヲ非難セル彼ヲ聞キシ所ノ驚異ヲ語シツ、アリシ。聽者ノ感情ガ種々デアリシ。或者



ハ彼ノ撰擇ノ無智ガ永久ノ深塊リニマテ成刑ニ依ツテ正當ニ罰セラレテアツタ  
 リシトノ意見ニ就テアリシ。彼等ノ間ノ最若キ者ノ一人ハ大ナル猛烈ヲ以テ虚飾  
 者ト彼ヲ公言セシ。或者ハ一個人ノ勞働ニマテ社會ノ正道ニ就テ話セシ而シテ義  
 務ノ見放シトシテ退隱ヲ考ヘシ。他者ハ容易ニ其處ニ公ノ要求ガ満足サレテアリ  
 シ而シテ人ガ彼ノ生活ヲ考合シ而シテ彼ノ心ヲ純粹ニスベク彼自身ヲ適當ニ還  
 サケ得シ時ノ時節ガアリシ事ヲ許容セシ。漸余ノ者ヨリハ尙多ク談話ヲ以テ感セ  
 ラレテ見エシ所ノ一人ハ隱者ガ僅ノ年ニ於テ彼ノ退隱ニマテ還リ而シテ若シモ  
 耻辱ガ制限シナサリシ若クハ死ガ彼ヲ取押ヘナサリシナラバ最一度彼ノ退  
 隱カラ世界ニマテ還ルデアラウトノ其ヲ實ラシク考ヘシ。彼ハ云ヒシ「幸福ノ希望  
 ニ向ツテ最長キ經驗ガ其ヲ拭去スベク適當デアラヌトホド左様ニ服ク押付ケラ  
 レテアル。現在ノ有様ニ就テ其ガ何デアリ得ルトモ予輩ハ不幸ヲ感シ且懺悔スベ  
 ク廻マラレテアル而カモ同シ有様ガ再ビ隔リニ於テアル時ニ想像ガ願フベクド  
 シテ其ヲ描ク。作併願望ガ最早予輩ノ苦惱デアラヌデアラウト而シテ一ツノ人ガ彼  
 自身ノ過失ニ依ツテノ外離濫サレテアラヌデアラウト時ノ時節ガ曉ト來ルデアラ  
 ウト」  
 大ナル短慮ノ表示ヲ以テ彼ヲ聞キタリシ所ノ哲學家ガ云ヒシ「之レガ才智ナル人  
 ノ現在ノ境遇デアアル。雖モガ彼自身ノ過失ニ依ツテノ外離濫サレテアラヌ時ノ時

節ガ既ニ來ツテアル。天然ガ予輩ノ遠シノ内ニ信切ニ置イタ所ノ幸福ヲ逐フテ吟  
 味スベキヨリハ何モガ尙多ク感觸デアラヌ。幸福デアアルベキ道ハ天然ニマテ從ヒ  
 ツ、住ムベクアル。宇宙ノ且ツ不替ノ法律其ヲ以テ各ノ心ガ原ト押付ケラレテア  
 ル所ノ其宇宙ノ且不替ノ法律ニマテ從順ニ於テ住ムベクアル。其ガ命令書ニ依ツ  
 テ其ノ上ニ書カレテアラヌ作併天運ニ依テ印行サレテアル所ノ教育ニ依テ教ヘ  
 込マレヌ作併予輩ノ稟性ニ於イテ浸込マレテアル所ノ其宇宙ノ且不替ノ法律ニ  
 マテ從順ニ於テ住ムベクアル。天然ニマテ從ヒツ、住ム所ノ彼ハ望ノ欺キ若クハ  
 願ノ夏蠅キトカラ何物ヲモ惱マヌデアラウト。彼ハ性情ノ一様ヲ以テ受領及ヒ拒否  
 スルデアラウト而シテ事物ノ道理ガ輪番ニ命令ヲ與フルデアラウトシテ働キ或ハ  
 耐ユルデアラウト。他ノ人ガ緻密ナル定義若クハ混雜ナル推斷ヲ以テ彼等自身ヲ樂  
 マセ得ル。彼等ヲシテ尙容易ナル方便ニ依テ才智デアアルベク學マシメヨ。彼等ヲシ  
 テ林ノ牝鹿及ビ森ノ「子ツト」ヲ注目セシメヨ。彼等ヲシテ動物ノ生活ヲ考察セ  
 シメヨ。其物ノ運動ガ天性ニ依テ整理サレテアル。彼等ハ彼等ノ導ニ從フ而シテ幸  
 福デアアル。其故ニ予輩ヲシテ遂ニ爭論スベク止メ而シテ生活スベク學マシメヨ。彼  
 等其人ハ左様ニ多クノ自負及ビ華飾ヲ以テ彼等ヲ發言スル所ノ彼等ガ了解シナ  
 サヌ所ノ先例ノ取乱ダシヲ放棄シ而シテ——天然カラノ取違ヘハ幸福カラノ取  
 違ヘデアアル所ノ——此簡單ナル且ツ理解シ易キ格言ヲ予輩ト共ニ運バシメヨト



彼が話シタリシ時ニ彼ハ温和ナル風采ヲ以テ彼ノ周リヲ眺メシ而シテ彼自身ノ  
 恩恵ノ知覺ヲ樂ミシ○大ナル程能サテ以テ皇子ガ云ビシ「君ヨ子ハ」人類ノ爾餘ノ者  
 ノ總テノ如ク「塵世ニ就テ願ハシクアル子ノ最モ加減シタル注意ガ汝ノ談論ノ上  
 ニ定メラレタ子ハ左様ニ學ビタル人ガ左様ニ大膽ニ進ムダ所ノ位地ノ真理ヲ疑  
 ハス——子ヲシテ唯ダ天然ニマテ從ヒツ、住ムベク其ガ何テアルカヲ知ラシメ  
 ヲト

哲學家ガ云ヒシ「子ガ左様ニ賤シキ且左様ニ汲々タル若キ人ヲ見出ダス時ニ子  
 ハ子ノ研究ガ與フルベク子ヲ適當ニシタ所ノ一ツノ告知ヲ彼ニ拒ミ能ハス——  
 天然ニマテ從ヒツ、生活スル「ガ常ニ原因及ビ結果ノ關係及ビ性質カラ起ル所  
 ノ適當ニマテ歸セラレタル尊敬ヲ以テ働クベクアル宇宙ノ快樂ノ大ナル且不變  
 ナル摸範ヲ以テ一致スベク事物ノ現在ノ組織ノ一般ノ質及ビ意向ヲ以テ助カス  
 ベクアルト

皇子ガ直ニ之ガ賢哲ノ一人其者ヲ彼ガ尙長ク彼ヲ聞キシ時ニ彼ガ尙ホ慥カ了解  
 スルデアラウ所ノ一人デアリシ「ヲ見出セシ」其故ニ彼ハ屈身セシ而シテ無言テ  
 アリシ而シテ満足サレテ彼ヲ想像スル所ノ而シテ打勝タレテ爾餘ノ者ヲ想像ス  
 ル所ノ哲學家ハ起上リ而シテ現在ノ組織ヲ以テ助カシタリシ所ノ人ノ風采ヲ以  
 テ出發セシ

其貳拾貳 人生ノ幸福ハ自然ニ從フニアルノ辨

當時學者相集ツテ互ニ胸襟ヲ開キ意見ヲ比較スルノ一會アリ皇子屢々此會ニ臨ム。蓋シ該  
 會ノ學者輩ハ舉措稍々優雅ナラザル所アリト雖モ其所談ハ採ツテ以テ世ノ教訓トナスベク  
 其議論ハ頗ル綿密周到タルニ由リ時ニ辨難論駁酷ダ暴劇ニ涉リ屢々論者各自其爭點ノ起原  
 ナ忘ル、ニ至ル事アリ。是等ノ學者諸輩彼此幾モ「一般ニ若干ノ缺點ヲ有シ以テ孰レヲ俊  
 秀ト定メ難カルヨリ互ニ已レ特ニ挺ツテ、該會ノ牛耳ヲ執ラムコトヲ冀ヒ從ツテ各自、他  
 者ノ才能及ビ學識上排斥ヲ蒙リタルコトアルヲ聞キテ以テ喜ベリ。

皇子一日該會ニ臨ミタル席上、曩キニ隱士ト對顔シタル當時ノ所聞ヲ奇シク且ツ語リテ曰  
 ク渠ノ隱士ハ其深ク謹慎シテ撰擇シタル處世法ニ身ヲ委ネ而カモ自ラ之ヲ非難セリト而シ  
 テ其所謂隱士ノ處世法及ビ其他ノ狀況ヲ悉ニ談シ示シケルガ之ヲ聽キタル學者諸輩ハ其感  
 ズル所彼此異様ナリキ。斯チ甲ハ宣言スラク渠ノ隱士ガ擇取セル處世法ハ其當ヲ失スルモ  
 ノニシテ爲メニ長ク難澁ニ耐エザルヲ得ザルノ當然ナル辭ヲ蒙リタルナリト。乙ハ曰ク是  
 虛飾者タルノミト蓋シ乙ハ席上年齒最モ少壯ナル一人ニシテ其之ヲ發言セル時語調頗ル劇  
 烈ナリキ。丙ハ其考フル所ヲ舒ベテ曰ク凡ソ個人ノ勞働ハ社會ノ正道ニシテ各自之ヲ執ラ  
 ザルヲ得ザルノ義務アルモノナルニ當リ。是ニ盡スベキヲ盡サズシテ身ヲ閑地ニ退クル如キハ  
 是則チ義務ヲ放棄シタルモノト謂フベシト。丁ハ曰ク人ノ終世中既ニ社會ノ義務ヲ果タシ而  
 シテ既往ノ閱歷ヲ追考シ高蹈勇退其心ヲ純潔ニスベキ時期アルモノニシテ一旦此時期ニ遇







皇子之ヲ聞クヤ直チニ此哲學家ハ是漸ク其説ヲ聽クニ從ヒ漸ク之ヲ解ス能ハザルニ至ルノ  
學者ノ一人ナルヲ知リタルヲ以テ唯首ヲ俛レタルノミ敢テ一言ノ答辭ヲモ發セザリシガ哲  
學家ハ之ヲ見テ其所説ニ満足シタルモノト想像シ且爾他ノ諸輩モ亦皆其理ニ服シタルモノ  
ト自認シ則チ席ヲ離レ、唯我獨醒ノ風采ヲ以テ悠然會場ヲ去レリ。

第二十三章

皇子及び彼ノ妹ガ觀察ノ事業ヲ彼等ノ間ニ別ツ

則世拉斯ハ如何ニ彼ノ未來ノ處置ヲ指向クベキカヲ疑ヒテ反想ニ付テ滿チテ家  
ニ歸リシ。幸福ノ道ニマテ彼ハ一様ニ無智ニ學ビタル及ビ質朴ヲ見出セシ、乍併彼  
ガ尙若クアリシトシテ彼ハ彼ガ尙多クノ經驗及ビ尙蓋カノ吟味ニ向ツテ發ル所  
ノ時ヲ持チシヲ彼自身氣休メセシ。彼ハ彼ノ觀察及ビ彼ノ疑ヒチイムラツクニ  
マテ配分セシ乍併新シキ疑ヒチ以テ彼ニ依テ答ヘラレテアリシ、而シテ一ツノ愉  
快ヲ彼ニ與ヘザリシヲ注目スル。其故ニ彼ハ尙多ク歴々且ツ自由ニ彼ノ姉妹其  
人ハ尙彼自身ト同シ希望ヲ持チシ、而シテ縱令彼ガ爾來空シウセラレタリシトハ  
云ヘ何故ニ彼ガ遂ニ成功シ得シカノ或道理ヲ與フルベク常ニ彼ヲ助ケタリシ所  
ノ姉妹ト談話セシ。

彼女ハ云ヒシ爾來予輩ハ世界ニ付テ唯唯カチ知ツタ、予輩ハ決シテ未ダ偉大カ或  
ハ昇騰カ執レカデアラナシ。縱令予輩ハ王族ヲ持チシトハ云ヘ予輩自身ノ國ニ  
於テ予輩ガ一ツノ効力ヲ持タザリシ、而シテ此ニ於テ予輩ハ未ダ家内ノ平和ノ私

ノ隱所ヲ見ナシ。イムラツクハ予輩ガ早晩誤リテ彼ヲ見出スデアラウヲ一チ恐レ  
テ予輩ノ探索ヲ思マヌ。予輩ハ予輩ノ間ニ事業ヲ別ツテアラウ汝ハ朝廷ノ壯麗ニ  
於テ見出サレテアルベクアル所ノモノヲ試ムルデアラウ、而シテ妾ハ尙賤シキ生  
活ノ隘ヲ逍遙スルデアラウ。蓋シ司令及ビ主權ハ彼等ガ善ヲ爲スノ最モ多クノ  
機會ヲ與ヘシトシテ卓越ナル幸ヒテアリ得ル若クハ蓋シ此世界ガ與ヘ能フ所ノ  
モノハ洪水ナル企圖ニ向ツテハ餘リ低ク、而シテ困究及ビ不幸ニ向ツテハ餘リ高  
キ中道ノ幸運ノ程能キ住所ニ於テ見出サレ得ルト。

其貳拾參 皇子其妹ト觀察ノ事業ヲ分擔ス

皇子會場ヲ出テ將來如何ナル方向ヲ執ルベキカヲ疑感シ反想胸ニ充テテ旅寓ニ還リヌ。當  
時獨リ惟ヘラク幸福ヲ享受スベキ方法ニ關シテハ學者無學者共ニ等シク之ヲ知ラザルナリ  
然レドモ我幸ヒニ春秋ニ富ム爾來幾多ノ經驗深奥ノ探究ヲ積ムベキ餘生アルアリト以テ自  
ラ慰メ其觀察ノ頗未ト疑感ノ條件トナイムラツクニ告ゲタリシガ其答フル所却ツテ更ニ疑  
感ヲ來タシ毫モ満足ノ果ヲ見ルコトナシ。是ヲ以テ皇子ハ前ニ倍シテ屢々皇女ト膝ヲ交ヘ  
前ニ倍シテ愈々留意ナク之ト語レリ蓋シ皇女ハ尙皇子ト同一ノ希望ヲ有シ加フルニ皇子ノ  
探究幸ニ徒勞ニ歸セシトハ云ヘ早晚成功ノ日ニ遇フベキ理アルヲ説キ常ニ皇子ノ素望ヲ助  
ケツ、アリタリ。今皇女ハ云ヒヌ「妾等世事ヲ知ルコト極メテ淺ク未ダ決シテ顯地ヲ占メ  
ズ又卑賤ニ陥ヒラザルナリ。縱令身ハ皇家ニ生ルト雖モ而カモ本國ニ在ツテ毫モ權力ヲ有



セズ今此國ニ在ツテ尙一家平和ノ内情ヲ見ズイムラツクハ早晚妾等ガ其身ヲ誤認セルヲ  
 發見セルノ日アラムヲ慮リ敢テ探究ノ便宜ヲ與ヘズ。於此乎妾ハ阿兄ト妾トノ間ニ探究ノ  
 事業ヲ分擔セムトス阿兄幸ヒニ之ヲ容レナハ請フ權門大家ノ豪壯ナル内情ヲ探レ妾ハ自ラ  
 劣等社會ノ情况ヲ觀察スベクム。蓋シ權門大家ハ其命令ト管治トノ威力ヲ以テ最モ能ク善  
 事ヲ行フノ機會アルベカレハ其幸福ヤ超絶タラム或ハ此世ノ賦與シ得ル幸福ハ權貴ニアラ  
 ズ卑賤ニアラズ則チ中道ノ生計ヲ營メル其社會ニ之ヲ發見シ得ベクムカ今此分擔探究ノ結  
 果ハ必ズヤ其兩者ニ應フベキナリト

第二十四章

皇子高貴ノ位地ノ幸福ヲ檢ス

刺世拉斯ハ企圖ヲ賞讃セシ而シテ翌日「バツサ」ノ朝廷ニ於テ壯麗ナル粧飾ヲ以テ  
 顯ハレシ。彼ハ速ニ彼ノ華麗ニ向ツテ區別サレテアリシ而シテ皇子其人ノ好奇心  
 ガ大ナル役人ト親睦ニマテ而シテ「バツサ」彼自身ト歐次ナル會話ニマテ懸隔シタ  
 ル國カラ彼ヲ持來ツタリシ所ノ皇子トシテ許サレテアリシ。  
 彼ハ最初人ガ彼自身ノ位置其者ヲ總テガ尊敬ヲ以テ近寄りシ而シテ從順ヲ以テ  
 聞キシ所ノ彼自身ノ位置而シテ其ガ全王國ニマテ彼ノ命令ヲ流布スベキ權力ヲ  
 持チシ所ノ彼自身ノ位地ヲ以テ樂マサレテアラキナラヌトチ信スベク願カサ  
 レテアリシ  
 彼ハ云ヒシ「其處ニ才智ナル管治ニ依ツテ總テチ幸福ニナレタル數千ノ快樂ヲ以テ

度ニ感ズル」ノ其ニマテ一様ナル一ツノ快樂ガアリ能ハヌ尙從屬ノ法律ニ依ツ  
 テ此高大ナル快樂ガ一人ノ運命ノ外一ツノ國民ニ於テアリ能ハヌ以來其處ニ尙  
 多ク人盛ナル且ツ受納スベキ或満足ガアル事及ビ數百萬ガ唯分配スヘカラザル  
 満足ヲ以テ彼ノ格段ナル胸ヲ滿タスベク單一ナル人ノ意志ニマテ辛シテ從ヘラ  
 レテアリ能フ事ヲ考フルベク其ガ確ニ合理スベクアルト是等ノ思考ガ屢々彼ノ  
 心ニ於テアリシ而シテ彼ガ困難ノ一ツノ解明ヲ發見セサリシ。乍併購物ト而シテ  
 體體ガ尙多クノ親密ニ彼ヲ得シトシテ彼ハ願ニ於テ高ク立チシ所ノ幾ンド各ノ  
 人ハ總テ爾余ノ者ヲ嫉惡セシ而シテ彼等ニ依ツテ嫉惡サレテアリシ事及ビ彼等  
 ノ生活ハ陰謀及ビ擧發謀計及ビ逃走徒黨及ビ擧謀ノ不斷ノ引續テアリシ事ヲ見  
 出セシ「バツサ」チ國繞セシ所ノ其等ノ多クハ唯彼ノ行爲ヲ看守シ且報告スヘク送  
 ラレテアリシ各ノ舌ハ喃々スル所ノ非難テアリシ而シテ各ノ眼ハ過失ニ向ツテ  
 探索シツ、アリシ。

遂ニ召還ノ書面ガ到着セシ「バツサ」ガコンスタンチンノ「ブル」ニマテ續ニ於テ運  
 マレテアリシ而シテ彼ノ名カ最早記載サレテアラザリシ。  
 彼ノ妹ニマテ刺世拉斯ガ云ヒシ「權力ノ特權ニ就テ何カ予輩ガ今考フルヘクアル  
 カ其ガ等ニマテ或働キナシニアルカ。若クハ從屬ノ度ガ唯危險ヲ而シテ高貴ガ安  
 全ヲ而シテ光榮アルカ。」サルタンハ彼ノ版圖ニ於テ唯一ノ幸福ナル人デアアルカ



若クハ「ザルタン」彼自身嫌疑ノ苦痛及ビ仇敵ノ畏懼ニマテ從屬シテアルカト  
暫時ニシテ第二ノ「ハツサ」が擯黜サレテアリシ彼ヲ進メタリシ所ノ「ザルタン」モ歩  
兵ニ依テ殺戮サレテアリシ而シテ彼ノ相續者ハ他ノ見解ト而シテ異リタル親愛  
者ヲ持チシ。

其貳拾四 皇子權地ノ幸福ヲ檢ス

皇子皇女ノ畫策ヲ賞賛シ乃チ翌日美裝ヲ整ヘテ在埃國土耳其其政廳ニ出頭シケルガ。其服粧  
ノ華麗燦爛タルモノ直チニ衆人ノ着目スル所トナリ遠來ノ皇族ト認メラレテ在廳ノ顯官等  
ト接シ且「ハツサ」則チ長官ト親シク語ヲ交フルヲ得タリ。

其始メ皇子ハ惟ヘラク萬人ノ尊敬ヲ受ケ云フ所都テ行ハレザルナク且自ラ全國ニ布令シテ  
之ヲ遵奉セシムルノ實權ヲ有スル人ハ必然其境遇ヲ喜ブベキナリト而シテ曰ク「世上快樂  
ノ種類其數渺ナシトセザレドモ善政ヲ施シテ萬民其德澤ニ沾ヒ欣舞雀躍之ヲ頌スルヲ見ル  
ノ至愉至快ナルニ如クモノアラザルナリ。然リト雖モ法令ヲ布キテ管下ヲ統御スルノ此至  
大ナル快樂ハ僅ニ是一國中一人ノ幸運タルニ過ギズシテ爾他衆庶ノ共受スベキニアラザル  
ヲ以テ更ニ衆望アル且意向ニ適合スベキ幸福ノ世ニ存在スル事ヲ考ヘ又數百萬ノ蒼生ヲシ  
テ一人ノ意向ニ屈服セシメ其獨有ノ幸福ヲ以テノミ各自ノ胸裡ニ満足ヲ感セシムルハ極メ  
ヲ困難ナルベキ事ヲ察スルノ理アルナリ」ト

斯ル思想ハ屢々皇子ノ心頭ニ往來シ而シテ其疑團ヲ溶解スベキ一事ヲモ發見スル能ハザリ

シガ。苞直チ行ヒ禮儀ヲ厚フシタル結果ハ皇子ヲシテ在廳ノ貴官ト更ニ一層ノ親密ヲ得セ  
シメタルニ及ビ皇子乃チ其看察ヲ細カニシテ高職ニアルモノハ其部下ヲ惡ミ從ツテ其身亦  
部下ニ惡マレ陰謀、摘發、詭計、逃避、結黨、欺騙絶エズ行ハレ、「ハツサ」ノ從吏中多クハ其行  
爲ヲ監視シ以テ之ヲ本國政府ニ報道セム爲ニ派遣セラレタルモノニシテ各人ノ舌ハ常ニ非  
行ヲ喃々シツ、各人ノ眼ハ斷エズ過失ヲ探リツ、アルノ内情ヲ認メ得タリ。

皇子斯ク看察ヲ凝ラセル間遂ニ土耳其政府ヨリ召喚ノ令書來着シテ「ハツサ」ハ捕囚ノ身ト  
ナリコンスタンティノープルニ縛送セラレ其職ヲ罷免セラル。於此乎皇子ハ其妹ニ謂ツ  
テ曰ク「嗚呼有力者ノ特權夫レ果シテ何モノゾヤ。依テ以テ善事ヲ行フノ作用ヲキカ。從  
徒屬階唯リ危険ニシテ尊貴ナルモノ安全ト光榮トヲ專有スルカ。抑モ土國皇帝ハ其版圖内  
獨一ノ幸福者タルヤ將亦疑惑ニ惱ミ讐敵ニ恐ル、ノ人ナルヤ」ト

其後未ダ幾クナラズシテ後任ノ「ハツサ」モ亦其職ヲ解カレ之ヲ擢用シタル皇帝モ歩兵ノ統

州領ノ副王若クハ知事或ハ將軍等ニモ授ケラル、ナリ *Bassa* 現今ハ多ク *pasha*  
ト云フ

*Constantinople* 土耳其ノ帝都ナリ  
*Janizary* 土耳其歩兵ノ核實ト稱セラレタル特許武階ノ兵士ニシテ一千八百二



十六年ニ際止サレタルモノナリ。

百五十四

版權登錄

刺世拉斯史釋義上卷終

明治二十六年三月三十日印刷  
同 年四月廿日出版

定價拾五錢

著作者

河田 泰之助

京都府下丹後國加佐郡河守町  
大字波美六番戶

發行者

河合 卯之助

京都市上京區寺町通二條下ル  
妙滿寺前町十番戶

印刷者

瀬戸 清次郎

大阪市西區靱下通二丁目  
四十八番屋敷

版權所有



(各府縣大發賣所)

東京日本橋通一丁目	全	全區大傳馬町三丁目	全	神田區東神保町	全	神田區東神保町	全	神田區東神保町	全	神田區今川小路	全	神田區東神保町	全	神田區小川町	全	大阪備後町四丁目	全	安土町四丁目	全	北久太郎町四丁目	全	南久寶寺町四丁目	全	心齋橋北詰	全	本町四丁目	全	北久寶寺町四丁目	全	安土寺町四丁目	全	上洲高崎	全	上洲前橋	全
六倉孫兵衛	犬草松榮堂	三省堂	開新堂	富山房	金剛源次	中西屋書店	日進堂	梅原龜七	吉岡平助	積善館	柳原喜兵衛	岡本仙助	前川善兵衛	中村芳松	岡島真七	隈本伊三郎	青木嵩山堂	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店	煥平堂書店		
名古屋市本町	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全		
小澤吉三郎	若山大成堂	梶田勸助	淺見文四郎	大橋甚吾	中田甚吾	雲根堂	池崎善平	岡崎與兵衛	岡崎右喜助	品川為吉	長崎次郎	積善館支店	坂井萬吉	吉田幸兵衛	川崎清助	武内彌三郎	島村專助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助	古川伊助		

河合文港堂

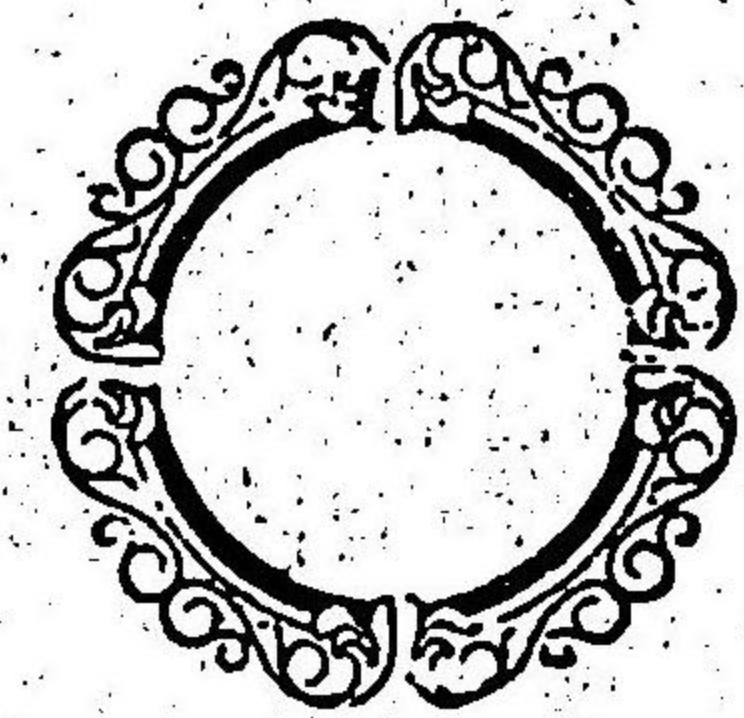
正統金...

...

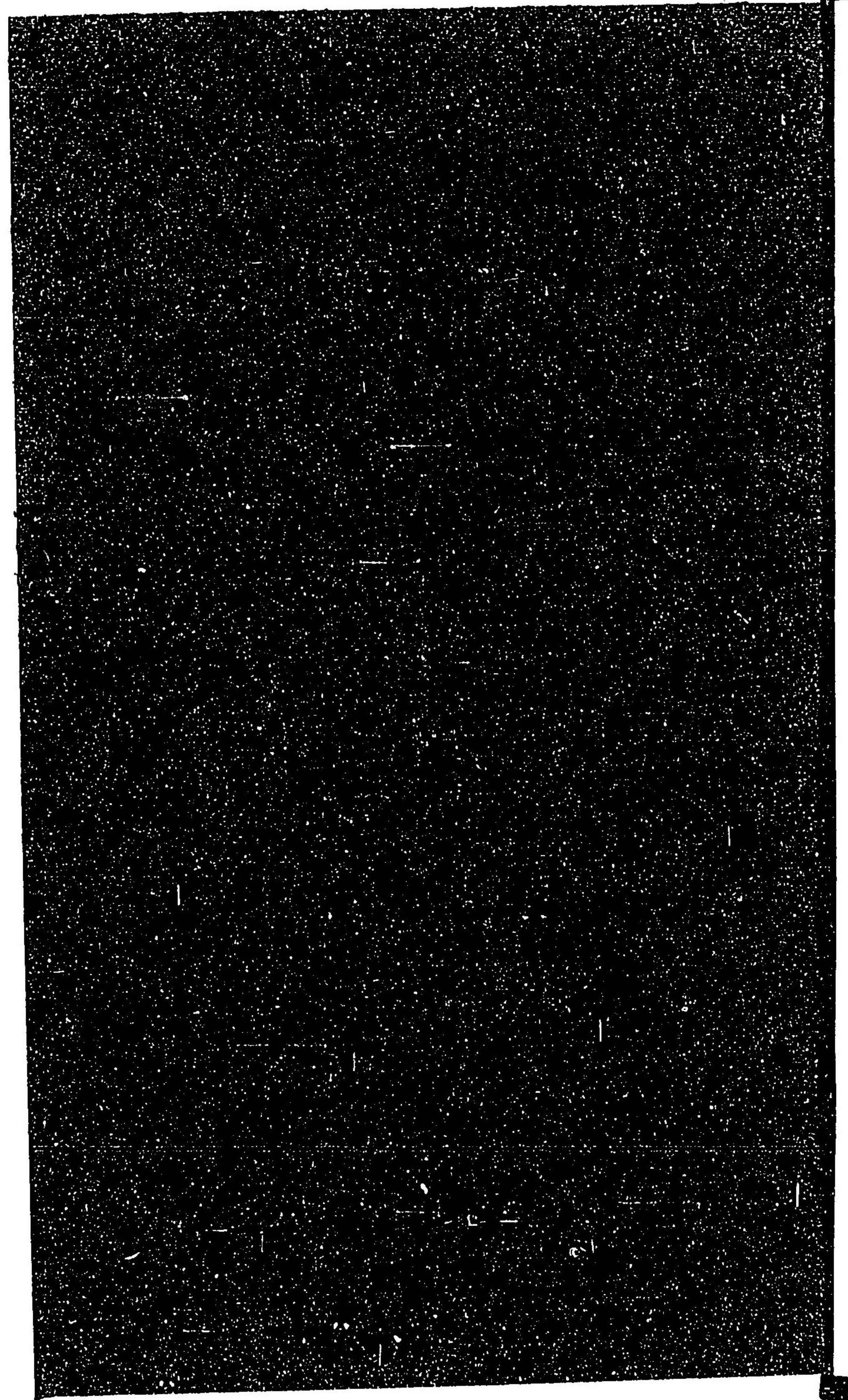




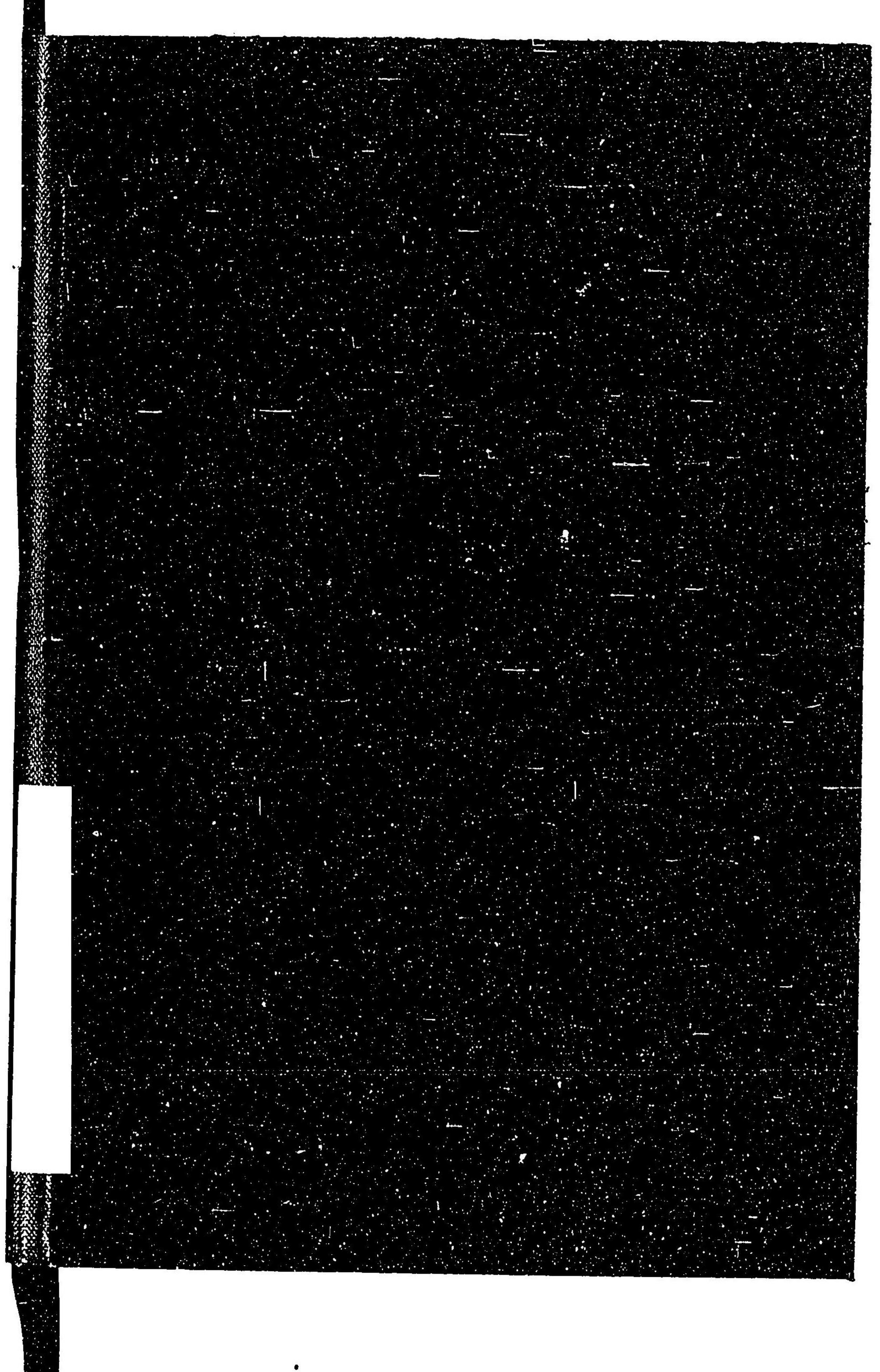














特20  
461

亞比斯尼亞國皇子刺世拉斯史叙義

上

国立国会図書館

003493-001-6

特20-461

亞比斯尼亞國皇子刺世拉斯史叙義

如温遊/著

上

M26, 27

ACD-0002

